

令和3年度

植物防疫事業年報

令和4年(2022年)3月

滋賀県病害虫防除所

目次

第1	病害虫防除所事務分掌表	1
第2	病害虫発生予察事業	
1	事業の目的	3
2	事業の実施概要	3
3	気象概況	6
4	普通作物病害虫発生予察事業	
(1)	イネ	7
(2)	ムギ	33
(3)	ばれいしょ	36
(4)	ダイズ	37
5	野菜（露地）病害虫発生予察事業	40
6	果樹・チャ・花き病害虫発生予察事業	
(1)	果樹	55
(2)	チャ	63
(3)	花き（キク）	72
7	病害虫防除推進員	73
8	滋賀県病害虫防除所ホームページ	74
9	本年度新たに発生が確認された病害虫	75
10	病害虫の診断および生態調査	76
第3	重要病害虫の特別防除等推進事業	
1	チチュウカイミバエの侵入警戒調査	80
2	その他病害虫の侵入警戒調査	80
第4	農薬安全使用等総合推進事業	
1	農薬安全使用対策	81
2	農薬販売者の届出状況	81
3	農薬取扱者への巡回点検・指導の結果	81
第5	病害虫発生予察情報発表内容	
1	予報	82
2	注意報および警報	93
3	特殊報	95
4	防除情報	97
5	事務連絡	104
第6	試験成績	106

注：本文中の「平年値」とは、特に記載のない限り平成23年から令和2年の平均値を指す。
表中の「－」は、データの欠測または該当なしを示す。

病虫害防除所 事務分掌表

(令和3年4月1日)

所次 長 鳥塚 智
 長 小久保 信義

分 掌 事 務	主 任	副 主 任
1. CO ₂ ネットゼロに向けた事務事業の推進に関する事	全職員	
1. 所事務の総括に関する事 2. 関係機関および団体との連絡調整に関する事 ----- 3. 植物防疫事業に関する事 4. 予察情報作成会議に関する事	小久保 次 長	金子 主 幹 廣田 主 事 ----- 近藤 主 査
1. 公印の管理に関する事 2. その他庶務に関する事	廣田 主 事	山本 主 事
1. 予算の執行および決算に関する事 2. 諸給与・その他経理に関する事 3. 文書の收受編さんに関する事	山本 主 事 植田 主 事	宇野 副主幹 廣田 主 事
1. 病虫害発生予察の計画および情報作成に関する事 2. 病虫害防除推進員に関する事	近藤 主 査	金子 主 幹 小幡 技 師
1. 農薬取締法に関する事 2. 作物の発生予察に関する事	金子 主 幹	近藤 主 査 柴田 主任技師 増田 主任技師
1. 地域発生予察の取りまとめに関する事 2. 薬剤抵抗性害虫検定および虫害の診断に関する事 3. 病虫害の効率的防除体制の再編委託事業に関する事	近藤 主 査	増田 主任技師 北野 技 師
1. 病害の診断に関する事 2. 薬剤耐性菌検定に関する事	柴田 主任技師	金子 主 幹 小幡 技 師
1. 予察灯およびトラップ調査等に関する事 2. ホームページ等による情報提供に関する事	増田 主任技師	近藤 主 査 柴田 主任技師
1. いもち病発生予察システムに関する事	小幡 技 師	金子 主 幹 柴田 主任技師
1. 病虫害発生量の調査報告に関する事 2. 総合的病虫害管理(IPM)の推進に関する事 3. 温暖化に伴う病虫害防除対策技術に関する事	北野 技 師	増田 主任技師 柴田 主任技師
1. 果樹の発生予察事業および防除に関する事	杉浦 技 師	増田 主任技師
1. 茶の発生予察事業および防除に関する事	松本 技 師	近藤 主 査
1. 県南部地域における発生予察事業に関する事	近藤 主 査	北野 技 師
1. 大津・南部地域の病虫害発生情報収集および防除指導に関する事 ----- 2. 甲賀地域の病虫害発生情報収集および防除指導に関する事	山田 技 師 ----- 小椋 技 師	近藤 主 査 北野 技 師
1. 県中部地域における発生予察事業に関する事	金子 主 幹	増田 主任技師
1. 東近江地域の病虫害発生情報収集および防除指導に関する事 ----- 2. 湖東地域の病虫害発生情報収集および防除指導に関する事	田中 技 師 ----- 橋本 副主幹	金子 主 幹 増田 主任技師

1. 県北部地域における発生予察事業に関すること	小 幡 技 師	柴 田 主任技師
1. 湖北地域の病害虫発生情報収集および防除指導に関すること	國 島 技 師	柴 田 主任技師
2 高島地域の病害虫発生情報収集および防除指導に関すること	井 田 主 査	小 幡 技 師

第2 病害虫発生予察事業

1 事業の目的

農作物の生産安定と品質の向上を図ると同時に環境に優しい病害虫防除を推進するためには、病害虫の防除を適時かつ効率的に行う必要がある。

このため、発生予察事業は広域に発生し、急激にまん延して農作物に重大な被害を与える病害虫について、その発生動向等を調査し、防除を要する病害虫や防除対策に関する情報を農業者等に提供することにより、病害虫の防除を効果的かつ効率的に適期に行い、その被害を防止して農業生産の安定と助長を図ることを目的とする。

2 事業の実施概要

(1) 事業対象作物および病害虫（指定有害動植物は交付金の対象）

作物	対象作物	指定	有害動植物名	
		指定外	病害	虫害
普通作物	イネ	指定	いもち病、紋枯病、稲こうじ病、もみ枯細菌病（苗腐敗病）、ばか苗病、縞葉枯病	イネミズゾウムシ、ニカメイガ、ヒメトビウンカ、セジロウンカ、トビイロウンカ、ツマグロヨコバイ、斑点米カメムシ類（ホソハリカメムシ、トゲシラホシカメムシ、クモヘリカメムシ、ミナミアオカメムシ、アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、イネカメムシ、コバネヒョウタンナガカメムシ）、コブノメイガ、フタオビコヤガ
		指定外	白葉枯病、黄萎病、ごま葉枯病	イネドロオイムシ、イチモンジセセリ、コバネイナゴ、イネクロカメムシ
	ムギ	指定	うどんこ病、赤かび病	-
		指定外	さび病類、黒節病、縞萎縮病	-
	ダイズ	指定	-	アブラムシ類（モモアカアブラムシ、ワタアブラムシ、ダイコンアブラムシ、ニセダイコンアブラムシ、ジャガイモヒゲナガアブラムシ）、吸蜜性カメムシ類（ホソヘリカメムシ、イチモンジカメムシ、アオクサカメムシ）、ハスモンヨトウ※、オオタバコガ※
		指定外	べと病、葉焼病	フタスジヒメハムシ、ハダニ類
野菜	トマト	指定	灰色かび病、疫病、葉かび病	アブラムシ類（モモアカアブラムシ）、ハスモンヨトウ※、コナジラミ類（タバココナジラミ、オンシツコナジラミ）、オオタバコガ※
		指定外	-	タバコガ類（オオタバコガを除く）
	ナス	指定	うどんこ病、灰色かび病	アブラムシ類（モモアカアブラムシ、ワタアブラムシ）、ハスモンヨトウ※、ハダニ類（カンザワハダニ、ナミハダニ）、アザミウマ類（ミナミキイロアザミウマ）、オオタバコガ※
		指定外	-	ニジュウヤホシテントウ類、タバコガ類（オオタバコガを除く）
	ばれいしよ	指定	疫病	アブラムシ類（ワタアブラムシ、ジャガイモヒゲナガアブラムシ）、ハスモンヨトウ※
		指定外	-	ニジュウヤホシテントウ類
キュウリ	指定	うどんこ病、灰色かび病、べと病、褐斑病	アブラムシ類（モモアカアブラムシ、ワタアブラムシ、ジャガイモヒゲナガアブラムシ）、アザミウマ類（ミナミキイロアザミウマ、ネギアザミウマ）、コナジラミ類（タバココナジラミ、オンシツコナジラミ）	
	指定外	-	ハダニ類	

作物	対象作物	指定	有害動植物名	
		指定外	病害	虫害
野菜	キャベツ	指定	黒腐病、菌核病	アブラムシ類（モモアカアブラムシ、ダイコンアブラムシ）、ハスモンヨトウ※、オオタバコガ※、ヨトウガ※、コナガ※
		指定外	軟腐病	タバコガ類（オオタバコガを除く）、カブラヤガ（ネキリムシ類）、モンシロチョウ、ハイマダラノメイガ
	はくさい	指定	－	－
		指定外	軟腐病	タバコガ類（オオタバコガを除く）、モンシロチョウ
	だいこん	指定	－	アブラムシ類（モモアカアブラムシ、ニセダイコンアブラムシ）
		指定外	－	ハイマダラノメイガ
	ブロッコリー	指定	－	ハスモンヨトウ※、ヨトウガ※、コナガ※
		指定外	黒腐病	－
	ねぎ	指定	さび病、黒斑病、べと病	アブラムシ類（ネギアブラムシ）、ハスモンヨトウ※、アザミウマ類（ネギアザミウマ）、シロイチモジヨトウ※
		指定外	－	－
	たまねぎ	指定	べと病、白色疫病	アザミウマ類（ネギアザミウマ）
		指定外	－	－
サトイモ	指定	－	ハスモンヨトウ※	
	指定外	－	ハダニ類	
花き	キク	指定	白さび病	アブラムシ類（ワタアブラムシ、キクヒメヒゲナガアブラムシ）、アザミウマ類（ヒラズハナアザミウマ、ネギアザミウマ）
		指定外	－	－
果樹	ナシ	指定	黒星病	果樹カメムシ類※（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）、シンクイムシ類（ナシヒメシンクイ、モモシンクイガ）、ハマキムシ類（チャノコカクモンハマキ、チャハマキ）、ハダニ類（カンザワハダニ、ナミハダニ）、アブラムシ類（ナシアブラムシ、ナシミドリアブラムシ）
		指定外	うどんこ病	ニセナシサビダニ
	ブドウ	指定	べと病、灰色かび病、晩腐病	果樹カメムシ類※（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）
		指定外	うどんこ病	カイガラムシ類（クワコナカイガラムシ）、アザミウマ類（チャノキイロアザミウマ）
	カキ	指定	炭疽病	果樹カメムシ類※（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）、カキノヘタムシガ、ハマキムシ類（チャノコカクモンハマキ、チャハマキ）、アザミウマ類（カキクダアザミウマ、チャノキイロアザミウマ）、カイガラムシ類（フジコナカイガラムシ）
		指定外	円星落葉病、角斑落葉病、うどんこ病	－
茶樹	チャ	指定	炭疽病	ハマキムシ類（チャノコカクモンハマキ、チャハマキ）、ハダニ類（カンザワハダニ）、チャノホソガ
		指定外	もち病、新梢枯死症、輪斑病	チャノミドリヒメヨコバイ、アザミウマ類（チャノキイロアザミウマ）、カメムシ類（ツマグロアオカスミカメ）、クワシロカイガラムシ、チャトゲコナジラミ

※ 作物共通の指定有害動植物については、本県での対象作物ごとに示した。

(2) 調査ほ場の設置状況

作物	対象作物	調査地点数		設置場所
		区分	地点数	
普通作物	イネ	定点	1	近江八幡市
		巡回	35	大津市(2)、草津市、守山市、栗東市、野洲市、湖南市、甲賀市(3)、近江八幡市、日野町、竜王町、東近江市(6)、彦根市、愛荘町、甲良町、多賀町、米原市(3)、長浜市(5)、高島市(4)
	ムギ	定点	1	近江八幡市
		巡回	38	大津市、草津市、守山市(2)、栗東市、野洲市(3)、湖南市、甲賀市(2)、近江八幡市(3)、日野町、竜王町(2)、東近江市(6)、彦根市(2)、愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町、米原市、長浜市(6)、高島市(2)
	ダイズ	定点	1	近江八幡市
		巡回	22	大津市、草津市、守山市(2)、栗東市、野洲市、湖南市、甲賀市、近江八幡市、日野町、竜王町、東近江市(2)、彦根市、愛荘町、豊郷町、甲良町、米原市、長浜市(3)、高島市
野菜類	-	定点	0	-
		巡回	8	草津市、野洲市、湖南市、近江八幡市、彦根市、甲良町、米原市、高島市
花き	キク	定点	0	-
		巡回	8	草津市、野洲市、湖南市、近江八幡市、彦根市、甲良町、米原市、高島市
果樹	ナシ	定点	1	栗東市
		巡回	2	東近江市、彦根市
	ブドウ	定点	1	栗東市
		巡回	2	東近江市、長浜市
	カキ	定点	1	栗東市
		巡回	2	東近江市、米原市
茶樹	チャ	定点	1	甲賀市水口町
		巡回	7	甲賀市土山町(3)、信楽町(3)、日野町

(3) 予察灯およびフェロモントラップの設置

設置場所	種類	対象害虫名
大津市 里	乾式日別予察灯	ガ類、ウンカ・ヨコバイ類、カメムシ類、イネミズゾウムシ
守山市 矢島町	乾式日別予察灯	ガ類、ウンカ・ヨコバイ類、カメムシ類、イネミズゾウムシ
栗東市 荒張	高圧水銀灯	果樹カメムシ類、ガ類
	フェロモントラップ	果樹カメムシ類、ナシヒメシンクイ、チャハマキ、チャノコカクモンハマキ
甲賀市 水口町 水口	予察灯(水盤)	チャノコカクモンハマキ、チャハマキ、チャノホソガ
	フェロモントラップ	チャノコカクモンハマキ、チャハマキ、チャノホソガ
近江八幡市 安土町大中	乾式日別予察灯	ガ類、ウンカ・ヨコバイ類、カメムシ類、イネミズゾウムシ
	フェロモントラップ	ニカメイガ、コナガ、カブラヤガ、タバコガ、オオタバコガ、ヨトウガ、ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ
	黄色水盤	アブラムシ類
長浜市 難波町	乾式日別予察灯	ガ類、ウンカ・ヨコバイ類、カメムシ類、イネミズゾウムシ
	フェロモントラップ	ニカメイガ、ハスモンヨトウ
高島市 今津町日置前	乾式日別予察灯	ガ類、ウンカ・ヨコバイ類、カメムシ類、イネミズゾウムシ
	フェロモントラップ	ニカメイガ、ハスモンヨトウ

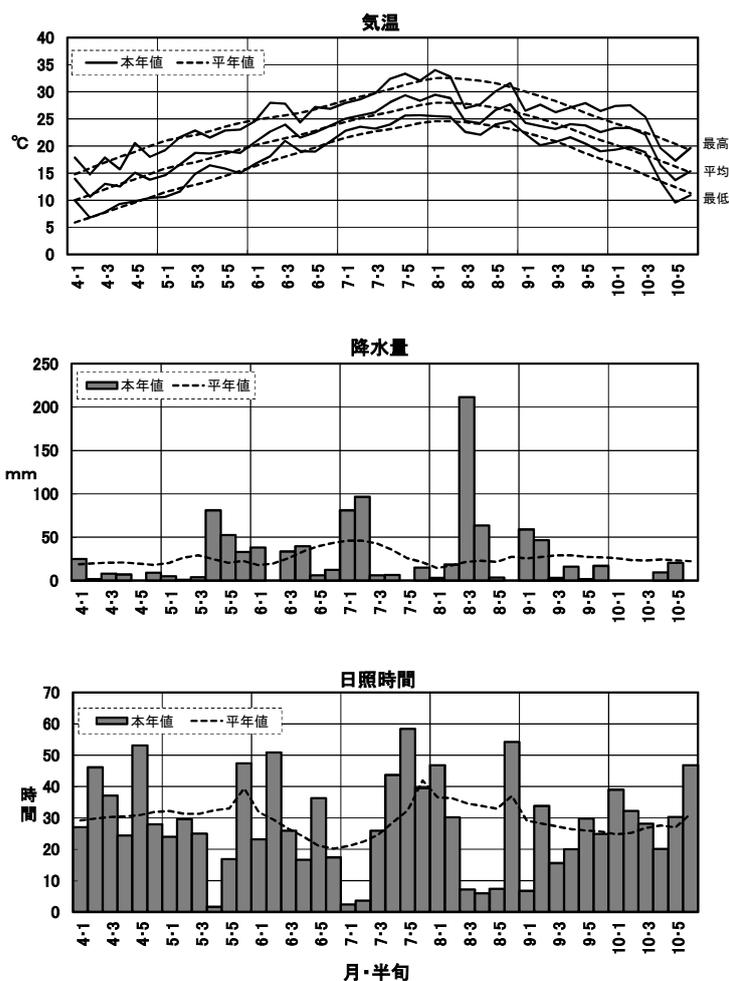
3 気象概況

(1) 年間の概況〔彦根アメダス観測値〕

- ・平均気温：15.7℃（平年値15.1℃*、R2年15.8℃）
- ・日照時間：平年比105%
- ・降水量：平年比112%
- ・年平均気温は、全般に平年より高かった。7月の気温が平年より高く推移した一方で、8月の気温は平年よりも低く推移した。また、降水量は全般に平年より多く、特に、8月の降水量が平年よりもかなり多かった。
- ・*平年値は1991年～2020年の平均

(2) 稲作期間(4月～10月)の概況〔彦根アメダス観測値〕

- ・平均気温：21.5℃（平年値21.0℃*、R2年21.3℃）
- ・日照時間：平年比95%
- ・降水量：平年比95%
- ・水稻の生育に影響を及ぼした特筆すべき気象としては、8月の気温は低く推移し、5月と8月の日照時間が少なく、8月の降水量がかなり多かったことが挙げられる。
- ・梅雨入り：6月12日ごろ（平年値6月6日）、梅雨明け：7月17日ごろ（平年値7月19日）
- ・*平年値は1991年～2020年の平均



4 普通作物病害虫発生予察事業

イネ、ムギおよびダイズを対象として、主要病害虫を重点的に調査した。その結果に基づき病害虫発生予察情報として、発生予報9回、注意報1回（イネいもち病）、防除情報6回（葉いもち2回、穂いもち1回、斑点米カメムシ類2回、トビイロウンカ1回）を発表した。

（1）イネ

ア 生育概況

農林水産省公表、滋賀県の2021年12月8日現在における水稻の作況指数は「100」で、作柄の良否は「平年並」となった。生育の概況は、穂数は、日照不足の影響により平年を下まわったことから、全もみ数が平年よりやや少なくなった。また、登熟は8月中旬以降の日照不足の影響がみられたものの、7月中旬～8月上旬が高温・多照傾向で経過したことと、もみ数がやや少ないことによる補償作用の影響から「やや良」となった。被害は、一部地域でいもち病の発生がみられ、8月中旬の降雨による倒伏と斑点米カメムシ類の吸汁害が散見されたが、作況は最終的に「平年並」になった。

農業技術振興センターにおける作況調査の結果

【生育】

5月中下旬の寡照・多雨と土壌還元により、生育初期から分けつ期の茎数の増加は極めて緩慢となった。「みずかがみ」の最高分けつ期は平年より遅く、その茎数は平年の91%にとどまった。「コシヒカリ」の最高分けつ期は平年並であったが、その茎数はやや少なくなった。

7月の気温は平年並からやや高く、7月中旬から下旬は多照となり、出穂期は平年より「みずかがみ」で2日遅れ、「コシヒカリ」は平年並となった。

8月中旬は寡照で、気温も平年を大きく下回ったため、登熟期間は両品種ともここ9年間（平成25～令和3年）で最も長くなった。

【収量】

成熟期の稈長は「みずかがみ」「コシヒカリ」とも平年並であったが、8月中旬の豪雨により、稈長が長い「コシヒカリ」では倒伏程度が大きくなった。

「みずかがみ」の精玄米重（網目1.9mm）は583kg/10a（平年比97%）、「コシヒカリ」の精玄米重は546kg/10a（平年比98%）と多くなった。

「みずかがみ」では、一穂粒数は平年並であったものの穂数が平年比88%と少なく、「コシヒカリ」では穂数は平年並であったものの一穂粒数は平年比92%と少なく、 m^2 当たり粒数は両品種とも平年の90%以下と少なくなった。登熟歩合と千粒重は平年より高くなったことから、大きな減収にはならなかった。

【品質】

「みずかがみ」では白未熟粒が少なく、外観品質はやや良となった。「コシヒカリ」では、乳白などの白未熟粒がやや多く、外観品質は平年並となった。

※）今回用いた農業技術振興センターの作況調査データでは、過去7年の値の平均を基準としており、本生育概況では、それらを平年値とした。

イ 発生状況

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
葉いもち	平年並	やや多	ほ場での初発確認は6月21日で、発生時期は平年並であった。また、7月上旬の調査では、発生ほ場率18.9%と過去10年で最も高かったが、7月中旬の調査では発生ほ場率27.2%となり、発生量は、やや多くなった。	葉いもちの感染好適日は5月4半旬および6月4半旬に県内全域で確認され、初発地域での感染に繋がったと考えられる。また、6月6半旬～7月2半旬にかけて感染好適日が断続的に確認され、二次伝染が成立したほ場において感染が拡大し、7月上旬の発生ほ場率は高くなった。また、7月3半旬以降は高温・少雨で推移し、感染が緩やかに拡大したため、7月中旬の発生は、やや多くなった。	移植時の育苗箱施薬が普及している。6月6半旬以降感染好適日が出現していたことから、7月2日に防除情報を発表した。さらに、7月上旬の発生圃場率が高く、その後の天候による感染拡大が見込まれたため、7月7日に葉いもち・穂いもちを対象に注意報を発表した。葉いもちが発生したほ場においては追加防除が実施されている。
穂いもち	やや早	やや多	ほ場での初発確認は7月26日で、発生時期は、やや早かった。また、遅植早生品種、中生品種を中心に発生が多くなり、穂いもちの発生ほ場率は高く、発病程度は、やや高くなった。	水稲早生品種の出穂時期は平年並～やや遅かったが、葉いもちの発生ほ場で、穂いもちの発生が認められ、穂いもちの初発時期は、やや早くなった。7月下旬～8月上旬は高温・少雨で推移したことから、早生品種における発生ほ場率は、やや高いものの、発病程度は低かった。一方で、8月中旬に長雨、低温および寡照な気象条件が続き、8月上旬ごろに出穂した中生品種や遅植早生品種では、穂いもちの発生が多くなり、甚発生ほ場も散見された。	出穂期前後に、地上一斉防除や無人ヘリなどによる防除の実施。ドリフト対策として、粒剤による防除が普及している。7月7日の注意報に加え、8月中旬の長雨による遅植早生品種・中生品種への感染拡大が懸念されたため、8月18日に防除情報を発表した。大規模農家や前年発生が多かったほ場では追加防除が実施された。
紋枯病	遅	平年並	ほ場での初発確認は6月28日で、発生時期は遅かった。7月上旬～中旬の発生量は少なかったが、成熟期には全県的に発生が認められ（発生ほ場率80%）、平年並の発生量となった。	5月中下旬の低温・日照不足から、初期の分けつが少なく、生育が平年より、やや遅れたことから、紋枯病の初発が遅くなった。また、初発後も茎数が少なく推移し、7月中旬までの発生量（水平伝搬）は少なかった。一方で、7月中旬以降、気温は高く、8月中旬には降雨が続き、垂直伝搬が急激に進行したため、収穫直前の発生量は平年並となった。	移植時の箱粒剤による防除及び本田防除が常発地を中心に導入されている。
白菜枯病	遅	少	ほ場での初発確認は9月7日で、発生時期は遅かった。発生は常発地に限定されていたため、発生量は少なかった。	影響を受ける台風の襲来がなかったことと、前年の発生量が少なく、残存する細菌密度も低かったことから、発生量は少なくなった。	本病に効果のある育苗箱施薬剤が一部地域で導入。
ばか苗病	-	-	ほ場での初発確認は5月24日であった。一部の常発地を中心に発生が認められた。	温湯消毒を中心に生物農薬、化学農薬による種子消毒が普及しているため、発生は一部常発地にとどまった。	種子消毒による防除の実施。
もみ枯細菌病	-	-	ほ場での発生は認められなかった。	前年の発病は少なかったことから、罹病初が少なく、影響を受ける台風の襲来もなかったことから、発病が少なかった。	種子消毒と移植時の箱粒剤による防除の実施。
ごま葉枯病	やや遅	平年並	ほ場での初発確認は8月20日で、発生時期は、やや遅かった。穂枯れに至るほ場は確認されず、被害は認められなかった。	発生時期は収穫直前と遅かったため病勢は進展せず、発病程度は低かった。	穂いもちの防除時に同時防除の実施。
縞葉枯病	早	やや少	ほ場での初発確認は6月14日で、発生時期は早く、発生量は、やや少であった。なお、刈株再生芽ではは全域で見られた。	ヒメトビウンカの越冬世代の発生量が少なく、イネ縞葉枯病ウイルス（RSV）保毒率も低かった。そのことから7月上旬以降、立毛中の本病の発生量は、やや少なくなった。	移植時の箱粒剤および出穂期以降の防除、秋季の耕起の徹底により、媒介虫のヒメトビウンカの発生が抑制されている。
黄萎病	-	少	立毛中および刈株再生芽での発生は認められなかった。	媒介虫であるツマグロヨコバイの発生量は、やや少なく、箱粒剤の施用や共同防除が実施されている。このため近年、本病の発生はほとんど見られない。	移植時の箱粒剤および出穂期以降の防除で、媒介虫のツマグロヨコバイの発生が抑制されている。
稲こうじ病	やや早	平年並	ほ場での初発確認は8月17日で、発生時期は、やや早かった。	前年の発生量は平年並であったが、8月中旬の低温・長雨期間が穂ばらみ期～出穂期と重なった品種で発生が認められた。	穂いもちの防除時に同時防除の実施。
ニカメイガ第1世代	やや遅	平年並	越冬世代成虫の発ガ最盛期および予察灯での誘殺時期は平年並であったが、ほ場での発生時期は、やや遅く、発生量は平年並であった。	前年の第2世代幼虫の発生は少なかった。越冬世代成虫の予察灯への初飛来は4月第5半旬で平年並であったが、発ガ最盛期は地域によってばらつきが見られた。育苗箱施薬剤の使用の有無により、ほ場での発生量には差が見られるが、全体での発生量は平年並であった。	移植時の育苗箱施薬が普及している。
ニカメイガ第2世代	平年並	少	ほ場での初発確認は7月26日で、発生時期は平年並、発生量は少であった。	第1世代幼虫の発生時期は、やや遅く、第1世代成虫の発ガ最盛期も5月第5～6半旬と、やや遅かった。第1世代成虫の発生量が少なかったことから、第2世代幼虫の発生も少なくなった。	第1世代幼虫が多発したほ場では、主に粒剤を用いた防除がされている。近年、被害ほ場は減少しており、防除面積も減少している。

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
トビイロウンカ	遅	少	予察灯での初発確認は9月9日で、平年より遅く、県内1地点・1頭のみ確認された。6月下旬～8月にかけて複数回本田すくい取り・払い落とし調査を実施したが、本種は捕獲されなかった。また本種による坪枯れ症状の発生も確認されなかった。	海外から日本への飛来時期が極端に早く、近隣県では早くも5月中旬に予察灯への誘殺が確認されていたことから本県でも警戒していたが、本県へは早い段階での飛来は無く、ほ場内増殖も起こらなかったと判断された。	出穂期の防除により、斑点米カメムシ類と併せて防除されることが多い。今年は極端に早く近隣県で飛来が確認されたため、防除情報を1回発表し、啓発に努めた。
セジロウンカ	早	やや少	予察灯への初飛来は5月30日で、平年より早かった。ほ場での7月上中旬の発生量は平年並、8月中下旬では、やや少であった。	予察灯への飛来状況から、大陸からの飛来が断続的であったが、飛来量が少なかつたと思われる。	育苗箱施薬剤の利用により発生が抑制。また、出穂期の防除により、斑点米カメムシ類と併せて防除されることが多い。
ヒメトビウンカ	やや早	やや少	予察灯への初飛来は4月5日で、やや早かった。越冬世代の発生量は、やや少で、ほ場での7月上中旬の発生量は平年並、8月中下旬では、やや少であった。	越冬量は、やや少なかったが、予察灯への初飛来時期は、やや早かった。8月中旬の気温が低く、ほ場内での増殖は抑制されたため、発生は、やや少なくなった。	育苗箱施薬剤の利用により発生が抑制。また、出穂期の防除により、斑点米カメムシ類と併せて防除されることが多い。
ツマグロヨコバイ	やや早	やや少	予察灯への初飛来は4月5日で、やや早かった。越冬世代の発生量は平年並、ほ場での7月上旬の発生量は平年並、8月中下旬では、やや少であった。	昨年の発生量は、やや少であったが、越冬量は、やや多であった。地域・ほ場間差は、育苗箱施薬剤の使用および出穂期防除の有無によるところが大きい。	育苗箱施薬剤の利用により発生が抑制される。また、出穂期の防除により、斑点米カメムシ類と併せて防除されることが多い。
イチモンジセセリ	やや遅	やや少	ほ場での初発確認は6月15日で、発生時期は、やや遅く、発生量は、やや少であった。	前年の発生が、やや少なく、ニカメイガに効果の高い育苗箱施薬剤の導入が進んだため、同時に防除され、発生量が抑制されている。	ニカメイガに効果の高い育苗箱施薬剤が使用されているほ場では、同時防除されている。
フタオビコヤガ	平年並	平年並	ほ場での初発確認は6月28日で、発生時期と発生量は、ともに平年並であった。	昨年の発生量は平年並であったが、ニカメイガに効果の高い育苗箱施薬剤が導入されているほ場では、同時に防除され、発生量が抑制されている。	ニカメイガに効果の高い育苗箱施薬剤が使用されているほ場では、同時防除されている。
コブノメイガ	遅	少	ほ場での初発確認は9月14日で、発生時期は遅く、発生はごく一部に限られた。	海外からの初飛来が極めて遅く、飛来量も少なかつたと考えられる。	多発した年のみ、本田での防除が実施されている。
イネミズゾウムシ	やや遅	やや少	本田への飛び込み時期は、やや遅かつた。5月下旬の食害程度は、やや少なかったが、複数の地点で発生ほ場も見られるなど、ほ場間差が大きかつた。	田植と同時に本田に侵入する。育苗箱施薬剤の施用有無により、被害のほ場間差が顕著であった。多発生ほ場では、効果のある育苗箱施薬剤が使用されていない。	育苗箱施薬剤による防除が実施されている。
イネドロオイムシ	遅	やや多	ほ場での初発確認は6月14日で、発生時期は遅かつた。6月下旬の食害程度は、やや多く、中山間地域など、一部で多発生ほ場も見られた。	前年の発生量は平年並であった。5月中旬から6月上旬にかけて、梅雨に類似した気候となり、本種の増殖に好適な曇りや雨の日が多かつたことから、中山間地等を中心に食害が目立つほ場が見られた。	育苗箱施薬剤による防除が実施されている。発生が多いほ場では本田施用の粒剤による防除が実施されている。
斑点米カメムシ類	平年並	やや多	越冬世代の発生時期は平年並であった。6月下旬の畦畔のすくい取り調査では、発生量は平年並であったが、7月に入り、ホソハリカメムシやクモヘリカメムシなど大型カメムシが多かつた。7月下旬から8月上旬にかけて出穂期防除が実施されたが、本田での発生量は、大型のホソハリカメムシやクモヘリカメムシに加え、小型のアカスジカスミカメの発生量も多くなると、全体の発生量は、やや多かつた。	5月中旬から下旬の気温が低かつたが、6月上旬から下旬の気温が高かつたため、発生時期は平年並となった。7月に畦畔イネ科雑草での生息数が多くなり、出穂期以降に本田への飛び込みが増大した。出穂期の薬剤防除は実施されたが、その後飛来する大型カメムシも多かつたと思われる。	畦畔のイネ科雑草が出穂しないよう、多くのほ場で適正に除草作業が実施され、本田への侵入抑制が図られている。また、出穂後に一斉防除がされている。使用薬剤は液剤や粉剤が主であるが、ドリフト対策として粒剤が使用されている地域もある。7月上中旬の畦畔でクモヘリカメムシやホソハリカメムシの発生量が多く、7月20日に防除情報を発表した。また本田では、早生水稻出穂期の7月下旬から8月上旬に、上記カメムシに加えイネカメムシも多くみられたことから、8月6日にも防除情報を発表した。
コバネイナゴ	遅	平年並	ほ場での初発確認は5月31日で、発生時期は遅かつた。ほ場での発生量は平年並であった。	前年の発生量は、やや少なかった。出穂期のカメムシ類対象の薬剤散布で、同時防除されたと考えられる。	斑点米カメムシ類と併せて防除されることが多い。

ウ 定点における調査
 (ア) いもち病発生予察システム
 a 判定結果(JPP-NET版BLASTAMの判定結果)

令和3年(2021年) BLASTAM 結果										
		今津	長浜	米原	南小松	彦根	東近江	大津	信楽	土山
6月1日	火	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月2日	水	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月3日	木	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月4日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月5日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月6日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月7日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月8日	火	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月9日	水	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月10日	木	-	?	-	-	-	-	-	-	-
6月11日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月12日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月13日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月14日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月15日	火	●	-	-	-	-	-	-	-	-
6月16日	水	-	-	-	●	-	●	●	-	●
6月17日	木	○4	●	○4	-	●	●	-	-	●
6月18日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月19日	土	-	-	-	-	-	-	●	○4	-
6月20日	日	-	●	-	●	●	●	●	-	●
6月21日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月22日	火	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月23日	水	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月24日	木	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月25日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月26日	土	-	-	-	-	-	●	-	●	-
6月27日	日	-	-	●	●	●	-	●	-	-
6月28日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月29日	火	-	-	-	○4	●	●	-	●	-
6月30日	水	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月1日	木	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月2日	金	-	-	-	-	-	●	●	●	-
7月3日	土	-	-	-	●	-	-	-	-	-
7月4日	日	●	●	-	-	-	-	○3	-	-
7月5日	月	-	-	-	○3	-	-	-	-	-
7月6日	火	-	-	-	-	-	●	-	-	-
7月7日	水	●	-	●	-	-	-	-	-	-
7月8日	木	●	○2	●	○2	○2	○2	○2	-	-
7月9日	金	-	-	-	-	-	-	○2	-	-
7月10日	土	-	-	-	-	-	○2	○2	-	-
7月11日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月12日	月	-	-	-	-	-	○2	-	●	-
7月13日	火	●	-	-	○2	-	-	-	-	-
7月14日	水	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月15日	木	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月16日	金	○2	-	-	-	-	-	-	-	-
7月17日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月18日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月19日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月20日	火	-	-	-	-	-	-	-	-	-

[判定結果の指標]

●=感染好適条件

湿潤時間中の平均気温が15~25℃であり、湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間を満たし、当日を含めた前5日間の日平均気温の平均値が20~25℃の範囲にある

○=準好適条件

- 1 : 湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が20℃未満
- 2 : 湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が25℃以上
- 3 : 湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤時間中の平均気温が15℃~25℃以外
- 4 : 湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間数より短い
- : 好適条件なし
- ? : 判定不能

b 情報提供

病害虫防除所のホームページ上にて、感染好適条件の出現状況(上記)を随時公開した。

(イ) 予察灯による調査
ニカメイガ発生型一覧

事項		大津市里 ¹⁾			守山市矢島町			近江八幡市安土町大中		
		本年	平年	差	本年	平年	差	本年	平年	差
越冬世代	初飛来日 (月日)	5/13	5/13	±0	5/4	5/6	-3	5/4	4/30	+3
	最盛日 (月日)	5/11	5/22	-12	5/20	5/31	-11	5/18	5/26	-8
	50%誘殺日 (月日)	5/21	5/23	-3	5/24	5/30	-7	5/18	5/25	-7
	終息日 (月日)	—	6/14	—	6/26	6/28	-2	6/14	6/26	-12
	誘殺日数 (日)	3	5	-2	32	31	+1	28	20	+8
	誘殺数 (頭)	3	5	-2	148	176	-28	105	49	+56
	性比 (♂/♀, %)	200	150	+50	90	99	-9	46	84	-38
第1世代	初飛来日 (月日)	—	7/20	—	7/14	7/14	±0	7/15	7/13	+2
	最盛日 (月日)	—	7/30	—	7/28	7/26	+2	8/5	7/26	+9
	50%誘殺日 (月日)	—	7/31	—	7/29	7/29	-	8/4	7/29	+6
	終息日 (月日)	—	8/21	—	9/9	9/7	+1	9/10	9/6	+3
	誘殺日数 (日)	—	6	—	35	27	+8	22	23	-1
	誘殺数 (頭)	—	7	—	350	110	+240	41	56	-15
	性比 (♂/♀, %)	—	59	—	129	126	+3	116	86	+30
総誘殺日数 (日)		—	—	—	67	58	+9	50	43	+7
総誘殺数 (頭)		—	—	—	498	286	+212	146	105	+41
性比 (♂/♀, %)		—	—	—	116	109	+7	60	86	-26
第1世代/越冬世代 (%)		—	—	—	236	82	+154	39	142	-103

事項		長浜市難波町			高島市今津町日置前		
		本年	平年	差	本年	平年	差
越冬世代	初飛来日 (月日)	4/24	5/11	-18	4/27	5/11	-14
	最盛日 (月日)	6/4	5/27	+8	5/15	5/26	-11
	50%誘殺日 (月日)	6/2	5/28	+5	5/18	5/26	-8
	終息日 (月日)	6/22	6/16	+6	6/14	6/24	-11
	誘殺日数 (日)	25	15	+10	31	23	+8
	誘殺数 (頭)	63	54	+9	168	137	+31
	性比 (♂/♀, %)	43	95	-52	62	150	-88
第1世代	初飛来日 (月日)	7/12	7/16	-5	7/16	7/15	+
	最盛日 (月日)	8/1	7/27	+5	7/28	7/31	-3
	50%誘殺日 (月日)	7/31	7/28	+2	7/29	7/31	-3
	終息日 (月日)	8/11	8/19	-8	9/27	9/10	+16
	誘殺日数 (日)	17	16	+1	12	29	-17
	誘殺数 (頭)	67	72	-5	18	160	-142
	性比 (♂/♀, %)	76	99	-23	100	75	+25
総誘殺日数 (日)		42	31	+11	43	52	-9
総誘殺数 (頭)		130	126	+4	186	297	-111
性比 (♂/♀, %)		59	85	-26	65	95	-30
第1世代/越冬世代 (%)		106	163	-57	11	178	-167

大津市里、守山市矢島町、近江八幡市安土町大中、長浜市難波町の平年値は10年間 (H23~R2) の平均値。

高島市今津町日置前の平年値は9年間 (H24~R2) の平均値。

¹⁾ 6月2半旬以降のデータは調査機器変更 (トビイロウンカ誘殺) のため、欠測。

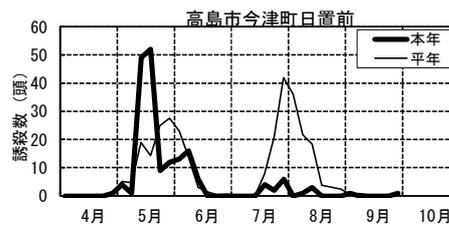
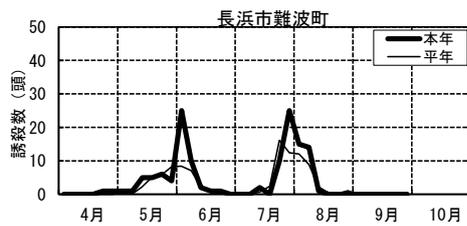
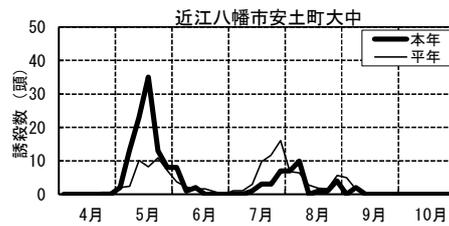
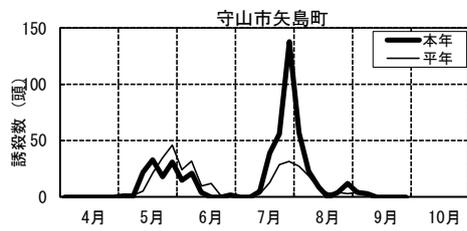
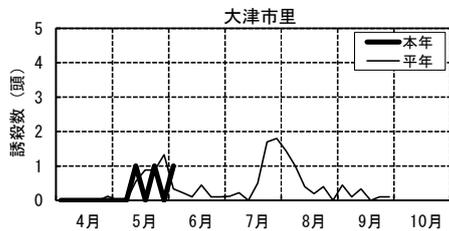
ニカメイガ半旬別誘殺状況（予察灯）

ニカメイガ半旬別誘殺状況（予察灯）

月 半旬	大津市里				守山市矢島町				近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前			
	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
4 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 6	0	0	0.1	0.1	0	0	0.4	0.4	0	0	0.6	0.6	1	1	0	0	1	1	0.7	0.7
5 1	0	0	0	0.1	1	1	1.4	1.8	2	2	2.0	3.2	1	3	0.6	0.6	4	5	5.1	5.9
5 2	0	0	0	0.1	1	2	1.4	3.2	13	15	2.4	5.6	1	4	0.1	0.7	1	6	4.7	10.6
5 3	1	1	0.6	0.7	22	24	5.4	8.6	23	38	10.1	15.7	5	9	2.2	2.9	49	55	19.0	29.6
5 4	0	1	0.9	1.6	33	57	21.0	29.6	35	73	8.2	23.9	5	14	5.1	8.0	52	107	14.3	43.8
5 5	1	2	0.9	2.5	18	75	34.4	64.0	13	86	10.9	34.8	6	20	5.8	13.8	9	116	24.9	68.7
5 6	0	2	1.3	3.8	31	106	46.0	110.0	8	94	7.1	41.9	4	24	8.2	22.0	12	128	27.5	96.2
6 1	1	3	0.3	4.1	15	121	24.3	134.3	8	102	3.7	45.6	25	49	8.4	30.4	13	141	23.0	119.2
6 2	3	3	0.2	4.3	21	142	31.9	166.2	1	103	2.2	47.8	10	59	7.1	37.5	16	157	13.8	133.0
6 3	3	3	0.1	4.5	4	146	9.8	176.0	2	105	1.5	49.3	2	61	2.1	39.6	6	163	3.0	136.0
6 4	3	3	0.4	4.9	0	146	12.1	188.1	0	105	1.6	50.9	1	62	1.1	40.7	0	163	1.4	137.4
6 5	3	3	0.1	5.0	0	146	1.3	189.4	0	105	0.8	51.7	1	63	0.1	40.8	0	163	0.4	137.9
6 6	3	3	0.1	5.1	2	148	0.8	190.2	0	105	0	51.7	0	63	0.2	41.0	0	163	0.7	138.5
7 1	3	3	0.1	5.3	0	148	0.5	190.7	0	105	1.1	52.8	0	63	0.2	41.2	0	163	0.3	138.9
7 2	0	0	0.2	0.2	0	0	0.6	0.6	0	0	1.1	1.1	0	0	0.1	0.1	0	0	0.1	0.1
7 3	0	0	0	0.2	5	5	2.8	3.4	1	1	3.0	4.1	2	2	0.7	0.8	0	0	0.3	0.4
7 4	0	0	0.5	0.7	39	44	12.9	16.3	3	4	9.8	13.9	0	2	2.4	3.2	4	4	7.8	8.2
7 5	0	1.7	2.4	56	100	28.8	45.1	3	7	11.6	25.5	10	12	16.1	19.3	2	6	20.9	29.1	
7 6	0	1.8	4.2	138	238	31.7	76.8	7	14	16.0	41.5	25	37	12.4	31.7	6	12	41.9	71.0	
8 1	0	1.4	5.7	57	295	27.4	104.2	7	21	6.8	48.3	15	52	12.0	43.7	0	12	36.0	107.0	
8 2	0	1.0	6.7	23	318	19.0	123.2	10	31	6.4	54.7	14	66	8.9	52.6	1	13	21.7	128.7	
8 3	0	0.4	7.1	9	327	8.3	131.5	0	31	2.8	57.5	1	67	2.2	54.8	3	16	18.4	147.1	
8 4	0	0	0.2	7.3	0	327	3.2	134.7	1	32	1.8	59.3	0	67	0.5	55.3	0	16	3.8	150.9
8 5	0	0	0.4	7.7	4	331	4.1	138.8	1	33	1.6	60.9	0	67	0.3	55.6	0	16	3.1	154.0
8 6	0	0	0	7.7	12	343	3.1	141.9	4	37	5.7	66.6	0	67	1.1	56.7	0	16	2.4	156.4
9 1	0	0	0.4	8.1	4	347	4.0	145.9	0	37	5.0	71.6	0	67	0.1	56.8	1	17	0.6	157.0
9 2	0	0	0.1	8.2	3	350	1.0	146.9	2	39	1.5	73.1	0	67	0	56.8	0	17	0.9	157.9
9 3	0	0	0.3	8.6	0	350	0.8	147.7	0	39	0.4	73.5	0	67	0	56.8	0	17	0.2	158.1
9 4	0	0	0	8.6	0	350	0.1	147.8	0	39	0	73.5	0	67	0	56.8	0	17	0.1	158.2
9 5	0	0	0.1	8.7	0	350	0	147.8	0	39	0.1	73.6	0	67	0	56.8	0	17	0	158.2
9 6	0	0	0.1	8.8	0	350	0.1	147.9	0	39	0	73.6	0	67	0	56.8	1	18	0	158.2
10 1									0	39	0	73.6								
10 2									0	39	0	73.6								
10 3									0	39	0	73.6								
10 4									0	39	0	73.6								
10 5									0	39	0	73.6								
10 6									0	39	0	73.6								

越冬世代

第1世代



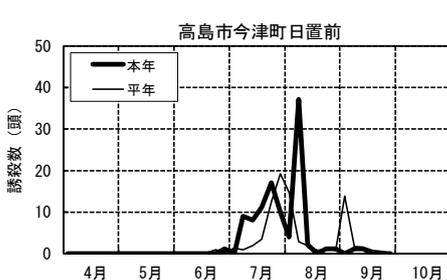
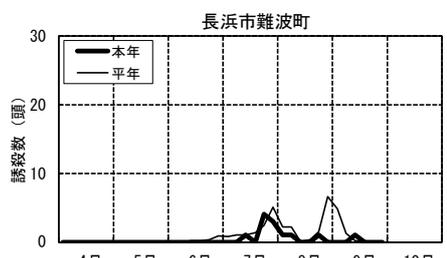
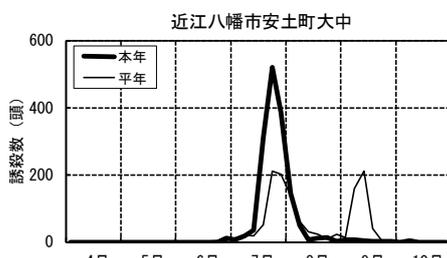
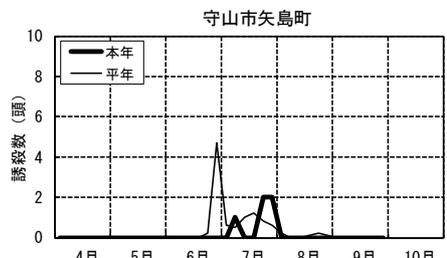
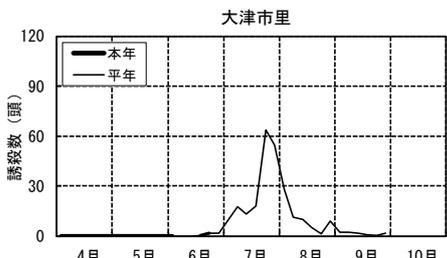
○表中の累積誘殺頭数は、越冬世代と第1世代を区別するため、4月第1半旬～7月第1半旬を越冬世代、7月第2半旬～調査終了時を第1世代として積算している。

○平年値は基本的に過去10年間（H23～R2）の平均値であるが、高島市の予察灯では、移設により10年分のデータがなく、平年値はH24～R2の9年間の平均値である。

○調査機器変更により、大津市里の予察灯の6月2半旬以降のデータは欠測。

ツマグロヨコバイ半旬別誘殺状況（予察灯）

月半旬	大津市里				守山市矢島町				近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前			
	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0.1	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0.1	0.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	0	0	0	0.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	0	0	0.3	0.7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	2.0	2.7	0	0	0.2	0.2	0.2	0	2.5	4.3	0	0	0.3	0.8	0	0	0.9	1.1	0
6	0	2.0	4.7	0	0	4.7	4.9	10	0	3.5	7.8	0	0	0.9	1.7	1	1	0.3	1.5	0
7	0	9.6	14.2	0	0	0.6	5.5	5	15	10.6	18.4	0	0	0.7	2.4	0	1	1.2	2.7	0
2	0	17.6	31.8	1	1	0.5	6.0	17	32	20.3	38.7	0	0	1.0	3.4	9	10	0.8	3.5	0
3	0	13.5	45.3	0	1	1.0	7.0	35	67	17.4	56.1	1	1	1.0	4.4	8	18	1.8	5.2	0
4	0	18.1	63.4	0	1	1.2	8.2	311	378	50.3	106.4	0	1	1.3	5.7	11	29	3.3	8.6	0
5	0	63.9	127.3	2	3	0.8	9.0	521	899	209.9	316.3	4	5	2.4	8.1	17	46	12.4	21.0	0
6	0	54.5	181.8	2	5	0.6	9.6	384	1283	201.5	517.8	3	8	5.1	13.2	10	56	19.2	40.2	0
8	0	28.1	209.9	0	5	0.2	9.8	143	1426	137.8	655.6	1	9	2.1	15.3	4	60	14.8	55.0	0
2	0	11.6	221.5	0	5	0	9.8	50	1476	61.6	717.2	1	10	2.1	17.4	37	97	2.8	57.8	0
3	0	10.1	231.6	0	5	0	9.8	5	1481	29.4	746.6	0	10	0.1	17.5	2	99	1.9	59.7	0
4	0	5.1	236.7	0	5	0.1	9.9	11	1492	22.9	769.5	0	10	0.3	17.8	0	99	0.7	60.3	0
5	0	1.6	238.3	0	5	0.2	10.1	12	1504	8.5	778.0	1	11	1.5	19.3	1	100	1.1	61.5	0
6	0	9.2	247.5	0	5	0.1	10.2	2	1506	22.3	800.3	0	11	6.6	25.9	1	101	0.7	62.1	0
9	0	2.2	249.7	0	5	0	10.2	6	1512	12.6	812.9	0	11	4.8	30.7	0	101	13.8	75.9	0
2	0	2.3	252.1	0	5	0	10.2	5	1517	158.5	971.4	0	11	1.2	31.9	1	102	1.6	77.5	0
3	0	1.8	253.8	0	5	0	10.2	3	1520	211.5	1182.9	1	12	0.2	32.1	1	103	1.4	78.9	0
4	0	1.0	254.8	0	5	0	10.2	1	1521	39.3	1222.2	0	12	0.1	32.2	0	103	0.7	79.6	0
5	0	0.3	255.2	0	5	0	10.2	2	1523	1.7	1223.9	0	12	0	32.2	0	103	0.4	80.0	0
6	0	1.9	257.1	0	5	0	10.2	1	1524	0.5	1224.4	0	12	0.1	32.3	0	103	0.1	80.1	0
10	1				4				1524	0.2	1224.6									
2	4				0				1528	0.2	1224.8									
3	0				0				1528	0	1224.8									
4	0				0				1528	0	1224.8									
5	0				0				1528	0.1	1224.9									
6	0				0				1528	0	1224.9									

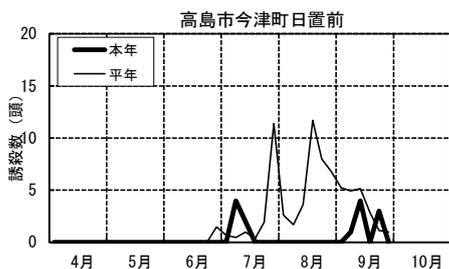
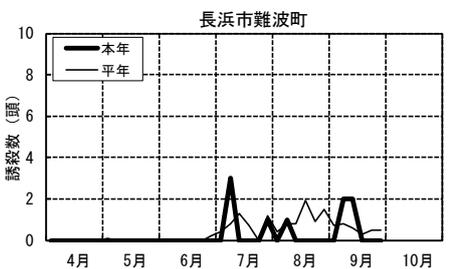
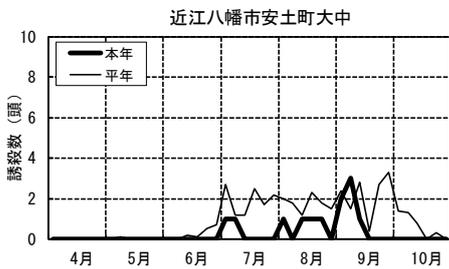
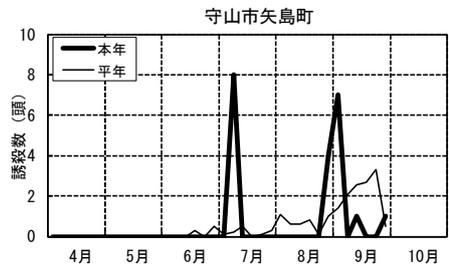
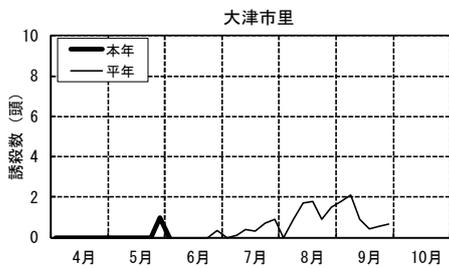


○平年値は基本的に過去10年間（H23～R2）の平均値であるが、高島市の予察灯では、移設により10年分のデータがなく、平年値はH24～R2の9年間の平均値である。

○調査機器変更により、大津市里の予察灯の6月2半旬以降のデータは欠測。

セジロウカ半旬別誘殺状況（予察灯）

月半旬	大津市里				守山市矢島町				近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前			
	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.1	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0
6	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.1	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0
7	1	1	0.3	0.3	0	0	0.1	0.9	1	1	2.7	4.3	0	0	0.4	0.7	0	0	0.7	2.1
8	1	1	0.9	3.6	0	8	0.6	3.7	0	3	1.8	16.9	1	5	0.8	5.9	0	6	1.7	21.3
9	1	1	0.9	14.3	1	20	2.6	12.3	1	11	2.8	30.4	2	9	0.6	13.1	4	11	5.1	66.6
10	1	1	0.7	16.0	1	21	0.5	18.8	0	12	3.3	36.8	0	9	0.5	14.4	0	14	1.0	71.4

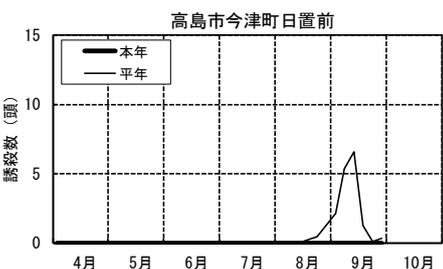
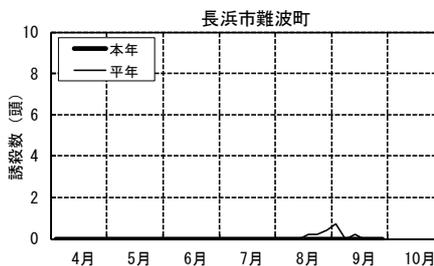
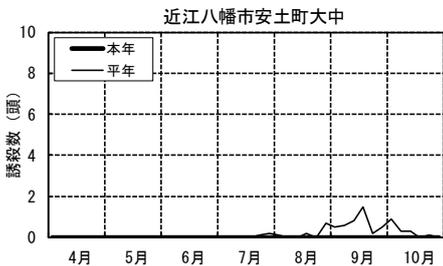
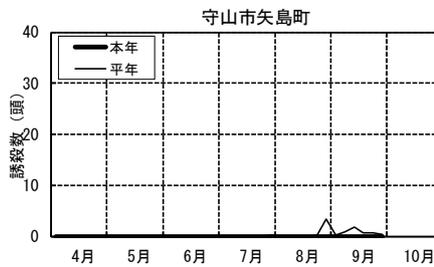
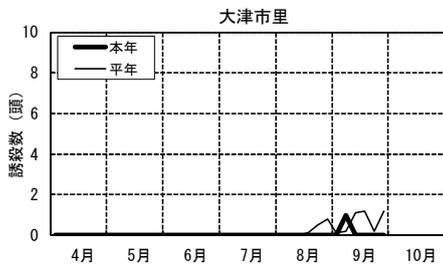


○平年値は基本的に過去10年間（H23～R2）の平均値であるが、高島市の予察灯では、移設により10年分のデータがなく、平年値はH24～R2の9年間の平均値である。

○調査機器変更により、大津市里の予察灯の6月2半旬以降のデータは欠測。

トビイロウンカ半旬別誘殺状況（予察灯）

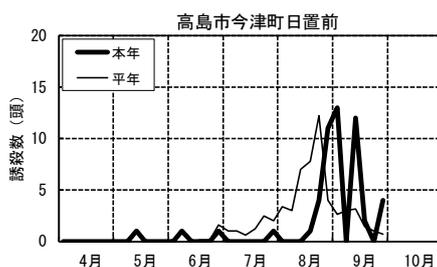
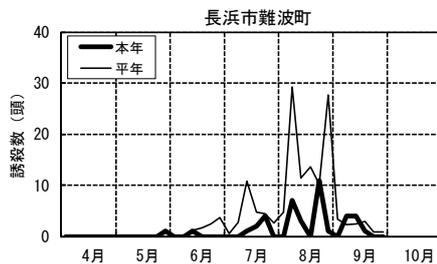
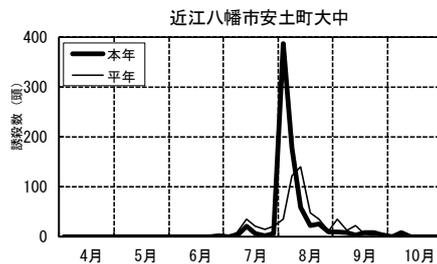
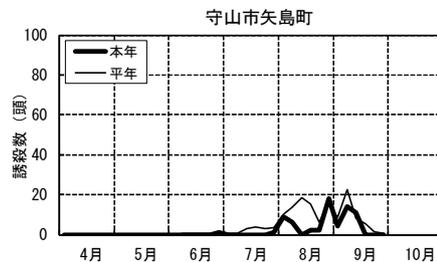
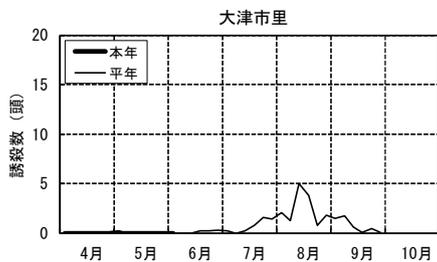
月半旬	(頭)																			
	大津市里				守山市矢島町				近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前			
	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
4 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5 3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5 4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5 5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5 6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6 3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6 4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6 5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6 6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7 3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7 4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7 5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7 6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8 1	0	0	0	0	0	0	0.1	0.3	0	0	0.1	0.4	0	0	0	0	0	0	0	0
8 2	0	0	0	0	0	0	0	0.3	0	0	0	0.4	0	0	0	0	0	0	0	0
8 3	0	0	0	0	0	0	0	0.3	0	0	0	0.4	0	0	0	0	0	0	0	0
8 4	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0.3	0	0	0.2	0.6	0	0	0.2	0.2	0	0	0.2	0.2
8 5	0	0	0.5	0.6	0	0	0.2	0.5	0	0	0	0.6	0	0	0.2	0.4	0	0	0.4	0.7
8 6	0	0	0.8	1.4	0	0	3.3	3.8	0	0	0.7	1.3	0	0	0.4	0.8	0	0	1.2	1.9
9 1	0	0	0.1	1.5	0	0	0.3	4.1	0	0	0.5	1.8	0	0	0.7	1.5	0	0	2.1	4.0
9 2	1	1	0.2	1.7	0	0	0.9	5.0	0	0	0.6	2.4	0	0	0	1.5	0	0	5.3	9.3
9 3	0	1	1.1	2.8	0	0	1.8	6.8	0	0	0.8	3.2	0	0	0.2	1.7	0	0	6.6	15.9
9 4	0	1	1.2	4.0	0	0	0.7	7.4	0	0	1.5	4.7	0	0	0	1.7	0	0	1.2	17.1
9 5	0	1	0.2	4.2	0	0	0.8	8.2	0	0	0.2	4.9	0	0	0	1.7	0	0	0.1	17.2
9 6	0	1	1.2	5.4	0	0	0.3	8.6	0	0	0.5	5.4	0	0	0	1.7	0	0	0.3	17.6
10 1									0	0	0.9	6.3								
10 2									0	0	0.3	6.6								
10 3									0	0	0.3	6.9								
10 4									0	0	0	6.9								
10 5									0	0	0.1	7.0								
10 6									0	0	0	7.0								



○平年値は基本的に過去10年間（H23～R2）の平均値であるが、高島市の予察灯では、移設により10年分のデータがなく、平年値はH24～R2の9年間の平均値である。

ヒメトビウカ半旬別誘殺状況（予察灯）

月 半旬	大津市里				守山市矢島町				近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前			
	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
	4 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 6	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5 1	0	0	0.3	0.4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5 2	0	0	0	0.4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5 3	0	0	0	0.4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
5 4	0	0	0	0.4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.1	0	1	0
5 5	0	0	0	0.4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0	1	0
5 6	0	0	0	0.4	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
6 1	0	0	0	0.4	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
6 2	0	0	0	0.4	0	0	0.4	0.5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
6 3	0	0	0	0.4	0	0	0.5	1.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
6 4	0	0	0.2	0.6	0	0	0.4	1.4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0.1
6 5	0	0	0.2	0.8	0	0	0.7	2.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0.1
6 6	0	0	0.3	1.2	1	1	1.4	3.5	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	3	1.6
7 1	0	0	0.2	1.4	0	1	0.7	4.2	0	1	0.7	6.1	0	2	0.6	9.5	0	3	1.0	2.8
7 2	0	0	0	1.4	0	1	0.5	4.7	1	2	6.7	12.8	0	2	2.7	12.2	0	3	1.0	3.8
7 3	0	0	0.2	1.6	0	1	3.1	7.8	20	22	34.7	47.5	1	3	10.7	22.9	0	3	0.6	4.3
7 4	0	0	0.8	2.4	0	1	3.6	11.4	5	27	19.7	67.2	2	5	4.7	27.6	0	3	1.2	5.6
7 5	0	0	1.6	4.0	0	1	2.9	14.3	1	28	13.7	80.9	4	9	4.4	32.0	0	3	2.4	8.0
7 6	0	0	1.4	5.4	1	2	3.5	17.8	5	33	20.5	101.4	0	9	2.5	34.5	1	4	2.0	10.0
8 1	0	0	2.1	7.5	9	11	10.3	28.1	386	419	33.9	135.3	0	9	4.8	39.3	0	4	3.3	13.3
8 2	0	0	1.3	8.8	6	17	13.7	41.8	177	596	121.3	256.6	7	16	29.2	68.5	0	4	3.0	16.3
8 3	0	0	5.0	13.8	0	17	18.6	60.4	58	654	139.1	395.7	3	19	11.4	79.9	0	4	7.0	23.3
8 4	0	0	3.8	17.6	2	19	15.2	75.6	22	676	46.2	441.9	0	19	13.6	93.5	1	5	7.8	31.1
8 5	0	0	0.8	18.4	2	21	6.0	81.6	24	700	34.6	476.5	11	30	10.1	103.6	4	9	12.2	43.3
8 6	0	0	1.8	20.2	18	39	15.6	97.2	9	709	11.0	487.5	1	31	27.6	131.2	11	20	4.0	47.3
9 1	0	0	1.6	21.7	4	43	8.7	105.9	8	717	34.5	522.0	0	31	3.4	134.6	13	33	2.6	49.9
9 2	0	0	1.8	23.5	14	57	22.6	128.5	7	724	12.6	534.6	4	35	2.3	136.9	0	33	3.0	52.9
9 3	0	0	0.7	24.2	11	68	8.3	136.8	2	726	20.9	555.5	4	39	2.4	139.3	12	45	3.1	56.0
9 4	0	0	0.1	24.3	0	68	5.2	142.1	7	733	3.9	559.4	1	40	2.8	142.1	2	47	1.4	57.4
9 5	0	0	0.4	24.7	0	68	1.4	143.5	7	740	2.2	561.6	0	40	0.9	143.0	0	47	1.0	58.4
9 6	0	0	0.1	24.9	0	68	0.4	143.9	2	742	5.3	566.9	0	40	0.9	143.9	4	51	0.7	59.1
10 1									0	742	0.6	567.5								
10 2									0	749	0.4	567.9								
10 3									0	749	0.3	568.2								
10 4									0	749	0.2	568.4								
10 5									0	749	1.0	569.4								
10 6									0	749	1.4	570.8								



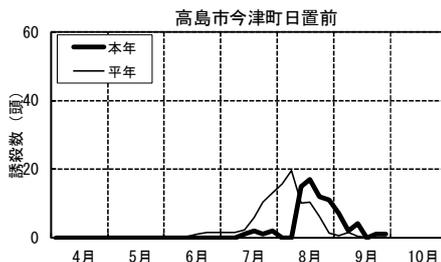
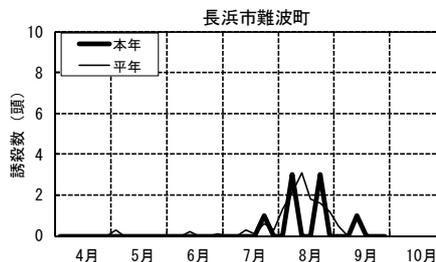
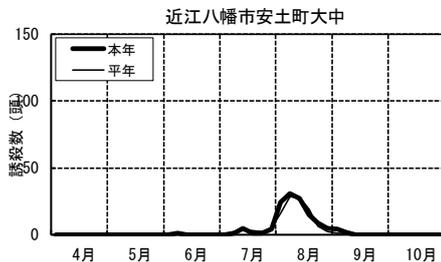
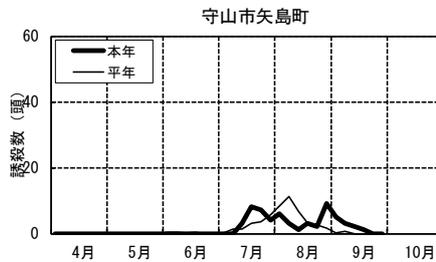
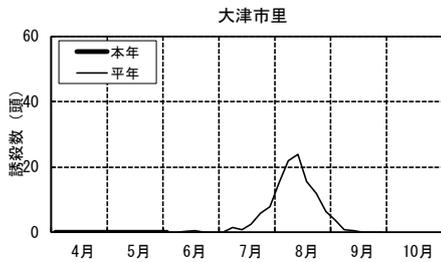
○平年値は基本的に過去10年間（H23～R2）の平均値であるが、高島市の予察灯では、移設により10年分のデータがなく、平年値はH24～R2の9年間の平均値である。

○調査機器変更により、大津市里の予察灯の6月2半旬以降のデータは欠測。

フタオビコヤガ半旬別誘殺状況（予察灯）

(頭)

月 半旬	大津市里				守山市矢島町				近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前				
	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	
4 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.3	0.3	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.1	0	0	0.3	0.3	0	0	0	0.1	0.1
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.1	0	0	0.3	0.3	0	0	0	0	0.1
4	0	0	0.2	0.2	0	0	0	0	0	0	0.1	0.1	0	0	0.3	0.3	0	0	0	0	0.1
5	0	0	0	0.2	0	0	0	0	0	0	0.1	0.2	0	0	0.3	0.3	0	0	0	0.1	0.3
6	0	0	0	0.2	0	0	0	0	0	0	0.2	0.2	0	0	0.3	0.3	0	0	0	0.1	0.4
6 1	0	0	0	0.2	0	0	0.3	0.3	0	0	0.1	0.3	0	0	0.3	0.3	0	0	0	0	0.4
2	0	0	0	0.2	0	0	0.3	0.6	1	0	0.4	0.7	0	0	0.3	0.3	0	0	0	0	0.4
3	0	0	0.2	0.4	0	0	0.2	0.8	0	1	0.9	1.6	0	0	0.2	0.5	0	0	0	0.4	0.8
4	0	0	0.5	0.9	0	0	0.4	1.2	0	0	0.3	1.9	0	0	0.5	0.5	0	0	0	1.0	1.8
5	0	0	0.1	1.1	0	0	0	1.2	0	0	0.4	2.3	0	0	0.5	0.5	0	0	0	1.6	3.4
6	0	0	0.1	1.2	0	0	0.2	1.4	0	0	0.3	2.6	0	0	0.1	0.6	0	0	0	1.6	4.9
7 1	0	0	0.1	1.3	0	0	0.2	1.6	0	1	0.8	3.4	0	0	0.6	0.6	0	0	0	1.6	6.5
2	0	0	1.6	2.8	0	0	1.3	2.9	1	2	2.2	5.6	0	0	0.6	0.6	0	0	0	1.4	7.9
3	0	0	0.7	3.5	3	3	1.4	4.3	5	3	3.4	9.0	0	0	0.3	0.9	1	1	1	2.1	10.1
4	0	0	2.4	5.9	8	11	2.9	7.2	1	3	3.1	12.1	0	0	0.1	1.0	2	3	3	5.9	15.9
5	0	0	5.8	11.7	7	18	3.6	10.8	1	2	2.2	14.3	1	1	0.6	1.6	1	4	4	10.3	26.3
6	0	0	7.8	19.5	4	22	5.7	16.5	4	5	5.2	19.5	0	1	0.3	1.9	2	6	6	13.0	39.3
8 1	0	0	15.0	34.5	6	28	8.4	24.9	24	16	15.9	35.4	0	1	1.3	3.2	0	6	6	15.6	54.8
2	0	0	21.8	56.3	3	31	11.2	36.1	31	28	28.4	63.8	3	4	2.1	5.3	0	6	6	19.4	74.3
3	0	0	23.8	80.1	1	32	6.7	42.8	27	28	27.8	91.6	0	4	3.1	8.4	15	21	10.1	84.4	
4	0	0	15.6	95.7	3	35	3.2	46.0	15	19	19.2	110.8	0	4	1.8	10.2	17	38	10.3	94.7	
5	0	0	12.0	107.7	2	37	2.6	48.6	9	7	6.5	117.3	3	7	1.6	11.8	12	50	6.2	100.9	
6	0	0	6.2	113.9	9	46	1.6	50.2	5	3	2.5	119.8	0	7	1.2	13.0	11	61	1.3	102.3	
9 1	0	0	3.8	117.7	5	51	0.2	50.4	4	1	1.3	121.1	0	7	0.5	13.5	7	68	0.6	102.8	
2	0	0	0.8	118.5	3	54	0.5	50.9	2	0	0.4	121.5	0	7	0	13.5	2	70	1.4	104.3	
3	0	0	0.6	119.0	2	56	0	50.9	0	0	0.2	121.7	1	8	0	13.5	4	74	0.4	104.7	
4	0	0	0	119.0	1	57	0	50.9	0	0	0.2	121.9	0	8	0	13.5	0	74	0.1	104.8	
5	0	0	0.1	119.2	0	57	0	50.9	0	0	0	121.9	0	8	0	13.5	1	75	0	104.8	
6	0	0	0	119.2	0	57	0	50.9	0	0	0	121.9	0	8	0	13.5	1	76	0.1	104.9	
10 1									0	0	0	121.9									
2									0	0	0	121.9									
3									0	0	0	121.9									
4									0	0	0	121.9									
5									0	0	0	121.9									
6									0	0	0	121.9									



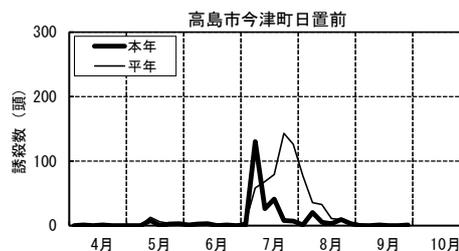
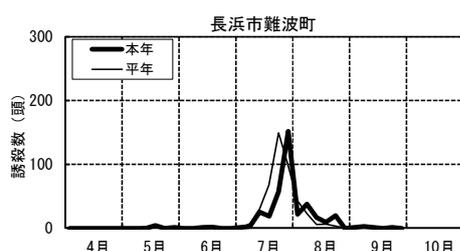
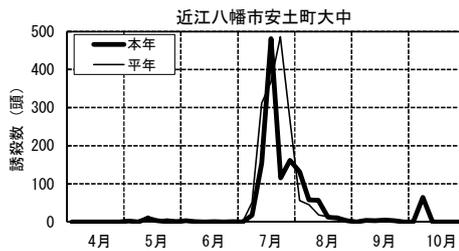
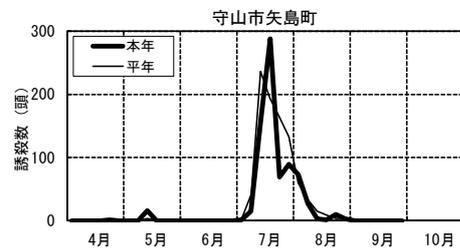
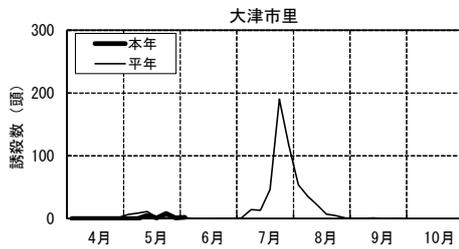
○平年値は基本的に過去10年間（H23～R2）の平均値であるが、高島市の予察灯では、移設により10年分のデータがなく、平年値はH24～R2の9年間の平均値である。

○調査機器変更により、大津市里の予察灯の6月2半旬以降のデータは欠測。

イネミズゾウムシ半旬別誘殺状況（予察灯）

(頭)

月 半旬	大津市里				守山市矢島町				近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前			
	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
4 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0
4 4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0
4 5	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0.2	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0
4 6	0	0	1.5	1.5	0	1	0	0	0	0	0.3	0.5	0	0	0	0	0	0	0.3	0.3
5 1	0	0	6.6	8.1	0	1	0	0	2	2	2.4	2.9	0	0	0.9	0.9	0	2	0.3	1.0
5 2	0	0	8.4	16.6	0	1	0.1	0.1	0	2	1.1	4.0	0	0	0.2	1.1	0	2	0.3	1.3
5 3	5	5	11.1	27.7	16	17	3.4	3.5	9	11	14.3	18.3	0	0	2.4	3.5	8	10	12.6	13.9
5 4	1	6	1.8	29.5	0	17	0.7	4.2	3	14	4.2	22.5	4	4	2.1	5.6	0	10	6.0	19.9
5 5	8	14	1.6	31.0	0	17	0.3	4.5	1	15	7.0	29.5	0	4	0.6	6.2	2	12	3.3	23.2
5 6	1	15	0.7	31.7	0	17	0.0	4.5	0	15	4.7	34.2	1	5	0.3	6.5	3	15	1.9	25.0
6 1	2	17	1.4	33.1	0	17	0	4.5	3	18	3.6	37.8	0	5	0.7	7.2	1	16	0.6	25.7
6 2	0	17	0.2	33.3	0	17	0.2	4.7	1	19	0.3	38.1	0	5	0.6	7.8	2	18	1.1	26.8
6 3	0	17	0.1	33.5	0	17	0	4.7	0	19	1.0	39.1	1	6	0.2	8.0	3	21	1.1	27.9
6 4	0	17	0.2	33.7	0	17	0.1	4.8	1	20	0.1	39.2	2	8	0	8.0	0	21	1.9	29.8
6 5	0	17	0.4	34.1	0	17	0	4.8	0	20	0.7	39.9	0	8	0.1	8.1	1	22	2.2	32.0
6 6	0	17	0.3	34.5	0	17	0.4	5.2	1	21	0.7	40.6	0	8	0.3	8.4	0	22	0.9	32.9
7 1	0	17	0.9	35.3	1	18	2.6	7.8	0	21	0.6	41.2	1	9	0	8.4	1	23	5.1	38.0
7 2	0	17	14.2	49.6	15	33	41.6	49.4	17	38	51.2	92.4	3	12	7.1	15.5	130	153	58.3	96.3
7 3	0	17	13.6	63.2	156	189	236.2	285.6	154	192	311.7	404.1	25	37	30.2	45.7	26	179	68.0	164.3
7 4	0	17	46.1	109.3	288	477	194.0	479.6	481	673	368.0	772.1	19	56	67.6	113.3	41	220	79.2	243.5
7 5	0	17	190.2	299.5	69	546	164.7	644.3	116	789	486.1	1258.2	57	113	149.5	262.8	8	228	143.0	386.5
7 6	0	17	117.4	416.9	89	635	132.7	777.0	162	951	266.8	1525.0	152	265	99.4	362.2	7	235	126.4	513.0
8 1	0	17	53.9	470.7	73	708	59.3	836.3	131	1082	55.9	1580.9	22	287	42.9	405.1	1	236	77.1	590.1
8 2	0	17	35.6	506.3	27	735	32.9	869.2	58	1140	45.3	1626.2	38	325	22.3	427.4	20	256	35.6	625.7
8 3	0	17	22.1	528.4	3	738	14.9	884.1	57	1197	18.2	1644.4	17	342	5.9	433.3	5	261	32.7	658.3
8 4	0	17	6.9	535.3	1	739	8.9	893.0	12	1209	13.3	1657.7	9	351	6.4	439.7	3	264	10.7	669.0
8 5	0	17	4.7	540.0	10	749	3.2	896.2	10	1219	14.3	1672.0	20	371	3.2	442.9	9	273	9.6	678.5
8 6	0	17	1.2	541.2	3	752	4.2	900.4	3	1222	3.8	1675.8	0	371	0.5	443.4	3	276	4.9	683.4
9 1	0	17	0.4	541.7	0	752	0.5	900.9	0	1222	2.4	1678.2	1	372	1.0	444.4	0	276	2.2	685.7
9 2	0	17	0.4	542.1	0	752	0.5	901.4	4	1226	1.7	1679.9	3	375	0.8	445.2	0	276	0.9	686.5
9 3	0	17	1.0	543.1	0	752	0.4	901.8	3	1229	1.4	1681.3	1	376	0.1	445.3	1	277	0.3	686.9
9 4	0	17	0.1	543.2	0	752	1.0	902.8	5	1234	0.4	1681.7	0	376	0.2	445.5	0	277	0.3	687.2
9 5	0	17	0.3	543.6	0	752	0	902.8	3	1237	0.6	1682.3	1	377	0.2	445.7	0	277	0.4	687.7
9 6	0	17	0.4	544.0	0	752	0	902.8	0	1237	1.1	1683.4	0	377	0	445.7	1	278	0.6	688.2
10 1	0	1237	0.5	1683.9	0	1237	0.5	1683.9	0	1237	0.5	1683.9	0	377	0	445.7	1	278	0.6	688.2
10 2	0	1301	0.9	1684.8	0	1301	0.9	1684.8	0	1301	0.9	1684.8	0	377	0	445.7	1	278	0.6	688.2
10 3	0	1301	0	1684.8	0	1301	0	1684.8	0	1301	0	1684.8	0	377	0	445.7	1	278	0.6	688.2
10 4	0	1301	0.1	1684.9	0	1301	0.1	1684.9	0	1301	0.1	1684.9	0	377	0	445.7	1	278	0.6	688.2
10 5	0	1301	0.5	1685.4	0	1301	0.5	1685.4	0	1301	0.5	1685.4	0	377	0	445.7	1	278	0.6	688.2
10 6	0	1301	0	1685.4	0	1301	0	1685.4	0	1301	0	1685.4	0	377	0	445.7	1	278	0.6	688.2



○平年値は基本的に過去10年間（H23～R2）の平均値であるが、高島市の予察灯では、移設により10年分のデータがなく、平年値はH24～R2の9年間の平均値である。

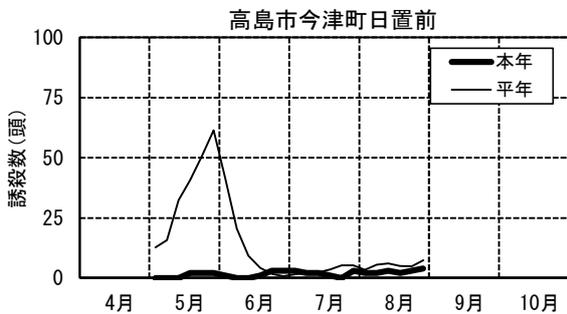
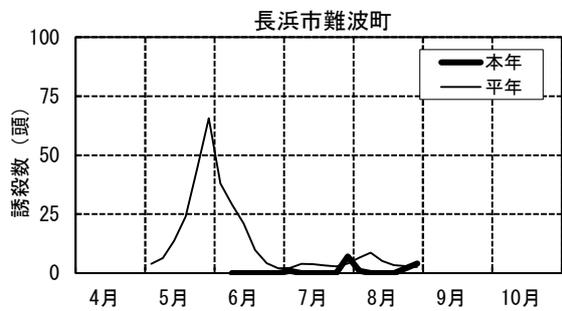
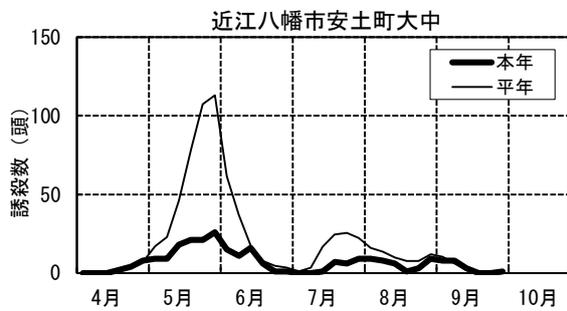
○調査機器変更により、大津市里の予察灯の6月2半旬以降のデータは欠測。

(ウ) フェロモントラップによる調査
ニカメイガ半旬別誘殺状況（フェロモントラップ）

月	半旬	近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前			
		本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
4	1	0	0	0.1	0.1								
	2	0	0	0	0.1								
	3	0	0	0.2	0.3								
	4	2	2	1.3	1.6								
	5	4	6	4.3	5.9								
	6	8	14	7.1	13.0								
5	1	9	23	17.0	30.0	0	3.9	3.9	0	0	12.6	12.6	
	2	9	32	22.9	52.9	0	6.3	10.2	0	0	15.8	28.4	
	3	18	50	46.0	98.9	0	13.7	23.9	0	0	32.4	60.8	
	4	21	71	78.8	177.7	0	24.0	47.9	2	2	40.8	101.5	
	5	21	92	107.4	285.1	0	44.4	92.3	2	4	50.4	151.9	
	6	26	118	113.2	398.3	0	65.7	158.0	2	6	61.3	213.3	
6	1	15	133	61.4	459.7	0	38.1	196.1	1	7	41.6	254.8	
	2	11	144	37.2	496.9	0	29.1	225.2	0	7	20.6	275.4	
	3	16	160	17.0	513.9	0	21.0	246.2	0	7	9.2	284.6	
	4	6	166	7.8	521.7	0	9.7	255.9	1	8	4.2	288.8	
	5	1	167	4.6	526.3	0	4.1	260.0	3	11	1.7	290.5	
	6	1	168	3.4	529.7	0	1.9	261.9	3	14	0.8	291.3	
7	1	0	168	0.9	530.6	1	2.2	264.1	3	17	1.6	292.8	
	2	0	0	3.4	3.4	0	3.9	3.9	2	2	2.1	2.1	
	3	1	1	16.7	20.1	0	3.7	7.6	2	4	2.3	4.4	
	4	7	8	24.6	44.7	0	3.2	10.8	1	5	3.6	8.0	
	5	6	14	25.7	70.4	0	2.8	13.6	0	5	5.3	13.3	
	6	9	23	22.4	92.8	7	4.0	17.6	3	8	5.3	18.7	
8	1	9	32	16.0	108.8	1	8	6.4	24.0	2	10	3.4	22.1
	2	8	40	13.6	122.4	0	8	8.6	32.6	2	12	5.6	27.7
	3	6	46	9.9	132.3	0	8	5.2	37.8	3	15	6.0	33.7
	4	1	47	7.6	139.9	0	8	3.3	41.1	2	17	5.0	38.7
	5	3	50	7.6	147.5	2	10	3.0	44.1	3	20	4.8	43.4
	6	9	59	11.9	159.4	4	14	2.6	46.7	4	24	7.3	50.8
9	1	8	67	10.3	169.7								
	2	8	75	6.1	175.8								
	3	3	78	2.0	177.8								
	4	0	78	0.9	178.7								
	5	0	78	1.0	179.7								
	6	1	79	0.4	180.1								

越冬世代

第1世代



- ・表中の累積誘殺頭数は、越冬世代と第1世代を区別するため、4月第1半旬～7月第1半旬を越冬世代、7月第2半旬～調査終了時を第1世代として積算している。
- ・近江八幡市安土町大中、長浜市難波町の平年値はH23～R2の10年間の平均値。
- ・高島市今津町日置前の平年値はH24～R2の9年間の平均値。
- ・長浜市の5月1半旬～6月1半旬までのデータは欠測。

エ 一般ほ場における調査

(ア) すくい取りおよび払い落とし調査

a ツマグロヨコバイ、ヒメトビウンカ (越冬量調査)

(頭)

調査地点名		害虫名	ツマグロヨコバイ			ヒメトビウンカ		
			成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計
		月日	4/5~8					
大津市	関津		26	0	26	0	0	0
	和邇北浜		16	0	16	2	0	2
草津市	下笠町		4	1	5	1	0	1
守山市	荒見町		0	0	0	0	0	0
栗東市	上砥山		0	0	0	0	0	0
野洲市	北		0	0	0	0	0	0
湖南市	菩提寺		1	0	1	0	0	0
甲賀市	水口町山		0	0	0	0	0	0
	甲賀町滝		0	0	0	0	0	0
	信楽町牧		0	0	0	0	0	0
近江八幡市	野村町		0	0	0	2	0	2
	安土町大中		15	0	15	2	0	2
日野町	内池		2	0	2	2	0	2
竜王町	小口		0	0	0	0	0	0
東近江市	林田町		0	0	0	0	0	0
	市原野町		9	0	9	2	1	3
	妹町		1	0	1	0	1	1
	五個荘平阪町		4	1	5	1	1	2
	栗見新田町		6	0	6	2	0	2
	市子川原町		13	0	13	0	1	1
彦根市	田附町		0	0	0	1	0	1
愛荘町	東円堂		0	0	0	0	0	0
甲良町	法養寺		0	0	0	2	0	2
多賀町	大岡		0	0	0	0	0	0
米原市	本市場		0	0	0	0	0	0
	入江		0	0	0	0	0	0
	西円寺		0	0	0	0	0	0
長浜市	永久寺町		0	0	0	0	0	0
	湯次町		0	0	0	0	0	0
	早崎町		0	0	0	0	0	0
	高月町柳野中		1	0	1	0	0	0
	余呉町下余呉		0	0	0	0	0	0
高島市	マキノ町知内		0	2	2	0	0	0
	今津町上弘部		0	0	0	1	0	1
	安曇川町北船木		0	0	0	0	0	0
	新旭町旭		2	0	2	0	0	0

すくい取り：1地点 50回振 合計虫数

b セジロウンカ、トビイロウンカ、ヒメトビウンカ、ツマグロヨコバイ、フタオビコヤガ

(頭)

調査地点名	害虫名 調査方法 調査月日	セジロウンカ			トビイロウンカ			ヒメトビウンカ		ツマグロヨコバイ		フタオビ コヤガ
		すくい取り		払落	すくい取り		払落	すくい取り		すくい取り		払落
		7/6~14	8/16~26	8/16~26	7/6~14	8/16~26	8/16~26	7/6~14	8/16~26	7/6~14	8/16~26	6/28~29
大津市	関津	1	17	0	0	0	0	4	74	1	3	0
	和邇南浜	1	9	0	0	0	0	0	240	0	202	0
草津市	下笠町	2	3	0	0	0	0	4	41	7	349	0
守山市	赤野井町	0	0	0	0	0	0	1	225	0	0	0
栗東市	上砥山	1	2	0	0	0	0	7	423	0	0	0
野洲市	上屋	0	0	0	0	0	0	13	160	7	2	0
湖南市	岩根	1	11	2	0	0	0	0	121	0	3	0
甲賀市	水口町山	0	0	0	0	0	0	2	5	0	0	0
	甲賀町滝	0	12	0	0	0	0	2	376	0	0	0
	信楽町黄瀬	0	0	0	0	0	0	4	191	0	0	1
近江八幡市	野村町	0	5	0	0	0	0	3	253	0	1	0
	安土町大中	2	1	1	0	0	0	16	254	2	50	0
日野町	十禅師	1	0	0	0	0	0	84	1081	2	1	0
竜王町	小口	0	0	0	0	0	0	13	190	0	0	0
東近江市	林田町	0	5	0	0	0	0	70	828	0	3	0
	川合町	9	0	0	0	0	0	6	634	0	0	0
	石谷町	1	1	0	0	0	0	1	76	0	12	0
	五個荘平阪町	1	1	0	0	0	0	10	124	0	0	0
	栗見新田町	5	1	0	0	0	0	4	338	0	3	0
	鯉江町	0	2	0	0	0	0	83	139	3	30	0
彦根市	新海町	0	3	0	0	0	0	57	394	0	0	0
愛荘町	東円堂	0	0	0	0	0	0	21	382	2	30	0
甲良町	法養寺	0	0	0	0	0	0	32	98	0	0	0
多賀町	土田	0	0	0	0	0	0	88	264	0	0	0
米原市	本市場	0	0	0	0	0	0	6	194	0	1	0
	入江	0	0	0	0	0	0	0	49	0	0	0
	西円寺	0	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0
長浜市	永久寺町	0	1	0	0	0	0	0	67	1	12	0
	湯次町	2	0	0	0	0	0	2	30	0	0	0
	早崎町	1	0	0	0	0	0	19	197	8	23	0
	高月町柳野中	0	0	0	0	0	0	1	463	1	66	0
	余呉町坂口	0	0	0	0	0	0	0	44	0	0	0
高島市	マキノ町知内	0	0	0	0	0	0	1	42	0	1	0
	今津町上弘部	0	1	0	0	0	0	4	41	0	1	0
	安曇川町北船木	0	2	0	0	0	0	0	191	1	2	0
	新旭町北畑	0	0	0	0	0	0	0	126	2	62	0

すくい取り：1地点 1筆10回 5筆50回振 合計虫数（成幼合計）

払い落とし：1地点 1筆5株 5筆25株 合計虫数（成幼合計）

c 斑点米カメムシ類（7月11日基準調査）

(頭)

調査月日 調査場所		7/6~14											
		本田						畦畔					
		ホソハリ カメムシ	クモヘリ カメムシ	トゲシラホシ カメムシ	アカスジ カスミカメ	アカヒゲホソミ ドリカスミカメ	その他 斑点米 カメムシ類	ホソハリ カメムシ	クモヘリ カメムシ	トゲシラホシ カメムシ	アカスジ カスミカメ	アカヒゲホソミ ドリカスミカメ	その他 斑点米 カメムシ類
大津市	関津	0	0	0	0	0	0	4	0	1	38	2	1
	和邇南浜	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	5
草津市	下笠町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	1	0
守山市	赤野井町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
栗東市	上砥山	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
野洲市	上屋	1	0	0	0	0	0	13	0	0	33	5	0
湖南市	岩根	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0
	水口町山	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	2
	甲賀町滝	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0	0	0
甲賀市	信楽町黄瀬	1	1	0	0	0	0	12	1	0	0	0	0
	野村町	0	0	0	0	0	3	65	45	0	55	9	6
	安土町大中	0	0	0	0	0	0	1	0	0	91	107	18
日野町	十禅師	0	0	0	0	0	3	6	8	1	0	2	3
竜王町	小口	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	1
東近江市	林田町	0	0	0	0	0	0	0	1	0	25	8	5
	川合町	0	0	0	0	0	0	6	0	0	3	5	5
	石谷町	0	0	0	0	0	0	7	2	0	45	1	1
	五個荘平阪町	0	6	0	0	1	0	0	0	0	0	0	6
	栗見新田町	0	0	0	0	0	0	5	5	0	11	1	1
	鯉江町	0	0	0	0	0	1	11	0	0	6	4	4
彦根市	新海町	0	0	0	0	0	0	20	0	0	7	9	10
愛荘町	東円堂	0	0	0	0	0	0	4	0	0	136	4	1
甲良町	法養寺	0	0	0	0	0	0	9	3	3	27	0	6
多賀町	土田	0	2	0	0	2	0	0	40	0	4	5	8
米原市	本市場	0	0	0	0	0	0	6	5	0	52	15	1
	入江	0	0	0	0	0	0	1	0	0	7	0	1
	西円寺	0	0	0	0	0	0	3	0	0	26	0	1
長浜市	永久寺町	0	9	0	10	0	2	12	2	0	8	0	5
	湯次町	1	1	0	0	0	0	11	0	0	6	0	25
	早崎町	1	0	0	0	0	0	4	0	1	0	0	0
	高月町柳野中	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	3
	余呉町坂口	0	0	0	0	0	0	63	12	0	3	0	0
	マキノ町知内	0	0	0	0	0	0	1	1	0	31	5	4
高島市	今津町上弘部	0	0	0	0	0	0	12	51	8	53	5	17
	安曇川町北船木	0	0	0	1	0	0	0	0	0	9	1	4
	新旭町北畑	0	0	0	0	0	1	0	0	3	81	0	4

すくい取り：1地点 1筆10回 5筆50回振 合計虫数

d 斑点米カメムシ類（糊熟期調査）

(頭)

調査地点名	調査月日 イネの生育ステージ 害虫名	8/16～8/26 糊熟期					
		ホソハリ カメムシ	クモヘリ カメムシ	トゲシラホシ カメムシ	アカスジ カスミカメ	アカヒゲホソミ ドリカスミカメ	その他 斑点米 カメムシ類
		大津市	関津	0	2	0	0
	和邇南浜	2	5	0	35	0	1
草津市	下笠町	3	0	0	0	0	0
守山市	赤野井町	0	0	0	0	0	0
栗東市	上砥山	0	0	0	0	0	0
野洲市	上屋	2	0	0	0	0	0
湖南市	岩根	0	1	0	0	0	0
甲賀市	水口町山	0	0	0	0	0	0
	甲賀町滝	1	1	1	1	0	0
	信楽町黄瀬	0	0	0	0	0	0
近江八幡市	野村町	0	0	0	0	0	0
	安土町大中	0	0	0	5	0	2
日野町	十禅師	1	3	0	0	0	0
竜王町	小口	0	0	0	0	0	0
東近江市	林田町	3	0	2	0	0	1
	川合町	0	0	0	0	0	0
	石谷町	0	0	1	0	0	0
	五個荘平阪町	0	0	0	0	0	0
	栗見新田町	0	0	0	0	1	0
	鯉江町	0	0	0	6	0	1
彦根市	新海町	0	0	0	0	0	0
愛荘町	東円堂	0	0	0	86	0	1
甲良町	法養寺	0	0	1	0	0	0
多賀町	土田	0	0	0	0	0	1
米原市	本市場	1	0	0	3	0	0
	入江	10	4	0	0	0	1
	西円寺	0	0	0	0	0	0
長浜市	永久寺町	10	0	0	35	0	0
	湯次町	0	0	0	0	0	0
	早崎町	1	0	0	0	0	0
	高月町柳野中	1	0	0	11	0	1
	余呉町坂口	1	1	0	0	0	0
高島市	マキノ町知内	0	0	0	0	0	0
	今津町上弘部	0	1	0	1	0	0
	安曇川町北船木	1	0	0	0	0	0
	新旭町北畑	0	0	0	5	0	0

すくい取り：1地点 1筆10回 5筆50回振 合計虫数

e コバネイナゴ、クサキリ、ササキリ

(頭)

調査地点名	調査月日 調査場所 害虫名	7/6~14						8/16~26
		本田			畦畔			本田
		コバネイナゴ	クサキリ	ササキリ	コバネイナゴ	クサキリ	ササキリ	コバネイナゴ
大津市	関津	0	0	0	4	0	0	1
	和邇南浜	5	0	0	1	0	0	1
草津市	下笠町	15	0	5	1	0	0	20
守山市	赤野井町	0	0	0	0	0	0	0
栗東市	上砥山	7	0	1	0	0	0	0
野洲市	上屋	51	0	3	0	0	3	2
湖南市	岩根	3	0	1	0	0	3	0
甲賀市	水口町山	2	0	0	20	0	0	3
	甲賀町滝	57	0	4	4	2	0	13
	信楽町黄瀬	5	0	1	0	0	0	4
近江八幡市	野村町	4	0	0	0	0	1	1
	安土町大中	2	0	0	2	0	3	1
日野町	十禅師	1	0	1	0	0	0	2
竜王町	小口	10	0	1	0	1	0	0
東近江市	林田町	3	0	0	0	0	0	0
	川合町	0	0	0	0	0	1	1
	石谷町	43	0	2	3	1	28	6
	五個荘平阪町	8	0	0	0	0	0	1
	栗見新田町	0	0	0	0	0	0	0
	鯉江町	21	0	1	1	0	0	2
彦根市	新海町	3	0	0	1	0	3	1
愛荘町	東円堂	13	0	2	0	0	0	0
甲良町	法養寺	3	0	0	1	0	0	0
多賀町	土田	3	0	0	2	0	1	2
米原市	本市場	1	0	0	1	0	0	0
	入江	10	0	0	0	0	0	1
	西円寺	0	0	0	0	0	1	8
長浜市	永久寺町	9	0	0	1	0	2	1
	湯次町	8	0	1	1	0	0	4
	早崎町	8	0	0	1	0	3	1
	高月町柳野中	25	0	1	2	0	0	0
	余呉町坂口	55	0	0	0	0	0	18
	マキノ町知内	0	0	0	0	1	0	0
高島市	今津町上弘部	0	0	0	5	0	4	1
	安曇川町北船木	0	0	0	4	0	4	1
	新旭町北畑	6	0	1	4	0	4	2

1地点 1筆10回 5筆50回振 合計虫数 (成幼虫数)

(イ) 発生量調査

a 地点別調査結果

病害虫名 調査地点名		葉いもち		穂いもち		紋 枯 病		もみ枯細菌病		白葉枯病	
		発 生 ほ場率	平 均 発病度	発 生 ほ場率	平均発 病穂率	発 生 ほ場率	平 均 発病度	発 生 ほ場率	平均発 病株率	発 生 ほ場率	平 均 発病度
大 津 市	関 津	20	0.2	100	3.34	100	9.4	0	0	0	0
	和 邇 南 浜	0	0	100	0.39	100	1.6	0	0	0	0
草 津 市	下 笠 町	0	0	80	0.71	100	3.4	0	0	0	0
守 山 市	赤 野 井 町	100	20	100	3.23	100	19.6	0	0	0	0
栗 東 市	上 砥 山	100	4	100	1.61	60	2.0	0	0	0	0
野 洲 市	上 屋	80	3.0	100	1.32	100	11.0	0	0	0	0
湖 南 市	岩 根	20	0.2	100	1.25	100	12.8	0	0	0	0
甲 賀 市	水 口 町 山	0	0	100	0.55	40	1.6	0	0	0	0
	甲 賀 町 滝	0	0	100	0.81	100	5.6	0	0	0	0
	信 楽 町 黄 瀬	0	0	100	0.77	100	11.2	0	0	0	0
近 江 八 幡 市	野 村 町	0	0	100	1.77	80	3.4	0	0	0	0
	安 土 町 大 中	40	0.4	80	0.47	60	0.8	0	0	0	0
日 野 町	十 禅 師	80	2.0	100	1.16	80	3.4	0	0	0	0
竜 王 町	小 口	0	0.0	100	1.71	100	26.0	0	0	0	0
東 近 江 市	林 田 町	20	0.4	80	0.22	80	2.4	0	0	0	0
	川 合 町	20	0.6	80	0.18	100	18.2	0	0	0	0
	石 谷 町	0	0	60	0.24	20	0.6	0	0	0	0
	五 個 荘 平 阪 町	0	0	20	0.18	60	4.0	0	0	0	0
	栗 見 新 田 町	100	4.6	100	0.63	80	2.4	0	0	0	0
	鯉 江 町	80	3.6	100	2.91	40	0.4	0	0	0	0
彦 根 市	新 海 町	0	0	80	0.23	100	4.8	0	0	0	0
愛 荘 町	東 円 堂	0	0	40	0.07	60	0.6	0	0	0	0
甲 良 町	法 養 寺	20	0.2	20	0.03	80	2.6	0	0	0	0
多 賀 町	土 田	0	0	0	0	80	2.2	0	0	0	0
米 原 市	本 市 場	0	0	40	0.08	40	0.4	0	0	0	0
	入 江	0	0	100	0.18	40	0.4	0	0	0	0
	西 円 寺	0	0	60	0.12	80	5.8	0	0	0	0
長 浜 市	永 久 寺 町	0	0	60	0.11	100	3.4	0	0	0	0
	湯 次 町	0	0	60	0.23	60	13.0	0	0	0	0
	早 崎 町	20	0.2	60	0.14	100	26.6	0	0	0	0
	高 月 町 柳 野 中	20	0.2	80	0.16	100	29.0	0	0	0	0
	余 呉 町 坂 口	80	1.0	100	2.47	100	23.8	0	0	0	0
高 島 市	マキノ町知内	40	0.4	80	0.16	60	1.4	0	0	0	0
	今津町上弘部	0	0	40	0.12	100	4.2	0	0	0	0
	安曇川町北船木	100	1.0	100	0.30	100	6.2	0	0	0	0
	新旭町北畑	40	0.4	80	0.41	100	5.2	0	0	0	0

1 地点 5 筆調査。発生ほ場率 (%) は、5 筆中に対象病害が発生した筆数より算出。

平均発病度は、1 筆あたり25株の発病度を調査し、5 筆の平均を算出したもの。

平均発病穂 (株) 率 (%) は、1 筆あたり25株を調査して発病穂 (株) 率を求め、5 筆の平均を算出したもの。

発病度の算出は、発生予察事業の調査実施基準 (平成28年農林水産省生産局植物防疫課) に従った。

地点別調査結果（つづき）

調査地点名	病害虫名	ごま葉枯病		稲こうじ病		ばか苗病		黄萎病（立毛中）		黄萎病（再生芽）	
		発生ほ場率	平均発病度	発生ほ場率	平均発病株率	発生ほ場率	平均発病株率	発生ほ場率	平均発病株率	発生ほ場率	平均発病株率
大津市	関津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	和邇南浜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
草津市	下笠町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
守山市	赤野井町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
栗東市	上砥山	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
野洲市	上屋	100	5.4	0	0	0	0	0	0	0	0
湖南市	岩根	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
甲賀市	水口町山	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	甲賀町滝	0	0	40	0.4	0	0	0	0	0	0
	信楽町黄瀬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
近江八幡市	野村町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	安土町大中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日野町	十禅師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
竜王町	小口	60	0.8	0	0	0	0	0	0	0	0
東近江市	林田町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	川合町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	石谷町	40	1.2	0	0	0	0	0	0	0	0
	五個荘平阪町	0	0	20	0.2	0	0	0	0	0	0
	栗見新田町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	鯉江町	20	0.6	80	1.0	0	0	0	0	0	0
彦根市	新海町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
愛荘町	東円堂	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
甲良町	法養寺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
多賀町	土田	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
米原市	本市場	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入江	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	西円寺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
長浜市	永久寺町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	湯次町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	早崎町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	高月町柳野中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	余呉町坂口	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高島市	マキノ町知内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	今津町上弘部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	安曇川町北船木	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	新旭町北畑	0	0	40	0.4	20	0.2	0	0	0	0

1 地点5筆調査。発生ほ場率（％）は、5筆中对象病害が発生した筆数より算出。

平均発病度は、1筆あたり25株の発病度を調査し、5筆の平均を算出したもの。

平均発病株率（％）は、1筆あたり稲こうじ病で50株、ばか苗病で100株、黄萎病（立毛中）で25株、黄萎病（再生芽）で400株を調査して発病株率を求め、5筆の平均を算出したもの。

発病度の算出は、発生予察事業の調査実施基準（平成28年農林水産省生産局植物防疫課）に従った。

地点別調査結果（つづき）

調査地点名		病害虫名	縞葉枯病(立毛中)		縞葉枯病(再生芽)		イネミズゾウムシ		イネドロオイムシ	
			発生ほ場率	平均発病株率	発生ほ場率	平均発病株率	発生ほ場率	平均被害度	発生ほ場率	平均被害度
大津市	関津	0	0	100	0.4	40	0.6	20	0.2	
	和邇南浜	0	0	60	0.3	100	10.0	100	1.0	
草津市	下笠町	0	0	100	1.7	100	6.8	0	0	
守山市	赤野井町	0	0	100	1	100	4.6	0	0	
栗東市	上砥山	0	0	100	2.1	100	3.0	60	0.6	
野洲市	上屋	0	0	100	2.5	100	20.0	0	0	
湖南市	岩根	0	0	100	1.0	0	0	0	0	
甲賀市	水口町山	0	0	100	0.8	100	9.8	100	2.0	
	甲賀町滝	0	0	100	0.3	100	13.4	100	1.8	
	信楽町黄瀬	0	0	40	0.1	80	2.4	100	2.6	
近江八幡市	野村町	0	0	100	0.5	100	9.2	0	0	
	安土町大中	0	0	40	1.0	20	0.2	0	0	
日野町	十禅師	0	0	80	0.5	100	8.6	40	0.4	
竜王町	小口	40	1.6	100	5.0	80	3.2	0	0	
東近江市	林田町	20	0.8	100	1.0	60	0.8	0	0	
	川合町	0	0	100	4.7	60	6.6	0	0	
	石谷町	0	0	0	0	100	13.8	0	0	
	五個荘平阪町	20	0.8	20	0.1	80	3.0	0	0	
	栗見新田町	0	0	100	1.3	100	6.8	0	0	
	鯉江町	20	0.8	60	0.3	100	21.0	40	0.4	
彦根市	新海町	0	0	60	0.2	80	2.4	0	0	
愛荘町	東円堂	20	0.8	100	2.8	80	6.2	0	0	
甲良町	法養寺	0	0	100	0.7	100	3.6	0	0	
多賀町	土田	0	0	100	1.2	20	0.2	0	0	
米原市	本市場	0	0	40	0.1	80	1.4	0	0	
	入江	0	0	0	0	100	3.2	0	0	
	西円寺	0	0	80	0.2	60	14.0	100	1.0	
長浜市	永久寺町	0	0	40	0.1	100	3.0	0	0	
	湯次町	0	0	80	0.2	100	2.6	0	0	
	早崎町	0	0	100	0.5	100	3.6	0	0	
	高月町柳野中	0	0	80	0.2	100	3.2	0	0	
	余呉町坂口	0	0	0	0	80	1.0	100	1.0	
高島市	マキノ町知内	0	0	40	0.1	100	19.8	0	0	
	今津町上弘部	0	0	0	0	100	3.4	0	0	
	安曇川町北船木	0	0	20	0.1	100	4.2	0	0	
	新旭町北畑	0	0	20	0.1	100	6.6	0	0	

1地点5筆調査。発生ほ場率(%)は、5筆中に対象病害虫が発生した筆数より算出。

平均発病株率(%)は、1筆あたり縞葉枯病(立毛中)で25株、縞葉枯病(再生芽)で400株を調査して発病株率を求め、5筆の平均を算出したもの。

平均被害度は、1筆あたり25株の被害度を調査し、5筆の平均を算出したもの。

被害度の算出は、発生予察事業の調査実施基準(平成28年農林水産省生産局植物防疫課)に従った。

地点別調査結果（つづき）

調査地点名		病害虫名		ニカメイガ(1)		ニカメイガ(2)		イチモンジセセリ	コブノメイガ		イネクロカメムシ
		発生ほ場率	平均被害株率	発生ほ場率	平均被害株率	発生ほ場率	発生ほ場率	平均被害株率	発生ほ場率		
大津市	関津	60	2.4	0	0.0	0	0	0	0	0	
	和邇南浜	100	4.0	40	0.4	0	0	0	0		
草津市	下笠町	80	4.0	80	0.8	40	0	0	0		
守山市	赤野井町	60	3.2	40	0.4	20	0	0	0		
栗東市	上砥山	100	6.4	40	0.4	0	0	0	0		
野洲市	上屋	100	16.8	60	0.6	20	0	0	0		
湖南市	岩根	100	4.8	100	1.0	0	0	0	0		
甲賀市	水口町山	80	4.0	20	0.2	0	0	0	0		
	甲賀町滝	100	6.4	20	0.2	0	0	0	0		
	信楽町黄瀬	80	3.2	40	0.4	20	0	0	0		
近江八幡市	野村町	100	5.6	60	0.8	0	0	0	40		
	安土町大中	20	0.8	20	0.2	0	0	0	0		
日野町	十禅師	80	3.2	80	0.8	0	0	0	0		
竜王町	小口	100	16.8	40	0.4	0	0	0	0		
東近江市	林田町	80	3.2	0	0.0	0	0	0	0		
	川合町	80	3.2	40	0.4	0	0	0	0		
	石谷町	0	0	100	1.0	0	0	0	0		
	五個荘平阪町	40	1.6	60	0.6	0	0	0	0		
	栗見新田町	80	3.2	40	0.4	20	0	0	0		
	鯉江町	100	5.6	40	0.4	40	0	0	0		
彦根市	新海町	0	0	20	0.2	0	0	0	0		
愛荘町	東円堂	20	0.8	0	0	0	0	0	0		
甲良町	法養寺	100	4.0	60	0.6	0	0	0	0		
多賀町	土田	60	2.4	60	0.6	0	0	0	0		
米原市	本市場	40	1.6	80	0.8	0	0	0	0		
	入江	0	0	100	2.0	0	0	0	0		
	西円寺	60	2.4	80	0.8	0	0	0	0		
長浜市	永久寺町	100	4.0	80	0.8	0	0	0	0		
	湯次町	100	4.0	80	0.8	0	0	0	0		
	早崎町	100	8.0	100	1.0	0	0	0	0		
	高月町柳野中	60	2.4	100	1.0	0	0	0	0		
	余呉町坂口	60	2.4	40	0.4	0	0	0	0		
高島市	マキノ町知内	100	4.0	40	0.4	0	0	0	0		
	今津町上弘部	100	4.0	60	0.6	0	0	0	0		
	安曇川町北船木	100	4.0	0	0	0	0	0	0		
	新旭町北畑	100	4.0	40	0.4	0	0	0	0		

1地点5筆調査。発生ほ場率(%)は、5筆中に対象害虫が発生した筆数より算出。

平均被害株率(%)は、1筆あたり25株を調査して被害株率を求め、5筆の平均を算出したもの。

b 地域別集計表

病害虫名	葉いもち				穂いもち				紋枯病			
	発病度		ほ場率(%)		発病率(%)		ほ場率(%)		発病度		ほ場率(%)	
	本	平	本	平	本	平	本	平	本	平	本	平
大津南部	4.6	1.7	50.0	35.1	1.8	0.3	96.7	54.2	7.8	11.6	93.3	88.4
甲賀	0.1	1.2	5.0	25.4	0.8	0.9	100	54.4	7.8	6.1	85.0	77.0
東近江	1.2	1.1	34.0	22.6	0.9	0.6	82.0	57.6	6.2	13.4	70.0	90.2
湖東	0.1	0.7	5.0	12.2	0.1	0.3	35.0	47.8	2.6	9.8	80.0	76.0
湖北	0.2	0.5	15.0	10.0	0.4	0.3	70.0	41.7	12.8	5.8	77.5	68.4
高島	0.5	0.8	45.0	21.0	0.2	0.5	75.0	66.0	4.3	6.7	90.0	72.5
全県	1.2	1.0	27.2	20.8	0.8	0.5	77.8	53.0	7.5	9.3	80.6	79.8

病害虫名	もみ枯細菌病				白葉枯病				ごま葉枯病			
	発病株率(%)		ほ場率(%)		発病度		ほ場率(%)		発病度		ほ場率(%)	
	本	平	本	平	本	平	本	平	本	平	本	平
大津南部	0	-	0	-	0	0.4	0	15.2	0.9	0.1	16.7	5.9
甲賀	0	-	0	-	0	2.9	0	24.6	0	0.4	0	12.3
東近江	0	-	0	-	0	0.3	0	15.4	0.3	0.3	12.0	10.8
湖東	0	-	0	-	0	0.0	0	1.6	0	0.0	0	1.2
湖北	0	-	0	-	0	0.0	0	0.9	0	0.0	0	1.6
高島	0	-	0	-	0	0.0	0	2.5	0	0.0	0	2.0
全県	0	-	0	-	0	0.4	0	10.2	0.2	0.2	6.1	6.1

病害虫名	稲こうじ病				ばか苗病				黄萎病(立毛中)			
	発病株率(%)		ほ場率(%)		発病株率(%)		ほ場率(%)		発病株率(%)		ほ場率(%)	
	本	平	本	平	本	平	本	平	本	平	本	平
大津南部	0	0.0	0	0.3	0	-	0	-	0	0	0	0
甲賀	0.1	0.0	10.0	0.8	0	-	0	-	0	0	0	0
東近江	0.1	0.1	10.0	3.0	0	-	0	-	0	0	0	0
湖東	0	0.0	0	0.4	0	-	0	-	0	0	0	0
湖北	0	0.4	0	5.2	0	-	0	-	0	0	0	0
高島	0.1	0.0	10.0	0.5	0	-	0	-	0	0	0	0
全県	0.1	0.1	5.0	2.2	0	-	0	-	0	0	0	0

病害虫名	黄萎病(再生芽)				縞葉枯病(立毛中)				縞葉枯病(再生芽)			
	発病株率(%)		ほ場率(%)		発病株率(%)		ほ場率(%)		発病株率(%)		ほ場率(%)	
	本	平	本	平	本	平	本	平	本	平	本	平
大津南部	0	0	0	0	0	-	0	-	1.4	3.2	93.3	66.0
甲賀	0	0.0	0	1.2	0	-	0	-	0.5	0.8	85.0	55.4
東近江	0	0.0	0	0.8	0.4	-	10.0	-	1.4	1.6	70.0	64.4
湖東	0	0	0	0	0.2	-	5.0	-	1.2	0.5	90.0	62.9
湖北	0	0.0	0	0.9	0	-	0	-	0.2	0.5	52.5	44.3
高島	0	0.0	0	1.0	0	-	0	-	0.1	0.1	20.0	20.5
全県	0	0.0	0	0.7	0.1	-	3.3	-	0.9	1.2	68.3	54.3

病害虫名	イネミズゾウムシ				イネドロオイムシ				ニカメイガ第1世代			
	被害度		ほ場率(%)		被害度		ほ場率(%)		被害株率(%)		ほ場率(%)	
	本	平	本	平	本	平	本	平	本	平	本	平
大津南部	7.5	11.7	90.0	82.6	0.3	0.2	30.0	9.8	6.1	11.1	83.3	77.5
甲賀	6.4	10.9	70.0	72.4	1.6	0.8	75.0	29.0	4.6	6.7	90.0	55.0
東近江	7.3	12.9	80.0	75.0	0.1	0.1	8.0	3.8	4.3	9.6	68.0	78.2
湖東	3.1	5.2	70.0	75.3	0	0.0	0	0.9	1.8	9.1	45.0	72.0
湖北	4.1	11.9	77.5	70.7	0.3	0.2	25.0	8.9	3.1	9.0	65.0	64.4
高島	8.5	28.7	100	97.0	0	0.2	0	8.0	4.0	5.3	100	53.5
全県	6.3	12.9	81.1	77.3	0.3	0.2	21.1	9.0	4.1	8.9	73.3	68.9

病害虫名	ニカメイガ第2世代				イチモンジセセリ		コブノメイガ				イネクロカメムシ	
	被害株率(%)		ほ場率(%)		ほ場率(%)		被害株率(%)		ほ場率(%)		ほ場率(%)	
	本	平	本	平	本	平	本	平	本	平	本	平
大津南部	0.4	5.9	43.3	64.2	13.3	12.7	0	0.7	0	16.6	0	1.5
甲賀	0.5	4.0	45.0	55.1	5.0	7.4	0	0.6	0	13.7	0	0.5
東近江	0.5	6.5	48.0	74.8	6.0	12.0	0	0.6	0	14.2	4.0	1.2
湖東	0.4	4.3	35.0	78.9	0	7.2	0	0.9	0	21.4	0	0
湖北	1.0	4.1	82.5	80.8	0	13.4	0	1.8	0	32.4	0	0.2
高島	0.4	3.4	35.0	76.0	0	11.5	0	3.9	0	42.0	0	0
全県	0.6	5.0	51.7	72.6	4.4	11.2	0	1.3	0	22.3	1.1	0.6

発病度および被害度の算出は、発生子察事業の調査実施基準(平成28年農林水産省生産局植物防疫課)に従った。
もみ枯細菌病、ばか苗病、縞葉枯病(立毛中)は平成28年度から調査開始のため平年値なし。

c 精密調査ほ調査結果

調査地点名	害虫名	斑点米カメムシ類(頭)		斑点米被害率(%)				
		畦畔発生量	本田発生量	標準斑点米	黒触粒	尻黒粒	基部加害型	合計
		6/28~29	7/26~8/4	収穫後				
大津市	関津	-	1	0	0.02	0.02	0.16	0.20
	和邇南浜	21	16	0.03	0	0	0	0.03
草津市	下笠町	2	5	0.03	0.01	0.02	0	0.06
守山市	赤野井町	-	2	0.04	0.02	0	0.01	0.07
栗東市	上砥山	2	0	0.01	0.03	0	0.22	0.26
野洲市	上屋	7	0	0.01	0	0	0.04	0.06
湖南市	岩根	1	0	0.09	0.03	0	0.03	0.15
甲賀市	水口町山	-	0	0.03	0	0	0.03	0.05
	甲賀町滝	11	8	0.03	0.03	0.04	0.01	0.11
	信楽町黄瀬	-	76	0.04	0.06	0.01	0.01	0.13
近江八幡市	野村町	16	20	0.06	0.02	0.05	0.04	0.17
	安土町大中	-	-	0.04	0.08	0.04	0.06	0.22
日野町	十禅師	-	0	0.01	0.08	0.02	0.01	0.11
竜王町	小口	5	0	0	0.01	0.02	0	0.03
東近江市	林田町	-	24	0.15	0.10	0.04	0	0.28
	川合町	-	1	0.03	0.26	0.04	0	0.33
	石谷町	-	-	0.07	0.02	0.01	0.02	0.12
	五個荘平阪町	-	0	0.01	0.04	0.03	0.03	0.11
	栗見新田町	-	4	0.07	0.05	0.04	0.04	0.19
	鯉江町	38	97	0.34	0.15	0.39	0.07	0.94
彦根市	新海町	102	2	0.05	0	0.01	0	0.06
愛荘町	東円堂	-	7	0.59	0.62	1.13	0.06	2.41
甲良町	法養寺	6	0	0.06	0	0.02	0.10	0.17
多賀町	土田	53	1	0.04	0	0.01	0.01	0.05
米原市	本市場	9	1	0	0.03	0	0	0.03
	入江	20	-	0.06	0.01	0.04	0	0.11
	西円寺	1	6	0.02	0.01	0.01	0.01	0.05
長浜市	永久寺町	9	111	0.04	0	0.15	0.01	0.21
	湯次町	5	1	0.01	0.03	0.04	0.01	0.10
	早崎町	0	1	0.01	0	0.05	0.04	0.11
	高月町柳野中	1	11	0.01	0.04	0.03	0.01	0.10
	余呉町坂口	0	7	0.02	0.05	0	0.02	0.08
高島市	マキノ町知内	6	20	0.03	0	0.08	0.05	0.16
	今津町上弘部	27	35	0.10	0.04	0.06	0.02	0.21
	安曇川町北船木	0	1	0.02	0.01	0.02	0.02	0.09
	新旭町北畑	43	24	0	0.02	0.05	0	0.07

畦畔の斑点米カメムシ類発生量は捕虫網10回振り調査、-は畦畔除草されていたことを示す。
 本田の斑点米カメムシ類発生量は捕虫網50回振り調査、-は出穂していなかったことを示す。
 斑点米被害率はランダムにサンプリングした100穂の全粒から求めた値。なお各斑点米被害率の値は四捨五入をしているため、それらの合計が、合計欄の値と合致しない場合がある。

d 水稻病虫害発生量調査定点配置図（36か所）



オ 初発見月日と初発見場所

病害名	初発見月日	初発見場所
葉いもち(置苗)	5/24	近江八幡市島町
葉いもち	6/21	近江八幡市島町
穂いもち	7/26	近江八幡市野村町
紋枯病	6/28	東近江市川合町
白葉枯病	9/7	甲賀市水口町春日
ばか苗病	5/24	長浜市落合町
もみ枯細菌病	—	—
ごま葉枯病	8/20	東近江市鯉江町
縞葉枯病	6/14	近江八幡市野村町
黄萎病	—	—
稲こうじ病	8/17	東近江市鯉江町

害虫名	初発見月日	初発見場所
ニカメイガ	4/24	長浜市難波町 (A予察灯)
	6/11	野洲市安治 (L)
セジロウンカ	5/30	大津市里 (A予察灯)
トビイロウンカ	9/9	大津市里 (A予察灯)
ヒメトビウンカ	4/5	大津市和邇北浜 (Aすくい取り)
ツマグロヨコバイ	4/5	大津市関津 (Aすくい取り)
イネドロオイムシ	6/14	大津市和邇南浜 (L)
イネクロカメムシ	6/14	近江八幡市野村町 (A)
ホソハリカメムシ	5/14	守山市矢島町 (A予察灯)
クモヘリカメムシ	6/28	近江八幡市野村町 (Aすくい取り)
トゲシラホシカメムシ	6/28	彦根市新海町 (Aすくい取り)
アカスジカスミカメ	5/7	大津市里 (A予察灯)
アカヒゲホソミドリカスミカメ	6/2	大津市里 (予察灯)
イネカメムシ	7/8	日野町十禅師 (A)
コバネヒョウタンナガカメムシ	7/6	長浜市高月町柳野中 (A)
イチモンジセセリ	6/15	竜王町小口 (L)
フタオビコヤガ	6/2	大津市里 (A予察灯)
コブノメイガ	9/14	高島市今津町深清水 (L)
イネミズゾウムシ	4/7	高島市今津町日置前 (A予察灯)
コバネイナゴ	5/31	東近江市鯉江町 (L)
スクミリンゴガイ	4/22	野洲市須原 (A)

注：初発見場所（ ）内 A：成虫、L：幼虫

カ 程度別発生面積と防除面積

作物名	栽培面積 (ha)	病虫害名	程度別発生面積 (ha)					発生面積率 (%)	被害面積率 (%)	防除面積 (ha)	
			甚	多	中	少	計			実防除	延防除
イネ	32,100	葉いもち	0	20	580	8200	8800	27.4	1.9	16000	16500
		穂いもち	5	195	800	24500	25500	79.4	3.1	9000	10000
		紋枯病	0	500	3000	21000	24500	76.3	10.9	2000	2000
		白葉枯病	0	0	0	100	100	0.3	0.0	6000	6000
		ばか苗病	0	0	0	400	400	1.2	0.0	7500	7500
		もみ枯細菌病	0	0	0	0	0	0.0	0.0	5000	5000
		ごま葉枯病	0	0	0	1000	1000	3.1	0.0	300	300
		縞葉枯病	0	0	0	1000	1000	3.1	0.0	22000	23000
		黄萎病	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0	0
		稲こうじ病	0	0	0	1500	1500	4.7	0.0	500	500
		ニカメイガ I	0	50	200	20000	20250	63.1	0.8	13000	13000
		ニカメイガ II	0	0	0	15000	15000	46.7	0.0	5000	5000
		セジロウンカ	0	0	0	15000	15000	46.7	0.0	22000	23000
		トビイロウンカ	0	0	0	50	50	0.2	0.0	22000	23000
		ヒメトビウンカ	0	100	1000	20000	21100	65.7	3.4	22000	23000
		ツマグロヨコバイ	0	0	1000	16000	17000	53.0	3.1	22000	23000
		イネドロオイムシ	0	0	100	6700	6800	21.2	0.3	14000	14000
		斑点米カメムシ類	0	100	1000	18000	19100	59.5	3.4	20000	20000
		イネクロカメムシ	0	0	0	400	400	1.2	0.0	4000	4000
		イチモンジセセリ	0	0	0	1400	1400	4.4	0.0	3000	3000
フタオビコヤガ	0	0	0	800	800	2.5	0.0	9000	9000		
コブノメイガ	0	0	0	100	100	0.3	0.0	500	500		
イネミズゾウムシ	0	0	500	25000	25500	79.4	1.6	14000	14000		
コバネイナゴ	0	10	500	19000	19510	60.8	1.6	6000	6000		
スクミリンゴガイ	0	0	3	29	32	0.1	0.0	17	18		

ニカメイガ I、II は第 1 世代、第 2 世代を指す

被害面積率 = 甚～中発生面積 / 栽培面積 × 100

(2) ムギ (令和2年秋播き)

ア 生育概況

10月後半の降雨の影響により播種初期は作業がやや遅れたが、11月は降水量が少なく、ほ場準備や播種作業が順調に進み、出芽・苗立ちは良好であった。11月中旬以降に播種したほ場では、12月中旬から1月上旬の気温が低く、生育は平年並からやや遅くなった。1月下旬以降は気温が高く推移し、生育は進み、草丈は高く、茎数は多く推移したが、茎数は平年より早い時期から減少に転じた。出穂期は平年より早く、開花期も4月の気温が高かったことから平年より早まった。5月に入ってから気温は平年より低く日照時間は少なく経過したことから、登熟は緩やかに進み、成熟期は平年並となった。

イ 発生状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
コムギ	うどんこ病	早	平年並	ほ場での初発確認は4月13日で、発生時期は早かったが、発生地域は一部に限られた。	3月の気温は高く、降水量は、やや多かったことから、初発時期が早まったと考えられる。 一方で、赤かび病防除の薬剤にうどんこ病への防除効果があるため、発生が抑制されていると考えられる。	赤かび病の防除時に同時防除の実施。
	赤かび病	やや早	多	ほ場での初発確認は5月6日で、発生時期は、やや早かった。全体的に発生が見られ(発生ほ場率82%)、発生量は多かった。	コムギの開花期前後である4月上旬～5月上旬の降水量は少なかった。一方で、5月中下旬にかけて降水量が多く、二次伝染の助長につながった。特に、新導入品種の赤かび病抵抗性が弱く、全体の発生量が多くなった。	開花期頃から1～2回の薬剤防除。 抵抗性弱品種については、2～3回の薬剤防除。
	黒節病	早	やや少	ほ場での初発確認は3月15日で、発生時期は平年並であった。ほ場での発生は、平年(発生ほ場率49%)と比較すると、やや少なく(R3:33%)、特に、昨年(R2:76%)、一昨年(R1:93%)と比較すると、発生は少なかった。	前年の10月中旬～下旬の降水が多かったため、早播きされたほ場は少なかった。また、コムギの茎数は、やや少なかったことから、株間湿度が低く、発生が抑制されたと考えられる。	排水対策の徹底や適期播種などによる耕種的防除。
オオムギ	うどんこ病	-	多	ほ場での初発確認は4月14日であった。過去10年で2回(H29、H30)しか、発生を確認していないため、平年と比較すると、発生は多くなった(発生ほ場率22%)。	3月の気温は高く、降水量は、やや多かったことから、各地で発生が認められた。	赤かび病の防除時に同時防除の実施。
	赤かび病	平年並	やや多	ほ場での初発確認は5月10日で、発生時期は平年並であった。全体的に発生が見られ、発生量は、やや多かった。	オオムギの開花期前後である4月上旬～5月上旬の降水量は少なかった。一方で、5月中下旬にかけて降水量が多く、二次伝染の発生助長につながった。	開花期頃から2回の薬剤防除。
	黒節病	やや早	平年並	ほ場での初発確認は3月17日で、発生時期は、やや早かったが、発生量は平年並となった。	前年の10月中旬～下旬の降水が多かったため、早播きされたほ場は少なかった。また、オオムギの茎数は、やや少なかったことから、株間湿度が低く、発生に抑制的に働いたと考えられる。一方で、前年の発生ほ場率は高かったことから(R2:91%)、発生量は平年並となった。	排水対策の徹底や適期播種などによる耕種的防除。

ウ 発生量調査

(ア) オオムギ

病害虫名 調査地点名	小さび病		うどんこ病		赤かび病		黒節病		縞萎縮病
	発生 ほ場率(%)	発生 面積率(%)	発生 ほ場率(%)	発生 面積率(%)	発生 ほ場率(%)	平均 発病度	発生 ほ場率(%)	平均発病 率(%)	発病 面積率(%)
大津市 関津	0	0	0	0	80	0.5	80	0.8	0
近江八幡市 長田町	0	0	0	0	0	0	100	20.0	0
竜王町 岡屋	0	0	0	0	80	0.5	40	0.4	0
東近江市 芝原町	0	0	0	0	80	0.5	20	0.2	0
長浜市 高月町柳野中	0	0	20	0.1	100	0.7	20	0.6	0
長浜市 湖北町山本	0	0	100	12.4	40	0.3	20	0.6	0
長浜市 口分田町	20	0.1	40	0.3	40	0.3	100	4.4	0
高島市 今津町下弘部	100	1.6	40	0.2	100	4.7	100	2.4	0
高島市 新旭町藁園	0	0	0	0	40	0.3	0	0	0
全県平均	13.3	0.2	22.2	1.4	62.2	0.9	53.3	3.3	0

※調査品種

「サチホゴールデン」：近江八幡市長田町

その他の地点は全て「ファイバースノウ」

(イ) コムギ

病害虫名 調査地点名	赤さび病		うどんこ病		赤かび病		黒節病		縞萎縮病
	発生 ほ場率(%)	発生 面積率(%)	発生 ほ場率(%)	発生 面積率(%)	発生 ほ場率(%)	平均 発病度	発生 ほ場率(%)	平均発病 率(%)	発病 面積率(%)
草津市 下笠町	60	0.3	0	0	100	5.2	0	0	1
守山市 木浜町	80	0.2	0	0	60	0.8	20	0.4	2
守山市 矢島町	0	0	0	0	60	0.4	40	0.4	0
栗東市 上砥山	100	1.1	20	0.0	80	1.1	60	1.0	1
野洲市 上屋	20	0.0	20	0.0	40	0.3	20	0.2	1
野洲市 木部	40	0.2	20	0.0	100	1.3	20	0.2	10
湖南市 菩提寺	20	0.1	0	0	100	0.9	0	0	10
甲賀市 水口町酒人	80	0.6	0	0	100	2.0	0	0	0
甲賀市 甲南町杉谷	0	0	0	0	100	1.1	0	0	1
近江八幡市 野村町	0	0	0	0	100	4.0	0	0	0
近江八幡市 安土町上豊浦	0	0	0	0	100	2.0	20	0.2	20
近江八幡市 御所内町	20	0.0	0	0	80	0.5	40	0.4	15
近江八幡市 多賀町	0	0	0	0	100	1.2	20	0.2	15
近江八幡市 白王町	0	0	0	0	100	0.9	60	0.8	3
日野町 十禅師	40	0.7	0	0	40	0.4	60	0.6	0
竜王町 小口	60	0.1	20	0.0	100	0.9	40	0.4	10
東近江市 横山町	80	1.7	0	0	100	1.1	0	0	0
東近江市 上羽田町	0	0	40	0.0	80	0.7	20	0.6	2
東近江市 福堂町	20	0.1	0	0	100	2.5	20	0.2	50
東近江市 市原野町	0	0	20	0.0	100	2.3	20	0.2	0
東近江市 南菩提寺	20	0.0	0	0	20	0.1	40	1.0	0
彦根市 甘呂町	20	0.0	0	0	100	0.7	60	4.0	0
彦根市 普光寺	20	0.0	0	0	80	1.3	0	0	0
愛荘町 東円堂	40	0.0	0	0	40	0.3	20	0.2	0
甲良町 法養寺	60	1.7	0	0	40	0.4	0	0	0
多賀町 敏満寺	40	0.1	0	0	100	0.9	20	0.2	0
米原市 世継	0	0	0	0	100	0.7	100	8.0	20
米原市 本市場	0	0	0	0	100	0.7	100	12.0	20
米原市 上多良	0	0	0	0	40	0.3	100	4.6	10
長浜市 本庄町	0	0	0	0	100	0.7	100	3.0	70
全県平均	28.6	0.3	5.0	0.0	80.7	1.2	30.0	1.1	5.7

※調査品種

「びわほなみ」：近江八幡市安土町上豊浦、御所内町、多賀町、白王町、東近江市上羽田町、市原野町、福堂町

「ふくさやか」：東近江市横山町、彦根市甘呂町、普光寺、愛荘町東円堂、甲良町法養寺、多賀町敏満寺

「シロガネコムギ」：守山市矢島町

「ミナミノカオリ」：近江八幡市野村町

その他の地点は全て「農林61号」

エ 発生状況一覧表

病害虫名	オオムギ		コムギ	
	初発見月日	初発見場所	初発見月日	初発見場所
さび病類	5/10	長浜市口分田町	4/13	彦根市普光寺町
うどんこ病	4/14	長浜市湖北町山本	4/13	近江八幡市安土町大中
赤かび病	5/10	長浜市口分田町	5/6	彦根市普光寺町
黒節病	3/17	近江八幡市長田町	3/15	豊郷町八町
株腐病	3/17	近江八幡市長田町	3/17	東近江市上羽田町
縞萎縮病	—	—	2/17	東近江市下岸本町
アブラムシ類	2/22	竜王町岡屋	3/17	東近江市上羽田町
ハモグリバエ類	—	—	—	—
ムギダニ	—	—	—	—

オ 発生および被害面積

作物名	栽培面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)					発生面積率 (%)	被害面積率 (%)	防除面積 (ha)	
			甚	多	中	少	計			実防除	延防除
オオムギ	1619	さび病類	0	0	0	100	100	7.4	0	0	0
		うどんこ病	0	50	100	150	300	22.3	11.2	200	400
		赤かび病	0	0	0	800	800	59.5	0	1345	2690
		黒節病	0	0	50	500	550	40.9	3.7	0	0
コムギ	6240	さび病類	0	0	0	1500	1500	26.6	0	3000	3500
		うどんこ病	0	0	0	200	200	3.5	0	850	1250
		赤かび病	0	50	150	4000	4200	74.4	3.5	5646	9000
		黒節病	0	100	350	1700	2150	38.1	8.0	0	0

被害面積率 = (程度別発生面積の甚～中の和) / (栽培面積)

(3) ばれいしょ

ア 発生状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
ばれいしょ	疫病	-	-	ほ場での発生は見られなかった。	6月の降水量は、やや少なく、発病に好適でなかったため、発病が認められなかった。また、前年の発生が少なかったことから、残存菌密度が少なくなっていると考えられる。	発生初期に防除の実施。
	アブラムシ類	遅	やや少	ほ場での初発確認は4月13日で、発生時期は遅かった。ほ場での発生量は、やや少であった。	冬期に数回厳しい気温の低下があり、越冬量が少なかったと思われる。例年は5月下旬から6月上旬にかけ発生のピークが現れるが、同時期に気温が低く推移し、降雨も多かったことから、発生量は低く推移した。また8月中旬の降雨の影響で増殖が抑制された。	定植時の粒剤施用など、多くは発生初期の防除が実施されている。

イ 発生量

調査地点	病害虫名	発生量	
		疫病	アブラムシ類
		発病度 6/16～17	寄生度 6/16～17
草津市	下笠町	0	0
野洲市	小南	0	2
湖南市	菩提寺	0	0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	0
彦根市	松原町	0	2
甲良町	下之郷	0	1
米原市	世継	0	0
高島市今津町	深清水	0	0

ウ 発生状況一覧表

作物名	病害虫名	初発見月日	初発見場所
ばれいしょ	疫病	-	-
	アブラムシ類	5月10日	彦根市松原町

エ 発生および被害面積

作物名	栽培面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)					発生面積率 (%)	被害面積率 (%)	防除面積 (ha)	
			甚	多	中	少	計			実防除	延防除
ばれいしょ	30	疫病	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		アブラムシ類	0	0	0	3	3	10.0	0	1	1

※被害面積率=(程度別発生面積甚～中の和) / (栽培面積)

(4) ダイズ

ア 生育概況

6月12日梅雨入り後、6月第5半旬頃から播種(定植)が始まった。7月第1～2半旬は断続的に降雨があったが、梅雨明け7月17日と平年比2日早くなり、7月下旬～8月にかけて播種された。

6月播種では、7月第1～2半旬の降雨による出芽不良が一部見られたが、7月第3半旬～8月第2半旬が高温多照で周期的に降雨もあり生育は良好であった。7月下旬播種では出芽・苗立ちは概ね良好であったが、7月第5半旬の無降雨の影響を受けたほ場は出芽揃いが悪くなった。8月第3～4半旬の大雨により著しい湿害を受けたほ場は生育不良が見られた。8月の遅い播種では主茎長が短く生育量が小さく、播種時期により生育差が大きくなった。降雨により中耕培土が不十分なほ場や適期に除草剤散布が出来なかったほ場は、8月下旬ごろから雑草が多発した。

8月第5半旬～9月第4半旬は周期的に降雨があったが低温寡照となり、子実の肥大は緩慢であった。9月第5半旬～10月第3半旬は高温多照となり子実の肥大が進んだ。病害虫の発生は、7月下旬と8月下旬の気温が高く、吸実性カメムシ類が多く発生した。また、一部ほ場でハスモンヨトウやべと病の発生が見られた。

10月中旬頃から葉の黄化が始まったが、湿害やカメムシ被害ほ場では青立ちが見られた。台風の影響が少なく周期的に適度な降雨があり生育は概ね良好であり、収量は平年並となった。

イ 発生状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
ダイズ	べと病	早	並	ほ場での初発確認は7月26日で、発生時期は早く、県内全域で発生が認められたが(91.3%)、発病度は平年並であった。	6月播種で、7月上旬の降雨を受けた生育が旺盛な株で初発が確認された。一方で、7月中旬～8月上旬は気温は高く、降水量は少なく推移したため、7月下旬の発生量は、やや少なかった。その後、8月中旬の低温・長雨により発生が助長され、発生量は平年並となった。	本病への薬剤防除は未実施。
	葉焼病	やや遅	やや少	ほ場での初発確認は8月16日で、発生時期は、やや遅く、発生量は、やや少なかった。	影響を受ける台風の襲来がなかったことと、前年の発生量が少なく、残存する細菌密度も低かったことから、発生量は少なかった。	本病への薬剤防除は未実施。
	ハスモンヨトウ	やや早	やや少	7月中旬から9月中旬に至るまで、断続的な飛来がみられた。ほ場での初発確認は7月26日で、発生時期は、やや早かった。例年、8月中旬以降にはほ場で発生量が増加するが、今年の発生量は、やや少であった。	8月中旬の降雨と気温の低下により増殖が抑制されたと考えられる。	8月下旬以降、1～2回の薬剤防除が実施されている。鱗翅目害虫の常発地では3～4回防除されることもある。
	タバコガ類	遅	少	オオタバコガのフェロモントラップへの誘殺数は、7月と8月は平年並に推移したが、9月は少なかった。ほ場でのタバコガ類の初発確認は8月18日で、発生時期は遅く、発生量は少であった。	8月中旬の降雨と気温の低下により増殖が抑制されたと考えられる。	ハスモンヨトウと同時防除されることが多い。
	フタスジヒメハムシ	並	少	ほ場での初発確認は6月28日で、発生時期は平年並であった。一部多発生・中発生ほ場も確認されたが、全体の発生量は少であった。	種子塗抹処理剤の利用が進んでおり、発生が抑制された。発生の多いほ場は、同剤を使用していないか、または本種に適用のない同剤を使用していると思われる。	種子塗抹処理剤により初期防除されている。近年、この剤の残効が切れてからの被害が一部地域で発生している。このため、結実期にも一部防除が実施されている。
	カメムシ類	早	やや多	ほ場での初発確認は7月27日で、発生時期は早く、発生量は、やや多であった。	7月中旬から8月上旬までと、8月下旬の気温が高く推移したことから、カメムシの増殖に好適となり、発生量は、やや多であった。	通常、開花期以降に薬剤散布により防除されるが、近年、ハスモンヨトウの発生量が多く、鱗翅目害虫に対する防除を実施した場合、カメムシの防除が省略される場合がある。
	アブラムシ類	遅	少	ほ場での初発確認は8月18日で、発生時期は遅く、発生量は少であった。	黄色水盤での誘殺数は、4月以降一貫して低く推移した。4月から5月にかけて断続的に気温が低い時期があったことで春の増殖が抑えられ、8月中旬に集中的な降雨があったことから、発生量は少であった。	種子塗抹処理剤による初期防除が行われている。
	ハダニ類	並	やや少	ほ場での初発確認は6月28日と早かったが、全体的な発生時期は平年並であった。発生量は、やや少であった。	8月中旬の降雨と気温の低下により増殖が抑制されたと考えられる。	甚発生した場合のみ防除実施される。

ウ 発生量調査

(8月20～25日調査、開花期)

病害虫名		(8月20～25日調査、開花期)					
		べと病 発生ほ場率 (%)	葉焼病 発生ほ場率 (%)	カメムシ類 虫数 (頭/a)	フタスジヒメハムシ 虫数 (頭/株)	ハダニ類 発生株率 (%)	ハスモンヨトウ 発生ほ場率 (%)
調査地点							
大津市	牧	0	0	0	0	0	0
草津市	下笠町	0	0	0	0	0	50
守山市	木浜町	0	0	0	0.1	0	50
守山市	赤野井町	0	0	0	0.1	0	0
栗東市	上砥山	0	0	0	0.2	0	0
野洲市	北	0	0	1.5	0.7	0	50
湖南市	岩根	50	0	0	0	0	50
甲賀市	水口町北脇	0	0	0.5	0	0	0
近江八幡市	野村町	0	0	0	0.8	0	0
近江八幡市	安土町大中	50	0	0	0.1	0	0
日野町	猫田	0	0	2.0	0.1	0	0
竜王町	岡屋	50	50	1.5	0.1	0	0
東近江市	市原野町	50	0	1.0	0	0	50
東近江市	福堂町	100	0	0	0	0	0
彦根市	新海町	100	0	2.0	0.5	0	0
愛荘町	東円堂	100	0	1.5	0	0	100
豊郷町	八町	50	0	1.0	0.8	0	50
甲良町	法養寺	0	0	0	0.1	0	0
米原市	本市場	0	0	0	0.5	0	0
長浜市	口分田町	0	0	0	0	0	0
長浜市	高月町柳野中	0	0	0	0.4	0	0
長浜市	湖北町山本	100	100	1.0	0	0.5	0
高島市	マキノ町知内	100	0	0.0	0.8	0	0

(9月20日調査、若莢期)

病害虫名		べと病		葉焼病		カメムシ類	ハスモンヨトウ
		発生ほ場率 (%)	平均 発病度	発生ほ場率 (%)	平均 発病度	虫数 (頭/a)	白変か所数 (か所/a)
調査地点							
大津市	牧	100	5	100	1.5	0	1.0
草津市	下笠町	100	6.0	50	0.5	0	4.5
守山市	木浜町	100	2.0	100	1.0	0	1.0
守山市	赤野井町	100	3.5	100	1.5	0	0
栗東市	上砥山	100	13.0	0	0	0	3.0
野洲市	北	100	5.5	100	1.0	0	0
湖南市	岩根	100	3.5	50	0.5	0	1.5
甲賀市	水口町北脇	100	2.5	50	0.5	0.5	1.0
近江八幡市	野村町	100	2.5	100	2.0	0	0
近江八幡市	安土町大中	100	1	50	0.5	1.0	1.5
日野町	猫田	100	3.0	0	0	0.5	2.0
竜王町	岡屋	50	2.5	50	3.5	0	2.5
東近江市	市原野町	100	8.5	50	1.0	0.5	3.5
東近江市	福堂町	100	2	50	1.0	0.5	0.5
彦根市	新海町	100	9.0	50	0.5	1.5	0
愛荘町	東円堂	100	15.5	50	0.5	2.0	1.0
豊郷町	八町	100	17.5	50	0.5	0	1.5
甲良町	法養寺	50	2	50	1.0	0.5	1.0
米原市	本市場	100	4	100	5.0	0	0
長浜市	口分田町	100	5	100	2.5	0	7.0
長浜市	高月町柳野中	100	22	100	4.5	0	0
長浜市	湖北町山本	0	0.0	100	20.0	0	0.5
高島市	マキノ町知内	100	17.5	100	15.5	0.5	0

エ 発生状況一覧表

病虫害名	初発見月日	初発見場所
べと病	7月26日	高島市マキノ町知内
葉焼病	8月16日	長浜市湖北町山本
茎疫病	7月14日	長浜市高月町東阿閉
白絹病	7月14日	長浜市湖北町山本

病虫害名	初発見月日	初発見場所
アブラムシ類	8月18日	高島市マキノ町中庄
ハダニ類	6月28日	甲良町下之郷
ハスモンヨトウ	7月26日	高島市マキノ町知内
タバコガ類	8月18日	守山市木浜町
カメムシ類	7月27日	甲賀市水口町北脇
フタスジヒメハムシ	6月28日	高島市マキノ町知内
コガネムシ類	8月17日	彦根市新海町
サヤムシガ類	6月29日	竜王町岡屋

オ 発生および被害面積

作物名	栽培面積 (ha)	病虫害名	程度別発生面積 (ha)					発生 面積率 (%)	被害 面積率 (%)	防除面積(ha)	
			甚	多	中	少	計			実防除	延防除
ダイズ	6,510	べと病	0	0	100	4,500	4,600	70.7	1.5	0	0
		葉焼病	0	0	50	3,000	3,050	46.9	0.8	0	0
		アブラムシ類	0	0	0	20	20	0.3	0	3,500	3,500
		ハスモンヨトウ	0	200	700	2,400	3,300	50.7	13.8	3,000	4,000
		食葉性鱗翅目幼虫	0	0	0	1,300	1,300	20.0	0	1,000	1,000
		ハダニ類	0	0	0	200	200	3.1	0	10	10
		カメムシ類	0	0	0	1,400	1,400	21.5	0	1,500	2,000
		フタスジヒメハムシ	0	200	1,400	1,400	3,000	46.1	24.6	3,500	3,700

被害面積率 = (程度別発生面積・甚～中の和) / (栽培面積)

5 野菜（露地）病害虫発生予察事業

ナス科、ウリ科およびアブラナ科を中心として、露地野菜全般における主要病害虫を調査した。その結果に基づく病害虫発生予察情報として、発生予報9回、防除情報1回（タマネギべと病）および特殊報1回(IYSV(アイリス黄斑ウイルス))を提供した。

(1) 野菜

ア 発生状況

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
野菜全般	うどんこ病 (夏秋ナス、夏秋キュウリ)	平年並	平年並	ほ場での初発確認は5月31日で、発生時期は平年並であった。6月中旬の発生量は、やや多かったが、7月上旬の発生量は平年並であった。	5月3～4半月の降雨により発生が助長され、6月の発生量は、やや多かったが、6月の降水量は、やや少なく、7月上旬の発生量は平年並となった。	発生初期に防除の実施。
	灰色かび病 (夏秋ナス、夏秋トマト、夏秋キュウリ)	-	少	ほ場での発生は認められなかった。	6月の降水量は、やや少なく、発病に好適でなかったため、発病は認められなかった。	発生初期に防除の実施。
	ハスモンヨトウ	やや早	並	7月中旬から9月中旬に至るまで、断続的な飛来がみられた。ほ場での初発確認は7月26日で発生時期は、やや早く、発生量は平年並であった。	やや早い時期から飛来が始まったことから多発が懸念されたが、8月中旬の降雨と気温の低下により増殖が抑制されたと考えられる。	主産地では定期的な薬剤防除がされている。アブラナ科野菜では、育苗時のセルトレイ灌水や、定植時の粒剤施用が実施されている。
	オオタバコガ	早	少	オオタバコガのフェロモントラップへの誘殺数は、7月、8月は平年並に推移したが、9月は少なかった。ほ場での初発確認は6月28日で、発生時期は早く、発生量は平年並であった。	オオタバコガとタバコガの7月までのフェロモントラップでの誘殺数は、やや多～多であった。両種とも7月上旬の集中的な降雨により、密度が抑制された。	ハスモンヨトウと同時防除されることが多い。
	ヨトウガ	平年並	平年並	フェロモントラップへの誘殺数は平年並で推移したが、ほ場では発生を確認していない。	フェロモントラップでの誘殺数は平年並であった。ほ場では発生密度が低いいため、確認できなかった。	主産地では定期的な薬剤防除が実施されている。また、アブラナ科野菜では、育苗時のセルトレイ灌水や、定植時の粒剤施用による防除が実施されている。
	アザミウマ類	早	並	ほ場での初発は2月22日で、発生時期は早かった。夏秋ナスと夏秋キュウリの一部で発生ほ場があったが、全体の密度は期間を通し平年並であった。	1月中旬から2月中旬にかけて気温が高く推移したことから、初発時期が早まった。7月上旬の降雨により一旦密度が抑制されたが、7月中旬から8月上旬まで降雨が少なく、増殖が助長され、発生量は平年並となった。	発生に応じ薬剤防除が実施されている。
	コナジラミ類 (夏秋トマト、夏秋キュウリ)	遅	少	ほ場での初発確認は7月26日(ナス)で、発生時期は遅く、発生量は少であった。	通常、露地野菜では、問題になることが少ない。施設果菜類や、廃棄場所のトマト等からの飛来により発生する。	発生に応じ薬剤防除がされるが、微小害虫であることから発見・防除に遅れが生じることがある。
	アブラムシ類	遅	やや少	ほ場での初発確認は4月13日で、発生時期は遅かった。ほ場での発生量は、やや少であった。	冬期に数回厳しい気温の低下があり、越冬量が少なかったと思われる。例年は5月下旬から6月上旬にかけ発生のピークが現れるが、同時期に気温が低く推移し、降雨も多かったことから、発生量は低く推移した。また8月中旬の降雨の影響で増殖が抑制された。	定植時の粒剤施用など、多くは発生初期の防除が実施されている。
ハダニ類	並	やや多	ほ場での初発確認は5月31日で、発生時期は平年並、発生量は、やや多であった。	6月に入り気温が高めに推移し、降水量も、やや少～平年並であったことから、増殖に適した条件となり、発生量は、やや多であった。	発生に応じ薬剤防除がされるが、微小害虫であることから発見・防除に遅れが生じやすい。なお、一部地域では薬剤感受性の低下が認められている。	
ナス科野菜	疫病 (夏秋トマト)	-	少	ほ場での発生は見られなかった。	6月の降水量は、やや少なく、発病に好適でなかったため、発病が認められなかった。また、前年の発生が少なかったことから、残存菌密度が少なくなっていると考えられる。	発生初期に防除の実施。
	葉かび病 (夏秋トマト)	-	-	ほ場での発生は見られなかった。	前年に発生が確認されず、残存菌密度が少なくなっていると考えられる。	発生初期に防除の実施。
	ニジュウヤホシテントウ類	平年並	やや少	ほ場での初発確認は5月10日で、発生時期は平年並、発生量は、やや少であった。	前年の発生量は平年並であったが、冬期に数回厳しい気温の低下があり、越冬量が抑制され、発生量が、やや少となった。	食害が顕著になった場合のみ防除されている。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
アブラナ科 野菜	軟腐病	-	少	ほ場での発生は認められなかった。	8月中旬の定植以降、台風などの襲来がなかったため、発病が起らなかった。	発生初期に防除の実施。
	黒腐病 (冬キャベツ)	-	やや少	ほ場での初発確認は9月21日で、発生時期は、やや早く、発生量は、やや少なかった。	8月中旬の定植以降、台風などの襲来がなかったこと、抵抗性品種の普及が進んだことから、発生量は、やや少なかった。	発生初期に防除の実施。
	菌核病 (冬キャベツ)	-	少	ほ場での発生は認められなかった。	前年の発生は少なかったことから、発病が抑制された。	発生初期に防除の実施。
	ネキリムシ類	並	やや少	フェロモントラップでの誘殺時期は、平年並、発生量は、やや少であった。	8月中旬の降雨と気温の低下により、増殖が抑制されたと考えられる。	播種または定植時の粒剤等の防除が実施されている。
	ハイマダラノメイガ	やや早	やや少	ほ場での初発確認は9月7日で、発生時期は、やや早く、発生量は、やや少であった。	8月中旬の降雨と気温の低下により増殖が抑制されたと考えられる。防除したほ場と、無防除のほ場との被害の差は顕著となる。	育苗時のセルトレイ灌注や、定植時の粒剤施用が実施されている。
	コナガ	やや早	平年並	ほ場での初発確認は5月12日で、発生時期は、やや早く、発生量は平年並であった。また、フェロモントラップでの誘殺数は、期間を通じて平年並に推移した。	近年、一部地域では発生量が増加傾向にある。春の発生量は平年並であった。	育苗時のセルトレイ灌注や、定植時の粒剤施用の実施。植付け後は発生初期の防除。なお、一部地域では薬剤感受性の低下が認められている。
	モンシロチョウ	平年並	やや少	ほ場での初発確認は5月10日で、発生時期は平年並、発生量は、やや少であった。	定植前にセルトレイ灌注や粒剤施用されている場合も多く、無防除のほ場との被害の差は顕著となる。	育苗時のセルトレイ灌注や、定植時の粒剤施用の実施。植付け後は発生初期の防除が実施されている。
キュウリ	べと病	やや早	平年並	ほ場での初発確認は5月11日で、発生時期は、やや早く、発生量は平年並となった。	5月の降水量は、やや多く、6月の発病程度は、やや高く推移したが、6月の降水量は、やや少なかったため、発生量は平年並となった。	発生初期に防除の実施。
	褐斑病	-	-	一部地域で発生を認めた。	6月の降水量は、やや少なく、発病が抑制された。	発生初期に防除の実施。
タマネギ	べと病	-	-	ほ場での初発確認は2月22日となった。その後、二次感染により全域で発生が認められた。	12月の降水量は多く、卵胞子による初冬の感染が多かったと考えられる。また、2月の気温は高く、暖冬の影響により、越冬罹病株の発生が早く認められた。さらに、3月の気温は高く、降水量は多かったため、3月上旬ごろより全県的に越冬罹病株の発生が認められ、分生胞子による二次伝染が成立したと考えられる。	2月の予防防除と発生初期から定期的な薬剤防除が実施されている。暖冬の影響により、越冬罹病株の発生が早く、その後の二次感染による発生拡大が懸念されたことから、2月27日に防除情報を発表した。
	白色疫病	-	-	ほ場での発生は認められなかった。	前年の発生量は少なく、4月～5月上旬の降水量は少なかったため、発病が抑制された。	発生初期に防除の実施。
ネギ	さび病	平年並	少	ほ場での初発確認は4月10日で平年並、一部地域で発生が認められたが、発生量は少なかった。	前年の発生量と4月～5月上旬までの降水量はともに少なかったため、発病が抑制された。	発生初期に防除の実施。
	黒斑病	-	-	ほ場での初発確認は9月22日で、各地で発生が認められた。	前年の発生量と9月の降水量がともに少なく推移したため、発生が抑制された。	発生初期に防除の実施。
	べと病	-	-	ほ場での初発確認は6月20日で、各地で発生が認められた。	前年の発生が少なかったことによる菌密度の低下と、予防的な薬剤散布により発病が抑制された。	発生初期に防除の実施。
	シロイチモジヨトウ	-	少	ほ場での発生を認めなかった。	フェロモントラップには誘殺されるが、本県でのほ場での発生は通常ほとんど見られない。さらに、ハスモンヨトウなど他害虫と同時防除されていると思われる。	発生時に薬剤散布が実施されている。

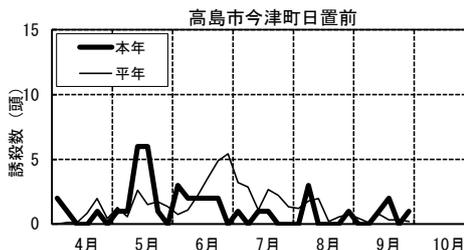
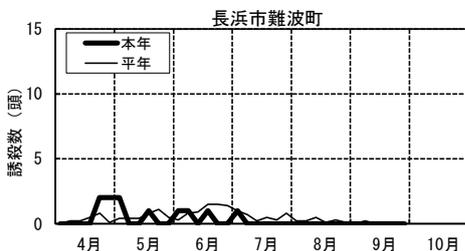
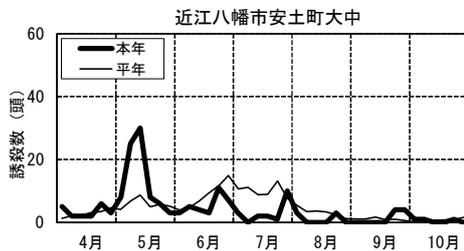
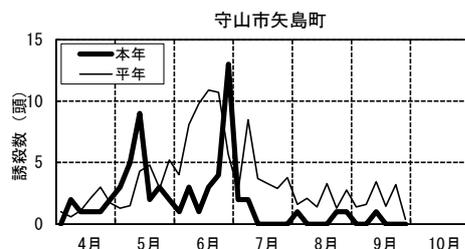
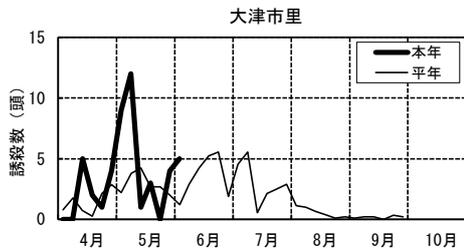
イ 予察灯、フェロモントラップ、黄色水盤による調査

(ア) 予察灯による調査

コナガ半旬別誘殺状況（予察灯）

(頭)

月 半旬	大津市里				守山市矢島町				近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前				
	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	
4 1	0	0	0.8	0.8	0	0	1.0	1.0	5	5	1.3	1.3	0	0	0	0	2	2	0	0	
2	0	0	1.8	2.6	2	2	0.6	1.6	2	7	2.1	3.4	0	0	0.2	0.2	1	1	0.1	0.1	
3	5	5	0.8	3.3	1	3	1.1	2.7	2	9	2.3	5.7	0	0	0.2	0.4	0	1	0.1	0.3	
4	2	7	0.3	3.6	1	4	2.1	4.8	2	11	3.2	8.9	0	0	0.5	0.9	0	1	0.9	1.1	
5	1	8	2.1	5.7	1	5	3.0	7.8	6	17	3.5	12.4	2	2	0.8	1.7	1	2	2.0	3.1	
6	4	12	2.9	8.6	2	7	1.7	9.5	3	20	4.7	17.1	2	4	0.1	1.8	0	2	0.4	3.6	
5 1	9	21	2.2	10.8	3	10	1.3	10.8	8	28	4.1	21.2	2	6	0.4	2.2	1	3	1.3	4.9	
2	12	33	3.8	14.6	5	15	1.5	12.3	25	53	6.8	28.0	0	6	0.4	2.6	1	4	0.6	5.4	
3	1	34	4.2	18.8	9	24	4.3	16.6	30	83	8.7	36.7	0	6	0.4	3.0	6	10	2.6	8.1	
4	3	37	2.7	21.4	2	26	4.8	21.4	8	91	5.0	41.7	1	7	0.8	3.8	6	16	1.5	9.6	
5	0	37	2.7	24.1	3	29	2.9	24.3	6	97	5.8	47.5	0	7	1.1	4.9	1	17	1.8	11.3	
6	4	41	2.0	26.1	2	31	5.2	29.5	3	100	5.2	52.7	0	7	0.5	5.4	0	17	1.4	12.7	
6 1	5	46	1.2	27.3	1	32	4.0	33.5	3	103	4.0	56.7	1	8	0.3	5.7	3	20	0.8	13.4	
2	4	46	2.9	30.2	3	35	8.1	41.6	5	108	4.6	61.3	1	9	0.8	6.5	2	22	1.1	14.5	
3	4	46	4.2	34.4	1	36	9.8	51.4	4	112	6.8	68.1	0	9	0.9	7.4	2	24	2.2	16.8	
4	4	46	5.2	39.7	3	39	10.9	62.3	3	115	9.3	77.4	1	10	1.5	8.9	2	26	3.6	20.3	
5	4	46	5.6	45.2	4	43	10.7	73.0	11	126	11.7	89.1	0	10	1.5	10.4	2	28	4.9	25.2	
6	4	46	1.9	47.1	13	56	5.7	78.7	7	133	14.9	104.0	0	10	1.4	11.8	0	28	5.4	30.7	
7 1	4	46	4.6	51.7	2	58	2.7	81.4	3	136	10.6	114.6	1	11	1.0	12.8	1	29	3.2	33.9	
2	4	46	5.6	57.2	2	60	8.5	89.9	0	136	11.2	125.8	0	11	0.7	13.5	0	29	2.9	36.8	
3	4	46	0.6	57.8	0	60	3.7	93.6	2	138	8.8	134.6	0	11	0.2	13.7	1	30	1.1	37.9	
4	4	46	2.1	59.9	0	60	3.3	96.9	2	140	9.0	143.6	0	11	0.5	14.2	1	31	2.7	40.5	
5	4	46	2.5	62.4	0	60	2.9	99.8	1	141	13.2	156.8	0	11	0.3	14.5	0	31	2.2	42.8	
6	4	46	2.9	65.3	0	60	3.8	103.6	10	151	7.7	164.5	0	11	0.8	15.3	0	31	1.3	44.1	
8 1	4	46	1.1	66.4	1	61	1.6	105.2	3	154	5.4	169.9	0	11	0.2	15.5	0	31	1.2	45.3	
2	4	46	1.0	67.4	0	61	2.1	107.3	0	154	3.4	173.3	0	11	0.2	15.7	3	34	1.8	47.1	
3	4	46	0.7	68.1	0	61	1.4	108.7	0	154	3.6	176.9	0	11	0.5	16.2	0	34	2.0	49.1	
4	4	46	0.4	68.5	0	61	3.3	112.0	0	154	3.3	180.2	0	11	0.1	16.3	0	34	0.2	49.3	
5	4	46	0.1	68.6	1	62	1.3	113.3	3	157	2.4	182.6	0	11	0.3	16.6	0	34	0.6	49.9	
6	4	46	0.2	68.8	1	63	2.8	116.1	0	157	1.2	183.8	0	11	0.1	16.7	1	35	0.8	50.7	
9 1	4	46	0.1	68.9	0	63	1.4	117.5	0	157	1.1	184.9	0	11	0.0	16.7	0	35	0.4	51.1	
2	4	46	0.2	69.1	0	63	1.6	119.1	0	157	1.1	186.0	0	11	0.2	16.9	0	35	0.1	51.2	
3	4	46	0.2	69.3	1	64	3.4	122.5	0	157	1.7	187.7	0	11	0	16.9	1	36	0.8	52.0	
4	4	46	0	69.3	0	64	1.4	124.0	0	157	0.9	188.6	0	11	0	16.9	2	38	0.3	52.3	
5	4	46	0.3	69.7	0	64	3.2	127.2	4	161	1.0	189.6	0	11	0	16.9	0	38	0.3	52.7	
6	4	46	0.2	69.9	0	64	0.4	127.6	4	165	0.6	190.2	0	11	0	16.9	1	39	0.2	52.9	
10 1									1	166	0.2	190.4									
2									1	167	1.0	191.4									
3									0	167	0.7	192.1									
4									0	167	0.8	192.9									
5									1	168	0.8	193.7									
6									0	168	1.6	195.3									



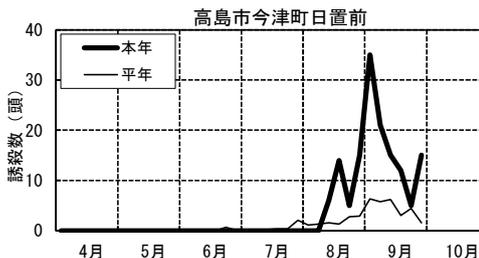
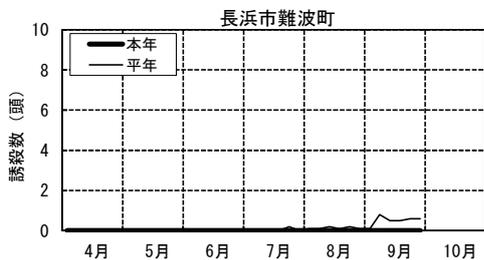
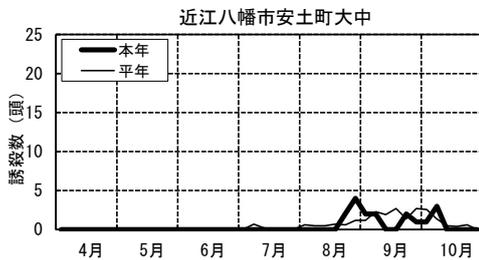
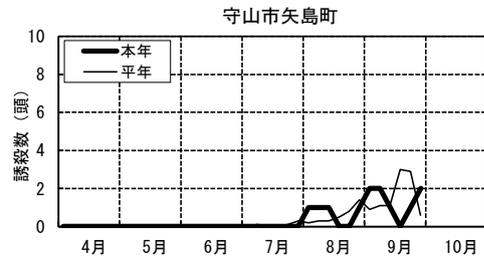
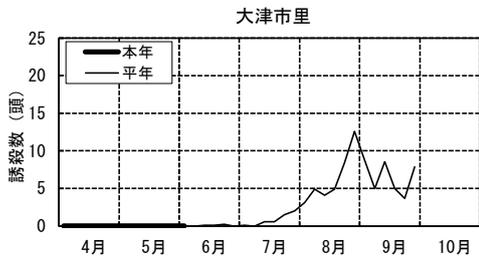
○平年値は基本的に過去10年間（H23～R2）の平均値であるが、高島市の予察灯では、移設により10年分のデータがなく、平年値はH24～R2の9年間の平均値である。

○調査機器変更により、大津市里の予察灯の6月2半旬以降のデータは欠測。

シロオビノメイガ半旬別誘殺状況

(頭)

月	半旬	大津市里				守山市矢島町				近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前			
		本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.1
4	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1
4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1
4	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1
4	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1
5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1
5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1
5	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1
5	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1
5	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1
5	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1
6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1
6	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1
6	3	0	0.1	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1
6	4	0	0.1	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1
6	5	0	0.2	0.4	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0	0	0	0.7	0.8
6	6	0	0	0.4	0	0	0	0	0	0	0.1	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.9
7	1	0	0.1	0.6	0	0	0	0	0	0.1	0.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	1.0
7	2	0	0	0.6	0	0	0.1	0.1	0	0.7	1.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	1.1
7	3	0	0.6	1.2	0	0	0	0.1	0	0.2	1.2	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	1.4
7	4	0	0.6	1.8	0	0	0	0.1	0	0.1	1.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0.3	1.7
7	5	0	1.5	3.3	0	0	0.1	0.2	0	0	1.3	0	0	0.2	0.2	0	0	0	0	0.3	2.0
7	6	0	2.0	5.3	0	0	0.3	0.5	0	0	1.4	0	0	0	0.2	0	0	0	0	2.1	4.1
8	1	0	3.1	8.4	1	1	0.2	0.7	0	0	0.6	2.0	0	0	0.1	0.3	0	0	1.1	5.3	
8	2	0	4.9	13.3	1	2	0.3	1.0	0	0	0.5	2.5	0	0	0.1	0.4	0	0	1.3	6.6	
8	3	0	4.1	17.4	1	3	0.3	1.3	0	0	0.5	3.0	0	0	0.2	0.6	6	6	1.6	8.1	
8	4	0	4.9	22.3	0	3	0.5	1.8	0	0	0.7	3.7	0	0	0.1	0.7	14	20	1.3	9.5	
8	5	0	8.4	30.7	0	3	0.8	2.6	2	2	0.6	4.3	0	0	0.2	0.9	5	25	2.8	12.3	
8	6	0	12.6	43.3	1	4	1.4	4.0	4	6	1.2	5.5	0	0	0.1	1.0	15	40	2.9	15.1	
9	1	0	8.7	51.9	2	6	0.9	4.9	2	8	1.2	6.7	0	0	0.1	1.1	35	75	6.3	21.5	
9	2	0	5.0	56.9	2	8	1.1	6.0	2	10	2.3	9.0	0	0	0.8	1.9	21	96	5.8	27.3	
9	3	0	8.6	65.5	1	9	1.1	7.1	0	10	1.9	10.9	0	0	0.5	2.4	15	111	6.2	33.5	
9	4	0	5.0	70.5	0	9	3.0	10.1	0	10	2.7	13.6	0	0	0.5	2.9	12	123	3.0	36.5	
9	5	0	3.7	74.2	1	10	2.9	13.0	2	12	1.4	15.0	0	0	0.6	3.5	5	128	4.4	40.9	
9	6	0	7.9	82.0	2	12	0.6	13.6	1	13	2.7	17.7	0	0	0.6	4.1	15	143	1.6	42.5	
10	1								1	14	2.6	20.3									
10	2								3	17	1.4	21.7									
10	3								0	17	0.5	22.2									
10	4								0	17	0.4	22.6									
10	5								0	17	0.6	23.2									
10	6								0	17	0	23.2									



○平年値は基本的に過去10年間（H23～R2）の平均値であるが、高島市の予祭灯では、移設により10年分のデータがなく、平年値はH24～R2の9年間の平均値である。

○調査機器変更により、大津市里の予祭灯の6月2半旬以降のデータは欠測。

(イ) フェロモントラップによる調査

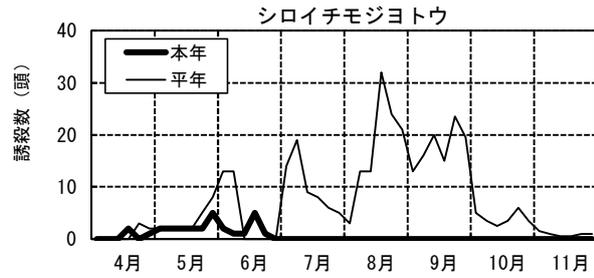
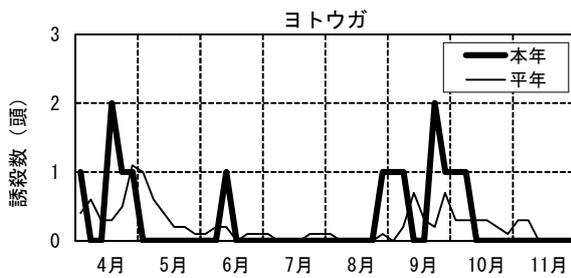
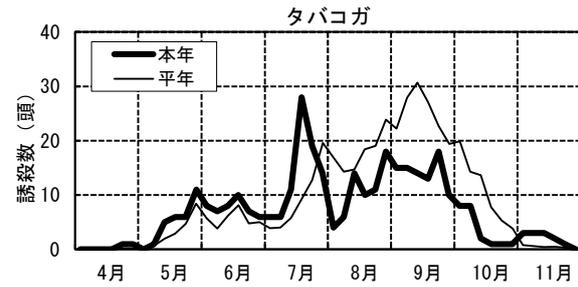
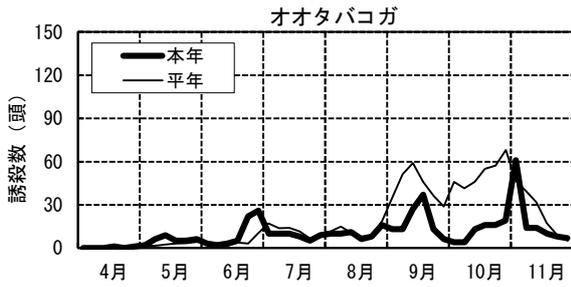
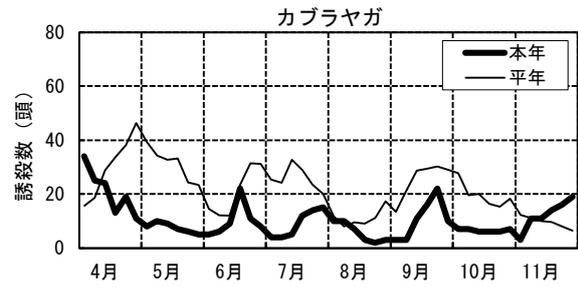
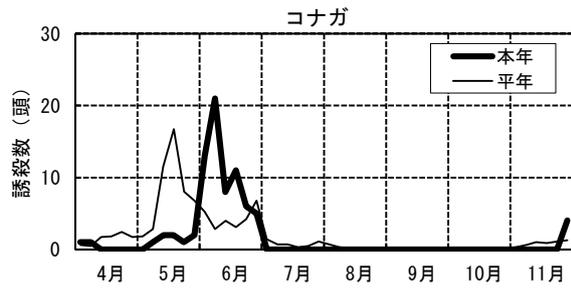
野菜類主要害虫のフェロモントラップ半旬別誘殺状況 (近江八幡市安土町大中)

(頭)

月	半旬	コナガ		カブラヤガ		タバコガ		オオタバコガ		ヨトウガ	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4	1	1	0.6	34	15.7	0	0	0	0.2	1	0.4
	2	1	0.5	25	18.6	0	0	0	0.2	0	0.6
	3	0	1.7	24	28.8	0	0.1	0	0.3	0	0.3
	4	0	1.8	13	33.8	0	0.1	1	0.2	2	0.3
	5	0	2.4	19	38.2	1	0.2	0	0.2	1	0.5
	6	0	1.7	11	46.3	1	0.2	1	0.3	1	1.1
5	1	0	1.8	8	39.4	0	0.1	2	1.4	0	1.0
	2	1	2.8	10	34.2	1	0.7	6	1.6	0	0.6
	3	2	11.5	9	32.7	5	2.0	9	2.3	0	0.4
	4	2	16.7	7	33.1	6	2.9	5	3.1	0	0.2
	5	1	8.0	6	24.3	6	4.7	5	3.3	0	0.2
	6	2	6.8	5	23.3	11	8.4	6	4.1	0	0.1
6	1	13	5.2	5	14.5	8	5.7	3	3.4	0	0.1
	2	21	2.8	6	12.1	7	3.8	2	3.0	0	0.2
	3	8	4.0	9	12.0	8	6.2	3	1.6	1	0.2
	4	11	3.1	22	23.4	10	8.1	5	3.7	0	0
	5	6	4.2	11	31.4	7	4.8	22	2.9	0	0.1
	6	5	6.8	8	31.2	6	5.0	26	10.2	0	0.1
7	1	0	1.4	4	25.3	6	3.9	10	17.1	0	0.1
	2	0	0.7	4	24.2	6	4.0	10	13.7	0	0
	3	0	0.7	5	32.7	11	5.8	10	13.9	0	0
	4	0	0.3	12	28.8	28	9.2	8	11.4	0	0
	5	0	0.5	14	23.4	19	12.8	5	6.7	0	0.1
	6	0	1.1	15	20.0	14	19.6	9	9.9	0	0.1
8	1	0	0.7	10	11.7	4	17.0	10	11.5	0	0.1
	2	0	0.3	10	8.0	6	14.3	10	14.8	0	0
	3	0	0.2	7	9.5	14	14.7	11	10.5	0	0
	4	0	0.1	3	9.0	10	18.4	6	7.9	0	0
	5	0	0.1	2	11.1	11	19.1	8	8.7	0	0
	6	0	0.2	3	17.3	18	23.9	16	18.7	1	0.1
9	1	0	0.1	3	13.4	15	22.2	13	34.9	1	0.0
	2	0	0.1	3	21.1	15	27.9	13	51.1	1	0.2
	3	0	0.1	11	28.6	14	30.7	27	59.0	0	0.7
	4	0	0.2	16	29.4	13	27.1	37	46.0	0	0.3
	5	0	0.2	22	30.3	18	22.7	13	36.3	2	0.2
	6	0	0.2	10	29.0	10	19.4	6	28.7	1	0.7
10	1	0	0.1	7	27.7	8	19.9	4	46.0	1	0.3
	2	0	0.1	7	19.6	8	14.3	4	41.4	1	0.3
	3	0	0.1	6	20.0	2	13.7	13	45.9	0	0.3
	4	0	0.1	6	16.4	1	7.8	16	55.0	0	0.3
	5	0	0	6	15.2	1	5.3	16	57.3	0	0.2
	6	0	0.2	7	18.2	1	3.8	19	68.0	0	0.1
11	1	0	0.3	3	12.3	3	0.8	61	46.6	0	0.3
	2	0	0.6	11	11.2	3	0.6	14	39.5	0	0.3
	3	0	1.0	11	10.0	3	0.4	14	31.8	0	0
	4	0	0.9	14	9.6	2	0.5	10	17.3	0	0
	5	0	1.1	16	8.0	1	0.3	8	8.8	0	0
	6	4	1.3	19	6.4	0	0.2	7	5.0	0	0

・ 平年値はH23～R2の10年間の平均値。

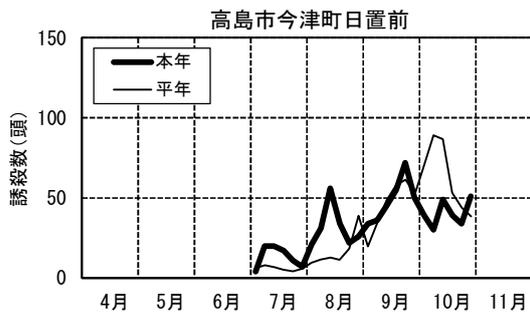
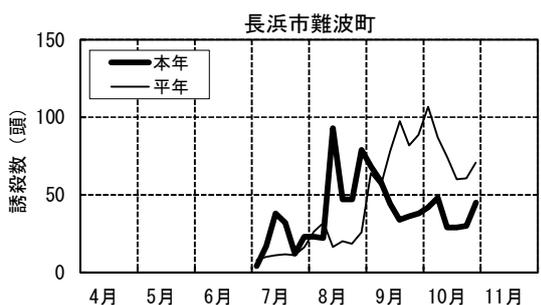
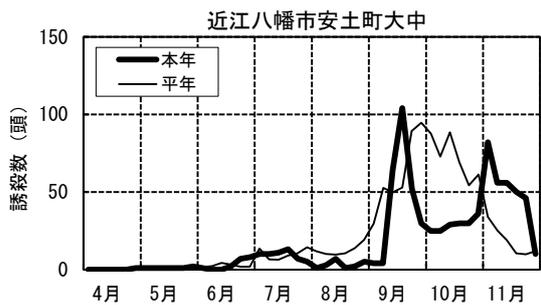
野菜類主要害虫のフェロモントラップ半旬別誘殺状況のグラフ（近江八幡市安土町大中）



平年値は過去10年間（H23～R2）の平均値。ただし、シロイチモジヨトウのフェロモントラップはR1年度から設置したため、平年値はR1～R2の平均値である。

ハスモンヨトウ半旬別誘殺数 (湿式フェロモントラップ)

		近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前			
月	半旬	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
4	1	0	0	0.1	0.1								
4	2	0	0	0.2	0.3								
4	3	0	0	0	0.3								
4	4	0	0	0	0.3								
4	5	0	0	0.2	0.5								
4	6	1	1	0.1	0.6								
5	1	1	2	0.2	0.8								
5	2	1	3	0.5	1.3								
5	3	1	4	0.4	1.7								
5	4	1	5	0.5	2.2								
5	5	1	6	0.7	2.9								
5	6	2	8	0.5	3.4								
6	1	1	9	1.6	5.0								
6	2	0	9	2.3	7.3								
6	3	0	9	4.4	11.7								
6	4	2	11	3.3	15.0								
6	5	7	18	1.8	16.8								
6	6	8	26	1.8	18.6								
7	1	10	36	13.6	32.2	4	4	8.0	8.0	4	4	6.1	6.1
7	2	10	46	6.5	38.7	17	21	9.9	17.9	20	24	7.9	14.0
7	3	11	57	6.3	45.0	38	59	11.0	28.9	20	44	6.7	20.7
7	4	13	70	9.0	54.0	32	91	11.7	40.6	17	61	5.1	25.8
7	5	7	77	10.5	64.5	12	103	11.0	51.6	11	72	4.1	29.9
7	6	5	82	14.3	78.8	23	126	16.3	67.9	7	79	5.8	35.7
8	1	1	83	11.8	90.6	23	149	26.3	94.2	21	100	9.4	45.1
8	2	3	86	10.1	100.7	22	171	32.1	126.3	31	131	11.6	56.7
8	3	7	93	9.6	110.3	93	264	16.5	142.8	56	187	12.7	69.3
8	4	1	94	10.4	120.7	47	311	20.1	162.9	34	221	11.2	80.6
8	5	2	96	13.8	134.5	47	358	18.5	181.4	22	243	18.3	98.9
8	6	5	101	19.1	153.6	79	437	25.8	207.2	26	269	38.8	137.7
9	1	4	105	29.7	183.3	68	505	64.0	271.2	34	303	20	157.4
9	2	4	109	52.6	235.9	59	564	55.9	327.1	36	339	34.1	191.6
9	3	64	173	49.9	285.8	44	608	78.2	405.3	45	384	48.3	239.9
9	4	104	277	52.9	338.7	34	642	97.4	502.7	55	439	57.8	297.7
9	5	52	329	89.4	428.1	36	678	81.7	584.4	72	511	61.3	359.0
9	6	30	359	94.7	522.8	38	716	88.5	672.9	50	561	52.4	411.4
10	1	25	384	87.7	610.5	42	758	106.8	779.7	39	600	70.7	482.1
10	2	25	409	73.0	683.5	48	806	86.8	866.5	30	630	89.0	571.1
10	3	29	438	88.5	772.0	29	835	73.9	940.4	49	679	86.7	657.8
10	4	30	468	69.3	841.3	29	864	60.1	1000.5	39	718	53.2	711.0
10	5	30	498	54.2	895.5	30	894	60.7	1061.2	34	752	43.8	754.8
10	6	36	534	61.3	956.8	45	939	70.7	1131.9	51	803	38.4	793.2
11	1	82	616	33.9	990.7								
11	2	56	672	25.2	1015.9								
11	3	56	728	19.0	1034.9								
11	4	50	778	10.6	1045.5								
11	5	46	824	10.0	1055.5								
11	6	10	834	12.0	1067.5								

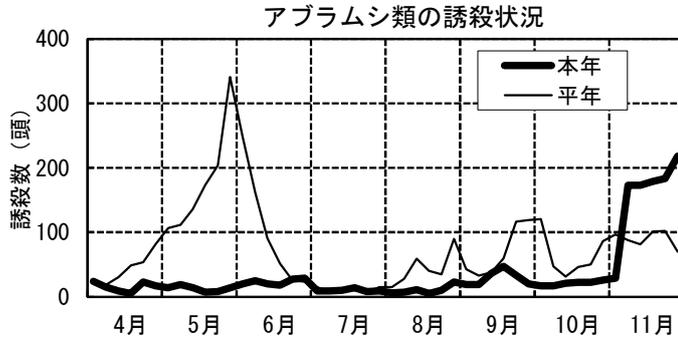


- ・近江八幡市安土町大中、長浜市難波町の平年値はH23～R2の10年間の平均値。
- ・高島市今津町日置前の平年値はH24～R2の9年間の平均値。

(ウ) 黄色水盤による調査

アブラムシ類半旬別誘殺数（近江八幡市安土町大中）

月	半旬	本年		平年	
		半旬別	累積	半旬別	累積
4	1	24	24	24.2	24.2
	2	15	39	18.3	42.5
	3	9	48	30.8	73.3
	4	5	53	48.7	122.0
	5	23	76	53.6	175.6
	6	17	93	81.6	257.2
5	1	14	107	106.7	363.9
	2	19	126	111.4	475.3
	3	14	140	136.0	611.3
	4	7	147	173.4	784.7
	5	8	155	203.8	988.5
	6	14	169	340.5	1329.0
6	1	20	189	248.5	1577.5
	2	25	214	162.1	1739.6
	3	20	234	90.7	1830.3
	4	18	252	51.9	1882.2
	5	27	279	25.5	1907.7
	6	29	308	23.3	1931.0
7	1	9	317	14.7	1945.7
	2	9	326	6.8	1952.5
	3	10	336	9.1	1961.6
	4	14	350	10.8	1972.4
	5	8	358	7.0	1979.4
	6	9	367	14.7	1994.1
8	1	6	373	15.0	2009.1
	2	7	380	27.7	2036.8
	3	11	391	58.9	2095.7
	4	5	396	40.0	2135.7
	5	10	406	34.8	2170.5
	6	23	429	89.9	2260.4
9	1	19	448	42.7	2303.1
	2	19	467	32.7	2335.8
	3	36	503	37.7	2373.5
	4	47	550	59.7	2433.2
	5	33	583	116.5	2549.7
	6	20	603	119.0	2668.7
10	1	17	620	120.5	2789.2
	2	17	637	47.1	2836.3
	3	21	658	31.7	2868.0
	4	22	680	46.4	2914.4
	5	22	702	49.9	2964.3
	6	26	728	86.3	3050.6
11	1	29	757	96.6	3147.2
	2	173	930	87.5	3234.7
	3	173	1103	81.1	3315.8
	4	179	1282	101.3	3417.1
	5	183	1465	102.0	3519.1
	6	218	1683	69.7	3588.8



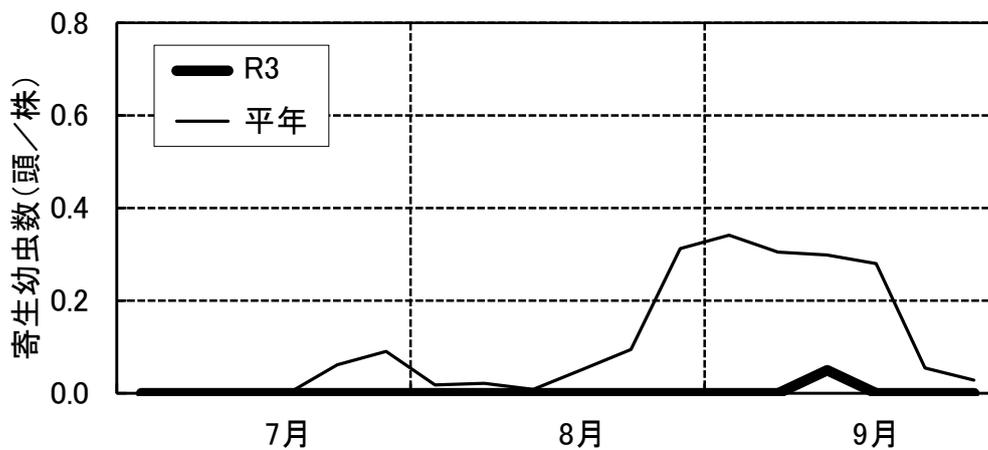
・平年値はH23～R2の10年間の平均値。

(エ) クレオメによる調査

クレオメ 1 株当たりのハイマダラノメイガ幼虫寄生数 (近江八幡市安土町大中)

(頭)

月	半旬	R3		平年	
		半旬別	累積	半旬別	累積
7	1	0.00	0.00	0.00	0.00
	2	0.00	0.00	0.00	0.00
	3	0.00	0.00	0.00	0.00
	4	0.00	0.00	0.00	0.00
	5	0.00	0.00	0.06	0.06
	6	0.00	0.00	0.09	0.15
8	1	0.00	0.00	0.02	0.17
	2	0.00	0.00	0.02	0.19
	3	0.00	0.00	0.01	0.20
	4	0.00	0.00	0.05	0.25
	5	0.00	0.00	0.09	0.34
	6	0.00	0.00	0.31	0.66
9	1	0.00	0.00	0.34	1.00
	2	0.00	0.00	0.31	1.30
	3	0.05	0.05	0.30	1.60
	4	0.00	0.05	0.28	1.88
	5	0.00	0.05	0.05	1.93
	6	0.00	0.05	0.03	1.96



・平年値は10年間(H23~R2)の平均値

ウ 発生量調査

(ア) トマト

調査地点	病害虫名	灰色かび病	疫病	葉かび病
		発病度	発病度	発病度
		6/28～29	6/28～29	6/28～29
草津市	下笠町	0	0	0
野洲市	小南	0	0	0
湖南市	菩提寺	0	0	0
近江八幡市	安土町 上豊浦	0	0	0
彦根市	松原町	0	0	0
甲良町	下之郷	0	0	0
米原市	世継	0	0	0
高島市	今津町 深清水	0	0	0

トマト

調査地点	病害虫名	アブラムシ類	コナジラミ類	ハスモンヨトウ
		寄生株率 (%)	寄生葉率 (%)	寄生株率 (%)
		7/26～27	7/26～27	7/26～27
草津市	下笠町	0	0	0
野洲市	小南	2.0	0	0
湖南市	菩提寺	0	0	0
近江八幡市	安土町 上豊浦	0	0	0
彦根市	松原町	10.0	0	0
甲良町	下之郷	0	0	0
米原市	世継	0	0	0
高島市	今津町 深清水	0	0	0

(イ) ナス

調査地点	病害虫名	うどんこ病	灰色かび病	アブラムシ類	アザミウマ類
		発病度	発病株率 (%)	1葉あたり生息数 (頭/葉)	寄生葉率 (%)
		6/28～29	6/28～29	7/26～27	7/26～27
草津市	下笠町	0	0	0	2.5
野洲市	小南	0	0	0	5.0
湖南市	菩提寺	0	0	0.2	2.5
近江八幡市	安土町 上豊浦	0	0	0	13.5
彦根市	松原町	0	0	0	0
甲良町	下之郷	0	0	0	2.5
米原市	世継	0	0	0	1.0
高島市	今津町 深清水	0	0	0	0

ナス

調査地点	病害虫名	ハスモンヨトウ	オオタバコガ	ハダニ類
		被害面積率 (%)	被害果率 (%)	寄生葉率 (%)
		8/16～18	7/26～27	8/16～18
草津市	下笠町	0	0	0
野洲市	小南	0	0	10.0
湖南市	菩提寺	0	0	0
近江八幡市	安土町 上豊浦	0	0	0
彦根市	松原町	0	0	0
甲良町	下之郷	0	0	0
米原市	世継	0	0	2.0
高島市	今津町 深清水	0	0	2.0

(ウ) キュウリ

調査地点	病害虫名	べと病	うどんこ病	灰色かび病	褐斑病
		発病葉率 (%)	発病葉率 (%)	発病株率 (%)	発病葉率 (%)
		7/26~27	6/28~29	6/28~29	6/28~29
草津市	下笠町	0	10.0	0	0
野洲市	小南	10.0	0	0	0
湖南市	菩提寺	5.0	0	0	0
近江八幡市	安土町	0	0	0	0
彦根市	松原町	0	10.0	0	0
甲良町	下之郷	0	0	0	1.0
米原市	世継	20.0	3.0	0	0
高島市	今津町	5.0	15.0	0	0

キュウリ

調査地点	病害虫名	アブラムシ類	コナジラミ類	アザミウマ類
		1葉あたり生息数 (頭/葉)	寄生葉率 (%)	1葉あたり寄生頭数 (頭/葉)
		7/26~27	7/26~27	7/26~27
草津市	下笠町	0.1	0	0.2
野洲市	小南	0	0	0.6
湖南市	菩提寺	0.3	0	0.1
近江八幡市	安土町	0	0	0.2
彦根市	松原町	0	0	0.1
甲良町	下之郷	0	0	0.6
米原市	世継	0.2	0	0.1
高島市	今津町	0.1	0	0.2

(エ) ダイコン

調査地点	病害虫名	アブラムシ類
		発生程度指数
		11/2
草津市	下笠町	30.0
野洲市	小南	0
湖南市	菩提寺	0
近江八幡市	安土町	0
彦根市	松原町	0
甲良町	下之郷	0
米原市	世継	3.0
高島市	今津町	0

ダイコン

(オ) 春キャベツ

調査地点	病害虫名	ヨトウガ	コナガ
		寄生株率 (%)	10株当たり幼虫・蛹数 (頭/10株)
		5/31	5/31
草津市	下笠町	0	1.0
野洲市	小南	0	0
湖南市	菩提寺	0	0
近江八幡市	安土町	0	1.0
彦根市	松原町	0	0
甲良町	下之郷	0	0
米原市	世継	0	0
高島市	今津町	0	0

春キャベツ

(カ) 冬キャベツ

調査地点	病害虫名	黒腐病	菌核病
		発病度	発病株率 (%)
		11/2	11/2
草津市	下笠町	0	0
野洲市	小南	0	0
湖南市	菩提寺	0	0
近江八幡市	安土町 上豊浦	0	0
彦根市	松原町	0	0
甲良町	下之郷	0	0
米原市	世継	0	0
高島市	今津町 深清水	0	0

調査地点	病害虫名	アブラムシ類	ハスモンヨトウ	ヨトウガ	コナガ
		寄生株率 (%)	寄生株率 (%)	寄生株率 (%)	10株当たり幼虫・蛹数 (頭/10株)
		11/2	11/2	11/2	11/2
草津市	下笠町	0	0	0	0
野洲市	小南	10.0	0	0	0
湖南市	菩提寺	10.0	0	0	0
近江八幡市	安土町 上豊浦	10.0	0	0	1.0
彦根市	松原町	0	0	0	0
甲良町	下之郷	0	0	0	0
米原市	世継	0	0	0	0
高島市	今津町 深清水	0	0	0	0

(キ) タマネギ

調査地点	病害虫名	白色疫病	べと病	アザミウマ類
		被害株率 (%)	被害株率 (%)	1株当たり寄生虫数 (頭/株)
		4/13~15	4/13~15	5/10~11
草津市	下笠町	0	24.0	25.0
野洲市	小南	0	16.0	35.0
湖南市	菩提寺	0	30.0	43.3
近江八幡市	安土町 上豊浦	0	22.0	30.0
彦根市	松原町	0	6.0	50.0
甲良町	下之郷	0	16.0	27.0
米原市	世継	0	10.0	100.0
高島市	今津町 深清水	0	6.0	20.0

(ク) ネギ

病害虫名		黒斑病	べと病	さび病
		被害株率 (%)	被害株率 (%)	被害株率 (%)
		9/21～22	9/21～22	9/21～22
調査地点				
草津市	下笠町	0	0	0
野洲市	小南	2.0	0	0
湖南市	菩提寺	2.0	0	0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	0	0
彦根市	松原町	0	0	0
甲良町	下之郷	0	0	0
米原市	世継	0	0	0
高島市今津町	深清水	0	0	0

病害虫名		アブラムシ類	アザミウマ類	ハスモンヨトウ	シロイチモジヨトウ
		被害株率 (%)	被害葉率 (%)	被害株率 (%)	被害株率 (%)
		11/2	9/21～22	11/2	11/2
調査地点					
草津市	下笠町	0	0	0	0
野洲市	小南	0	6.3	0	0
湖南市	菩提寺	0	3.3	0	0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	0	0	0
彦根市	松原町	0	0	0	0
甲良町	下之郷	0	0	0	0
米原市	世継	0	2.7	0	0
高島市今津町	深清水	0	0	0	0

(ケ) サトイモ

病害虫名		ハスモンヨトウ
		食害面積率 (%)
		9/21～22
調査地点		
草津市	下笠町	2.0
野洲市	小南	2.0
湖南市	菩提寺	0
近江八幡市安土町	上豊浦	0
彦根市	松原町	1.0
甲良町	下之郷	1.0
米原市	世継	0
高島市今津町	深清水	3.0

発生量は、最終調査結果のみを記載

エ 初発見月日と初発見場所

(ア) ほ場

作物名	病害虫名	初発見月日	初発見場所	作物名	病害虫名	初発見月日	初発見場所
トマト	灰色かび病	-		キャベツ	菌核病	11/2	高島市安曇川町田中
	疫病	-			黒腐病	9/21	高島市安曇川町田中
	葉かび病	-			軟腐病	-	
	モモアカアブラムシ	5/10	近江八幡市安土町上豊浦		アブラムシ類	-	
	コナジラミ類	-			ハスモンヨトウ	9/21	彦根市松原町
	オオタバコガ	6/28	彦根市松原町		オオタバコガ	-	
ナス	ハスモンヨトウ	-		ヨトウガ	-		
	うどんこ病	-		コナガ	5/10	甲良町下之郷	
	灰色かび病	-		ハイマダラノメイガ	9/7	近江八幡市安土町大中	
	アブラムシ類	5/10	近江八幡市安土町上豊浦	カブラヤガ	8/16	高島市今津町深清水	
	ハダニ類	5/31	米原市世継	モンシロチョウ	5/10	高島市今津町深清水	
	ミナミキイロアザミウマ	5/10	甲良町下之郷	黒腐病	9/25	高島市安曇川町田中	
キュウリ	ハスモンヨトウ	-		ハスモンヨトウ	11/2	高島市今津町深清水	
	うどんこ病	5/31	高島市今津町深清水	ヨトウガ	-		
	灰色かび病	-		コナガ	9/21	高島市今津町深清水	
	褐斑病	-		べと病	2/22	草津市下笠町	
	アブラムシ類	5/10	近江八幡市安土町上豊浦	タマネギ	白色疫病	-	
	アザミウマ類	5/10	米原市世継	ネギアザミウマ	2/22	湖南市菩提寺	
ダイコン	コナジラミ類	-		さび病	4/10	近江八幡市大中町	
	ハダニ類	-		黒斑病	9/22	野洲市小南	
	アブラムシ類	9/21	高島市安曇川町田中	べと病	6/20	近江八幡市大中町	
				ネギアブラムシ	4/13	甲良町下之郷	
				ネギアザミウマ	2/22	湖南市菩提寺	
				ハスモンヨトウ	9/21	高島市今津町深清水	
			シロイチモジヨトウ	-			
			サトイモ	ハスモンヨトウ	7/26	高島市今津町深清水	
				ハダニ類	6/28	高島市今津町深清水	

巡回調査において、複数種を調査対象としているものや種同定が困難なものは「～類」とした。なお、指定有害動植物は網掛けで示した。

(イ) 予察灯、フェロモントラップおよび黄色水盤

害虫名	初発見月日	初発見場所
アブラムシ類	4/8	近江八幡市安土町大中 (黄色水盤)
ヨトウガ	4/8	近江八幡市安土町大中 (P T)
ハスモンヨトウ	5/10	近江八幡市安土町大中 (P T)
シロイチモジヨトウ	4/22	近江八幡市安土町大中 (P T)
タバコガ	4/27	近江八幡市安土町大中 (P T)
オオタバコガ	4/22	近江八幡市安土町大中 (P T)
カブラヤガ	4/8	近江八幡市安土町大中 (P T)
シロオビノメイガ	8/4	守山市矢島町 (予察灯)
コナガ	4/1	高島市今津町日置前 (予察灯)

初発見場所 () 内記号 P T : フェロモントラップ

オ 程度別発生面積と防除面積

作物名	栽培面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)					発生面積率 (%)	被害面積率 (%)	防除面積 (ha)	
			甚	多	中	少	計			実防除	延防除
トマト	19	灰色かび病	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		疫病	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		葉かび病	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		アブラムシ類	0	0	0	4	4	0	0	1	1
		コナジラミ類	0	0	0	2	2	0	0	1	1
		ミカンキイロアザミウマ	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ハスモンヨトウ	0	0	0	2	2	0	0	1	1
		オオタバコガ	0	0	0	5	5	0	0	3	6
ナス	18	うどんこ病	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		灰色かび病	0	0	0	0	0	0	0	1	2
		アブラムシ類	0	0	0	4	4	0	0	6	12
		アザミウマ類	0	0	2	8	10	2.0	11.1	14	28
		マメハモグリバエ	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ハスモンヨトウ	0	0	0	2	2	0	0	5	5
		オオタバコガ	0	0	0	4	4	0	0	6	14
		ハダニ類	0	0	0	8	8	0	0	12	24
		ニジュウヤホシテントウ類	0	0	0	3	3	0	0	6	6
キュウリ	8	灰色かび病	0	0	0	0	0	0	0	2	2
		うどんこ病	0	0	0	2	2	0	0	2	2
		べと病	0	0	0	3	3	37.5	0	2	2
		褐斑病	0	0	0	1	1	12.5	0	1	1
		アブラムシ類	0	0	0	2	2	25.0	0	5	10
		コナジラミ類	0	0	0	1	1	12.5	0	1	1
		ミカンキイロアザミウマ	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		アザミウマ類	0	0	1	4	5	62.5	12.5	5	5
		ハダニ類	0	0	0	3	3	37.5	0	2	2
ダイコン	42	アブラムシ類	0	0	0	8	8	19.0	0	15	25
		ハイマダラノメイガ	0	0	2	6	8	19.0	4.8	20	40
ハクサイ	79	軟腐病	0	0	0	0	0	0	10	10	
キャベツ	25	アブラムシ類	0	0	0	3	3	12.0	0	10	10
		ヨトウガ	0	0	0	3	3	12.0	0	10	20
		コナガ	0	0	0	3	3	12.0	0	10	20
冬キャベツ	248	黒腐病	0	0	0	3	3	1.2	0	25	25
		菌核病	0	0	0	0	0	0	0	50	50
		アブラムシ類	0	0	0	6	6	2.4	0	120	120
		ハスモンヨトウ	0	0	0	70	70	28.2	0	120	240
		ヨトウガ	0	0	0	18	18	7.3	0	120	240
		オオタバコガ	0	0	0	55	55	22.2	0	120	240
ブロッコリー	74	ハスモンヨトウ	0	0	0	25	25	33.8	0	50	100
		ヨトウガ	0	0	0	3	3	4.1	0	50	100
		コナガ	0	0	0	21	21	28.4	0	50	100
タマネギ	80	白色疫病	0	0	0	0	0	0	0	60	180
		べと病	0	0	3	32	35	43.8	3.8	60	180
		アザミウマ類	0	0	0	30	30	37.5	0	45	45
ネギ	76	黒斑病	0	0	0	5	5	6.6	0	40	60
		べと病	0	0	0	5	5	6.6	0	40	60
		さび病	0	0	0	3	3	3.9	0	40	60
		アブラムシ類	0	0	0	3	3	3.9	0	30	40
		ネギアザミウマ	0	0	0	35	35	46.1	0	70	140
		ハスモンヨトウ	0	0	0	12	12	15.8	0	20	20
サトイモ	21	シロイチモジヨトウ	0	0	0	0	0	0	20	20	
		ハスモンヨトウ	0	0	0	10	10	47.6	0	5	5

※被害面積率=(程度別発生面積甚～中の和) / (栽培面積)

6 果樹等作物病害虫発生予察事業

ナシなどの主要果樹、チャおよび花き（キク）について、主要病害虫を対象とした重点調査の結果に基づき、病害虫発生予報を9回、発生予察情報として防除情報を1回（果樹カメムシ類）発表した。

（1）果樹

ア 生育概況

（ア）ナシ

3月までは暖冬で経過したため、開花期は平年より早くなったが、4月上旬の低温、強風の影響を受けて、受精や結実が不良になった。黒星病の発生は、やや早かったものの、5～6月の降水量は平年並であったため、‘幸水’での発生は平年並であった。梅雨明け後の少雨多照により‘幸水’等の早生品種は小玉傾向で、8月12日からの大雨と日照不足により、糖度は、やや低かった。収穫時期は、平年より、やや早かった。

（イ）ブドウ

3月まで暖冬で経過したため、発芽は平年より早くなったものの、4月上旬の低温の影響を受けて生育は停滞し、開花期は平年より、やや早くなった。5月中下旬の多雨寡照により、‘マスカット・ベリーA’では花穂で灰色かび病がみられ、その後、梅雨の影響を受けて、べと病、うどんこ病の発生が、やや多くなった。また、8月の収穫直前に降雨が続き、裂果が、やや多く発生した。収穫時期はおおむね平年並であった。

（ウ）カキ

3月まで暖冬で経過したため、発芽・展葉は平年より早くなったものの、4月上旬の低温の影響を受けて生育は停滞し、開花期は平年並となった。うどんこ病の発生は、5月中下旬の多雨寡照により初発が早まり、8月以降気温がやや低く推移したことから、その発生量はやや多くなった。また、8月に降雨が続き炭疽病の発生が多くなり、へたすき果の発生もみられた。収穫期後半からチャバネアオカメムシ等の果樹カメムシ類の発生が多くなったが、その被害は少なかった。収穫時期はおおむね平年並であった。

イ 発生状況

(ア) ナシ

作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
ナシ	黒星病	やや早	平年並	葉での発病は5月中旬頃と、やや早かったが、その発生量は平年並であった。収穫直前に果実への発病が見られたが、その発生量は平年並であった。	前年の発生量は平年より、やや多かったため、越冬した菌密度も高くなったこと、また、3月の高温による生育の前進により、発生時期が、やや早かった。5～6月の降水量は平年並であったため、発生量は平年並であった。しかし、梅雨時期のまとまった降雨前に薬剤防除できなかった園については、果実への発病が確認された。	開花期から梅雨明けまでの薬剤防除。秋季防除の徹底、落葉、被害果の園外処分。
	うどんこ病	-	やや少	生育期間を通して、ほとんど発病は見られなかった。	生育期間を通して黒星病との同時防除が実施されており、発病はほとんど見られなかった。	薬剤による黒星病との防除。落葉の処分。
	ナシヒメシクイ	やや遅	やや少	発生時期は、やや遅かったが、収穫時に果実への被害果が見られた。	フェロモントラップでの誘殺は5月第1半旬とやや遅く、その後増えることなく、誘殺数は、やや少なかった。しかし、薬剤防除の適期を逸した園については収穫時に果実への被害が目立った。	発生に応じた薬剤防除。被害果の処分。交信攪乱剤の設置。
	モモシクイガ	-	少	生育期間を通して、発生および被害を確認していない。	他害虫との同時防除により発生および被害は確認できなかった。	発生に応じた薬剤防除。被害果の処分。交信攪乱剤の設置。
	チャノコカクモンハマキ	やや早	やや多	発生時期は、やや早く、収穫後半に葉および果実への食害が見られた。	フェロモントラップへの初飛来は4月第3半旬とやや早かった。誘殺数は7月上中旬、8月第3半旬に一時増加し、葉や果実への被害につながった。	薬剤および交信攪乱剤によるシクイムシ類等との同時防除。
	チャハマキ	やや早	やや少	発生時期は、やや早く、収穫後半に葉および果実への食害が見られた。	フェロモントラップでの誘殺は4月第1半旬とやや早かった。誘殺数は7月第3半旬に一時増加したものの、やや少なく推移した。	薬剤および交信攪乱剤によるシクイムシ類等との同時防除。
	チャバネアオカメムシ	やや遅	越冬世代少 第一世代多	越冬世代の飛来時期は平年並であり、発生量は少なかった。第一世代の発生量が8月第4半旬から少しずつ増え始め、9月第4半旬に急増したが、収穫はほとんど終わっており、大きな被害には至らなかった。	昨年の冬期間に調査した越冬量が少なかったため、今年の越冬世代は少なかった。第一世代の急増については、8月の気温が平年よりやや低かったため、発生のピークが遅れたと思われる。	ネット被覆および発生に応じた薬剤防除。9月28日に防除情報を発信した。
	ツヤアオカメムシ	やや遅	越冬世代少 第一世代多	越冬世代の飛来時期は平年並であり、発生量は少なかった。第一世代の発生量が8月第2半旬から少しずつ増え始め、9月第4半旬に急増したが、収穫はほとんど終わっており、大きな被害には至らなかった。	予察灯での初飛来が5月第3半旬とやや遅く、発生量は少なく推移していた。第一世代の急増については、8月の気温が平年より、やや低かったため、発生のピークが遅れたと思われる。	ネット被覆および発生に応じた薬剤防除。9月28日に防除情報を発信した。
	クサギカメムシ	遅	越冬世代少 第一世代平年並	越冬世代の飛来時期は遅く、発生量は少なかった。第一世代の発生は平年並であった。	予察灯での初飛来が7月第4半旬と遅く、越冬世代の誘殺数は少なかった。その後の第一世代の誘殺数は平年並であった。	ネット被覆および発生に応じた薬剤防除。9月28日に防除情報を発信した。
	アブラムシ類	やや早	やや少	初発確認は4月中旬と平年より、やや早かったが、多発することなく推移し、発生量は平年より、やや少なかった。	4月の気温が平年より、やや高かったため、初発は、やや早かったが、適期防除により抑えられ、発生時期に降雨が多く、発生量は、やや少なくなった。	展葉期、新梢新梢期に発生に応じて薬剤防除。
	ハダニ類	平年並	平年並	初発確認は6月下旬と平年並であり、梅雨時期であったため発生量は落ち着き、平年並となった。	6月の気温は、やや高かったものの、発生時期に降雨が多く、発生量は平年並となった。	発生初期の薬剤防除。薬剤のローテーション散布。

(イ) ブドウ

作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
ブドウ	うどんこ病	やや早	やや多	果実の初発確認は6月下旬と、やや早く、その後の発生量は、やや多かった。	5～6月は高温で、乾燥と多湿の繰り返しが多かったため、発生量は、やや多かった。	初発時の薬剤防除。発病果の摘粒。
	べと病	平年並	やや多	初発確認は6月下旬と平年並であったが、その後発生量は、やや多く推移した。	発生時期に雨が多く、また、8月に入って降水量が、やや多く推移したため、発生量は増加した。風当たりの強い園地では被害が拡大した。	雨除け被覆。初発時の薬剤防除。落葉の園外処分。
	灰色かび病	やや早	やや多	初発確認は6月上旬と、やや早く、花穂における発病が、やや多く見られた。	発生時期に雨が多かったため初発が早まり、発生量は、やや多くなった。	花かす落としの励行。開花前と落花直後の薬剤防除。発病果の摘粒。新梢管理による過繁茂防止。
	晩腐病	平年並	やや多	初発確認は8月下旬と平年並であったが、収穫が9月以降の品種でその発生量は増加し、やや多かった。	袋かけが遅れた園地においては、発生が増加した。	開花期および幼果期の薬剤防除。粗皮削り。幼果期の薬剤防除。雨よけ被覆。袋かけの実施。発病果の摘粒。
	カイガラムシ類	平年並	平年並	初発確認は7月上旬と平年並で、その発生量も平年並であった。	冬季の粗皮削りや防除が遅れた園について、発生が確認された。	薬剤防除。粗皮削り。
	チャバネアオカメムシ	やや遅	越冬世代少 第一世代多	越冬世代の飛来時期は平年並であり、発生量は少なかった。第一世代の発生量が8月第4半旬から少しずつ増え始め、9月第4半旬に急増したが、収穫はほとんど終わっており、大きな被害には至らなかった。	昨年の冬期間に調査した越冬量が少なかったため、今年の越冬世代は少なかった。第一世代の急増については、8月の気温が平年より、やや低かったため、発生のピークが遅れたと思われる。	発生に応じた薬剤防除。9月28日に防除情報を発信した。
	ツヤアオカメムシ	やや遅	越冬世代少 第一世代多	越冬世代の飛来時期は平年並であり、発生量は少なかった。第一世代の発生量が8月第2半旬から少しずつ増え始め、9月第4半旬に急増したが、収穫はほとんど終わっており、大きな被害には至らなかった。	予察灯での初飛来が5月第3半旬とやや遅く、発生量は少なく推移していた。第一世代の急増については、8月の気温が平年より、やや低かったため、発生のピークが遅れたと思われる。	発生に応じた薬剤防除。9月28日に防除情報を発信した。
	クサギカメムシ	遅	越冬世代少 第一世代平年並	越冬世代の飛来時期は遅く、発生量は少なかった。第一世代の発生は平年並であった。果実への被害は確認されなかった。	予察灯での初飛来が7月第4半旬と遅く、越冬世代の誘殺数は少なかった。その後の第一世代の誘殺数は平年並みであった。	発生に応じた薬剤防除。9月28日に防除情報を発信した。
	チャノキイロアザミウマ	-	やや少	果軸および果粒における被害は、ほとんど確認されなかった。	適期防除により、発生量は、やや少なかった。	幼果期の薬剤防除。粗皮削り。袋かけ。園内外の除草。
	コガネムシ類	平年並	平年並	発生量は平年並であり、適期防除により被害は拡大しなかった。	園外からの飛来が主であり、園外の雑草等の管理が怠っている園で発生が確認された。	飛来状況に応じた薬剤防除。園外の雑草等管理。

(ウ) カキ

作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
カキ	うどんこ病	やや早	やや多	初発確認は5月中旬と平年より、やや早く、その後の発生量は、やや多く推移した。	発生時期に雨が多かったため初発が早まり、発生量は、やや多くなった。梅雨明け後、気温が、やや高く推移したため、発生が抑えられたが、8月以降気温が、やや低く推移したことから発生量は量増加し、やや多くなった。	初発時の防除。落葉病、炭疽病との同時防除。落葉の園外処分。
	落葉病	やや早	平年並	初発確認は6月中旬と、やや早かったが、その後の発生量は平年並に推移した。	発生時期に雨が多かったため、初発が、やや早くなったが、6月以降は気温が高く推移し発生量は平年並みとなった。	感染期の薬剤防除。落葉の園外処分。
	炭疽病	—	やや多	新梢での発病はみられなかったが、9月下旬には果実で平年より、やや多い発病がみられた。	5～6月の降水量は平年並であったことから、新梢への発病はみられなかった。しかし、8月の降水量が多かったことから、果実への発病が拡大した。	新梢の過繁茂防止。発病枝や発病果の除去。薬剤防除。
	チャノキイロアザミウマ	—	やや少	果実における発病は確認されなかった。	適期防除により、発生量は、やや少なかった。	開花期および幼果期の薬剤防除。粗皮削り。
	カキクダアザミウマ	やや早	平年並	初発確認は6月上旬と、やや早かったが、その後の発生量は平年並であった。	6月の気温が、やや高いことから発生は、やや早くなったが、その後の適期防除により被害の拡大は見られなかった。	軽微な被害葉が見え始めた頃の薬剤による防除。被害葉の処分。粗皮削り。
	カキノヘタムシガ	平年並	やや多	初発確認は6月上旬と平年並であり、第一世代での成虫も確認され、発生量は、やや多かった。果実への被害は確認されなかった。	5～6月は高温により、第一世代の成虫が増え、その発生量は、やや多くなった。	満開10日後および成虫発生盛期の薬剤防除。粗皮削り。
	フジコナカイガラムシ	平年並	やや少	新梢および果実における発生はほとんど確認されなかった。	前年の発生量は平年より、やや多かったが、粗削りや適期防除が実施されたため、発生量は、やや少なかった。	薬剤防除。粗皮削り。
	チャバネアオカメムシ	やや遅	越冬世代少 第一世代多	越冬世代の飛来時期は平年並で、発生量は少なかった。第一世代の発生量が8月第4半旬から少しずつ増え始め、9月第4半旬に急増した。ほ場において昼間でも観察された。	昨年の冬期間に調査した越冬量が少なかったため、今年の越冬世代は少なかった。第一世代の急増については、8月の気温が平年よりやや低かったため、発生のピークが遅れたと思われる。	発生に応じた薬剤防除。9月28日に防除情報を発信した。
	ツヤアオカメムシ	やや遅	越冬世代少 第一世代多	越冬世代の飛来時期は平年並であり、発生量は少なかった。第一世代の発生量が8月第2半旬から少しずつ増え始め、9月第4半旬に急増した。	予察灯での初飛来が5月第3半旬とやや遅く、発生量は少なく推移していた。第一世代の急増については、8月の気温が平年より、やや低かったため、発生のピークが遅れたと思われる。	発生に応じた薬剤防除。9月28日に防除情報を発信した。
	クサギカメムシ	遅	越冬世代少 第一世代平年並	越冬世代の飛来時期は遅く、発生量は少なかった。第一世代の発生は平年並であった。	予察灯での初飛来が7月第4半旬と遅く、越冬世代の誘殺数は少なかった。その後の第一世代の誘殺数は平年並であった。	発生に応じた薬剤防除。9月28日に防除情報を発信した。
チャノココクモンハマキ	やや早	やや多	発生時期は、やや早く、収穫後半に葉および果実への食害が見られた。	フェロモントラップへの初飛来は4月第3半旬とやや早かった。誘殺数は7月上中旬、8月第3半旬に一時増加し、葉や果実への被害につながった。	アザミウマ類、アザミウマ類、アザミウマ類との同時防除。	
チャハマキ	やや早	やや少	発生時期は、やや早く、収穫後半に葉および果実への食害が見られた。	フェロモントラップでの誘殺は4月第1半旬と、やや早かった。誘殺数は7月第3半旬に一時増加したものの、やや少なくなりました。	アザミウマ類、アザミウマ類との同時防除。	

ウ 予察灯、フェロモントラップおよびほ場における調査

(ア) 予察灯による調査

カメムシ類半旬別誘殺状況 (栗東市荒張、100W高圧水銀灯) (頭)

月	半旬	チャバネアオカメムシ				ツヤアオカメムシ				クサギカメムシ			
		本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
4	1	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0
	2	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0
	3	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0
	4	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0
	5	0	0	0.1	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0
	6	0	0	0.1	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0
5	1	0	0	3.4	4	0	0	2.2	2	0	0	0.0	0
	2	0	0	2.4	6	0	0	2.2	4	0	0	0.0	0
	3	1	1	10.6	17	8	8	3.7	8	0	0	0.0	0
	4	1	2	53.6	70	7	15	7.4	16	0	0	1.0	1
	5	0	2	34.4	105	1	16	18.9	34	0	0	0.0	1
	6	2	4	14.4	119	3	19	13.6	48	0	0	1.1	2
6	1	3	7	29.2	148	9	28	29.6	78	0	0	0.6	3
	2	3	10	14.4	163	14	42	49.3	127	0	0	2.1	5
	3	1	11	12.2	175	12	54	32.4	159	0	0	1.0	6
	4	0	11	21.8	197	19	73	131.8	291	0	0	0.6	7
	5	1	12	42.0	239	3	76	110.2	401	0	0	1.4	8
	6	4	16	116.6	355	9	85	147.3	549	0	0	7.9	16
7	1	23	39	192.2	548	31	116	98.2	647	0	0	6.8	23
	2	3	42	137.6	685	3	119	59.3	706	0	0	6.8	29
	3	2	44	143.9	829	9	128	60.0	766	0	0	25.3	55
	4	5	49	192.7	1022	9	137	82.5	849	2	2	32.1	87
	5	2	51	122.6	1144	20	157	58.6	907	4	6	29.4	116
	6	9	60	260.4	1405	62	219	60.1	967	2	8	85.4	202
8	1	6	66	280.5	1685	72	291	70.5	1038	5	13	60.9	262
	2	36	102	168.1	1853	168	459	97.9	1136	5	18	34.7	297
	3	26	128	151.4	2005	100	559	217.8	1354	21	39	36.2	333
	4	106	234	162.5	2167	208	767	92.1	1446	44	83	37.9	371
	5	66	300	122.3	2290	43	810	37.3	1483	38	121	28.4	400
	6	269	569	152.0	2442	228	1038	57.1	1540	60	181	23.3	423
9	1	62	631	119.1	2561	54	1092	46.5	1587	9	190	7.9	431
	2	116	747	133.8	2694	121	1213	59.3	1646	2	192	5.4	436
	3	73	820	85.2	2780	68	1281	74.6	1721	5	197	2.9	439
	4	875	1695	62.7	2842	466	1747	75.3	1796	9	206	1.6	441
	5	379	2074	46.5	2889	206	1953	95.2	1891	8	214	1.4	442
	6	701	2775	189.9	3079	680	2633	320.5	2212	11	225	2.1	444
10	1	278	3053	58.0	3137	454	3087	206.1	2418	5	230	1.5	446
	2	206	3259	23.8	3161	865	3952	108.4	2526	14	244	1.0	447
	3	56	3315	33.6	3194	443	4395	159.2	2685	7	251	0.8	448
	4	9	3324	10.7	3205	12	4407	100.2	2785	0	251	0.5	448
	5	0	3324	3.9	3209	0	4407	36.3	2822	0	251	0.1	448
	6	0	3324	1.1	3210	2	4409	11.3	2833	0	251	0.1	448

※平年値はH23～R2の10年間の平均値

(イ) フェロモントラップによる調査

フェロモントラップ半旬別誘殺状況 (栗東市荒張)

(頭)

月	半旬	果樹カメムシ類						ナシヒメシンクイ		チャハマキ		チャノコカクモンハマキ	
		チャバネアオカメムシ		ツヤアオカメムシ		クサギカメムシ		本年	平年	本年	平年	本年	平年
		本年	平年	本年	平年	本年	平年						
4	1	0	0.1	0	0	0	0	0	0.4	4	0.6	0	0.0
	2	0	0.3	0	0	0	0	0	0.6	0	0.4	0	0.2
	3	0	0	0	0	0	0	0	0.6	0	0.7	1	0.3
	4	0	0.6	0	0	0	0	0	1.0	0	0.3	1	0.9
	5	2	3.6	0	0.1	0	0	0	1.3	0	1.0	1	1.4
	6	0	3.5	0	0	0	0.2	0	2.2	0	1.1	0	1.7
5	1	2	22.8	0	1.5	0	0.4	4	0.7	0	1.8	3	2.4
	2	12	19.2	0	3.0	0	0	0	0.7	2	2.0	5	4.0
	3	40	38.6	20	5.7	0	0.3	0	0.1	1	1.9	8	6.7
	4	1	85.2	2	4.9	0	1.4	0	0.1	2	2.2	0	4.2
	5	0	39.0	1	13.1	0	1.3	0	0.0	0	0.8	0	2.1
	6	2	54.6	6	21.4	0	2.2	0	0.0	0	1.1	2	1.6
6	1	12	104.8	5	28.6	0	5.1	0	0.1	1	1.4	0	0.2
	2	21	28.5	2	6.3	0	1.7	0	0.2	0	1.0	1	0.3
	3	10	30.0	0	0.2	0	0.7	0	0.0	0	0.7	0	1.4
	4	0	58.0	0	1.2	0	0.5	1	0.3	0	0.6	1	1.2
	5	9	102.7	0	1.3	0	0.8	0	0.3	0	1.6	3	2.2
	6	7	310.6	0	2.0	0	1.3	0	0.5	0	1.4	2	2.5
7	1	9	375.7	1	2.7	0	1.0	0	0.2	0	1.1	14	5.4
	2	3	317.4	0	1.7	0	2.2	0	0.5	0	1.3	2	4.0
	3	4	446.4	0	1.1	0	3.1	2	0.2	9	1.3	10	1.6
	4	1	474.3	0	1.2	0	3.2	0	0.9	0	1.7	1	0.6
	5	1	362.6	0	2.1	0	1.5	0	1.0	0	0.8	0	0.8
	6	2	385.9	0	1.3	0	0.6	0	0.8	0	1.2	2	1.6
8	1	0	410.4	0	3.5	0	0.6	0	0.9	0	2.1	1	4.9
	2	0	162.5	0	5.3	0	0.3	1	0.8	2	1.4	3	3.0
	3	0	155.0	0	6.2	0	0.8	2	0.6	0	0.1	7	3.3
	4	0	129.9	0	2.2	0	0.8	1	1.1	0	0.6	6	2.4
	5	6	54.8	0	1.7	0	0.2	0	0.7	0	0.7	4	0.8
	6	10	42.5	0	2.8	0	0.1	0	0.6	1	1.3	0	0.9
9	1	18	20.9	7	3.3	0	0	0	1.1	0	2.0	2	2.7
	2	18	22.7	7	7.2	0	0	0	1.0	1	8.0	3	0.5
	3	11	5.0	7	1.2	0	0	1	0.6	1	4.0	4	3.5
	4	32	5.2	22	1.8	0	0	1	0.6	2	1.5	16	1.0
	5	99	8.8	85	8.9	0	0.1	0	0.1	0	3.0	7	5.5
	6	99	8.0	95	17.3	1	0.2	0	0.0	0	0	28	8.5
10	1	151	1.8	86	11.9	2	0.2	-	-	-	-	-	-
	2	15	8.2	35	39.4	2	0.1	-	-	-	-	-	-
	3	19	20.9	21	52.5	2	0.5	-	-	-	-	-	-
	4	6	7.5	9	49.0	0	0.3	-	-	-	-	-	-
	5	1	2.5	1	32.6	1	0.3	-	-	-	-	-	-
	6	3	1.3	1	8.2	2	0.1	-	-	-	-	-	-

※平年値はH23～R2の10年間の平均値。ナシヒメシンクイ、チャハマキ、チャノコカクモンハマキの調査期間は4月～9月。

(ウ) 現地ほ場における発生調査

a ナシ

月	黒星病 (発病果率%)				アブラムシ類 (寄生新梢率%)				ハダニ類 (寄生葉率%)			
	東近江市 下中野		彦根市 石寺		東近江市 下中野		彦根市 石寺		東近江市 下中野		彦根市 石寺	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
5	8.9	0.7	0.0	0.0	0.0	6.7	0.0	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0
6	0.7	1.1	0.0	0.0	0.0	2.0	1.1	3.1	0.0	2.7	0.0	0.2
7	10.0	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	1.3	3.6	0.0	1.4
8	28.9	5.4	0.0	0.0	-	-	-	-	0.0	1.5	0.0	0.7

※平年値：H23～R2の10年間の平均値。

※「-」は調査期間外または未調査。

b ブドウ

月	べと病 (葉の発病度)				灰色かび病 (発病房率%)				晩腐病 (発病房率%)				チャノキイロアザミウマ (果房の被害度)			
	東近江市 鯉江		長浜市 今荘		東近江市 鯉江		長浜市 今荘		東近江市 鯉江		長浜市 今荘		東近江市 鯉江		長浜市 今荘	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
5	-	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	-	-	-	-	-	-
6	0.0	0.2	1.6	0.4	0.0	0.4	0.0	0.2	-	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0
7	0.1	3.2	1.6	5.7	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	0.1	0.0	0.2
8	0.4	8.9	2.8	11.0	-	-	-	-	0.0	-	1.5	-	0.0	-	0.0	-
9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※平年値：H23～R2の10年間の値。ただし東近江市についてはH26年に曾根から鯉江に調査地点を変更。

※本年の「-」は調査期間外または未調査。平年の「-」はデータ数が少ないため未記入とした。

c カキ

月	炭疽病 (発病果率%)				カキクダアザミウマ (被害度)				カキノヘタムシガ (100葉あたり成虫数)				フジコナカイガラムシ (寄生新梢率%)			
	東近江市 鯉江町		栗東市 荒張		米原市 杉沢		栗東市 荒張		米原市 杉沢		栗東市 荒張		米原市 杉沢		栗東市 荒張	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
5	-	-	-	-	0.0	0.1	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	-	-
6	-	-	-	-	0.3	0.2	0.0	0.3	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
7	-	-	-	-	0.1	-	0.0	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	0.0	0.0
8	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	-	-	-	-	0.0	0.5	0.0	0.0
9	0.0	1.6	5.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※平年値：米原市、栗東市ともH23～R2の10年間。

※ただし、炭疽病についてはH31年に米原市弥高から東近江市鯉江に変更し、カキノヘタムシガ、フジコナカイガラムシは米原市弥高から杉沢に調査地点

※本年の「-」は調査期間外または未調査。平年の「-」はデータ数が少ないため未記入とした。

エ 発生および被害面積

作物名	栽培面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積(ha)					発生面積 率 (%)	被害面積 率 (%)	防除面積(ha)	
			甚	多	中	少	計			実防除	延防除
ナシ	46	黒星病	0	1	2	10	13	28.3	6.5	* 40	* 400
		うどんこ病	0	0	0	1	1	2.2	0.0	* 40	* 240
		ナシヒメシンクイ	0	0	2	3	5	10.9	4.3	* 40	* 240
		モモシンクイガ	0	0	0	0	0	0.0	0.0	* 40	* 80
		チャノコカクモンハマキ	0	0	1	6	7	15.9	2.2	* 40	* 80
		チャハマキ	0	0	1	6	7	14.1	2.2	* 40	* 80
		ナミハダニ	0	0	5	8	13	28.3	10.9	* 40	* 200
		カンザワハダニ	0	0	5	8	13	28.3	10.9	* 40	* 200
		クサギカメムシ	0	0	0	1	1	1.1	0.0	* 40	* 80
		チャバネアオカメムシ	0	0	4	5	9	19.6	8.7	* 40	* 80
		ツヤアオカメムシ	0	0	5	9	14	30.4	10.9	* 40	* 80
		アブラムシ類	0	0	2	13	15	32.6	4.3	* 40	* 120
ブドウ	52	晩腐病	0	0	2	9	11	21.2	3.8	* 45	* 180
		うどんこ病	0	0	0	2	2	4.4	0.0	* 45	* 90
		べと病	0	3	6	11	20	38.5	17.3	* 45	* 135
		灰色かび病	0	1	1	8	10	18.7	3.8	* 45	* 135
		チャノキイロアザミウマ	0	0	2	7	9	17.3	3.8	* 45	* 90
		クワコナカイガラムシ	0	0	1	3	4	7.7	1.9	* 45	* 90
カキ	153	炭そ病	0	1	4	20	25	16.3	3.3	* 34	* 136
		うどんこ病	0	1	2	12	15	9.5	2.0	* 34	* 136
		落葉病類	0	0	1	22	23	14.7	0.7	* 34	* 136
		カキノヘタムシガ	0	0	4	18	21	13.8	2.6	* 34	* 136
		フジコナカイガラムシ	0	0	1	3	4	2.4	0.7	* 34	* 136
		クサギカメムシ	0	0	3	16	19	12.4	2.0	* 34	* 102
		チャバネアオカメムシ	0	4	8	28	40	26.1	7.8	* 34	* 102
		ツヤアオカメムシ	1	5	10	25	41	26.8	10.5	* 34	* 102
		チャハマキ	0	0	0	3	3	2.1	0.0	* 34	* 34
		チャノコカクモンハマキ	0	0	0	4	4	2.5	0.0	* 34	* 34
		チャノキイロアザミウマ	0	0	0	3	3	2.0	0.0	* 34	* 68
カキクダアザミウマ	0	0	1	2	3	1.6	0.7	* 34	* 68		

※防除面積の「*」は同時防除含む。

※被害面積率=(程度別発生面積甚～中の和)/(栽培面積)

(2) チャ

ア 生育状況

1月下旬から4月上旬頃まで平均気温が高く推移したことから、茶業指導所内の作況園での一番茶萌芽期は、前5か年平均より3日早い4月3日となった。しかし、4月中旬以降、夜間の低温の影響を受けて生育はやや緩慢となり、摘採日は前5か年平均より1日遅い5月9日となった。収量は、百芽重が大きかったことから、前5か年平均より3割程度増加した。

その後、二番茶芽生育期間中の平均気温が平年よりも高く推移し、降水量も多かったことから、二番茶摘採日は前5か年平均より2日早い6月24日となった。収量は百芽重が少なかったことから、前5か年平均より2割程度少なかった。

二番茶摘採後は、7月下旬に少雨の影響で干ばつの傾向がみられ、三番茶芽の生育が一時的に抑制された。それ以降の降水量は8月下旬に少なかったが、それ以外は平年並～かなり多く推移し、三番茶芽および秋芽の生育は順調であった。

イ 発生状況

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
炭疽病	平年並	平年並	7月上旬頃から発生が認められ、その後の発生量は、平年並からやや多く推移した。全般的には平年並みの発生量であった。	感染源となる前年の発生量はやや多く、7月上旬、8月中旬の降水量が多かったことから、7月中旬以降に徐々に発生量が増加した。	薬剤による防除が適宜行われたほか、二番茶摘採後の浅刈り等による耕種的防除が実施された。
もち病	平年並	平年並	6月上旬までは発生量は平年並であったが、6月中旬に平年よりも多くなった。	感染源となる前年の発生量が多く、5月の中旬～下旬にかけて降水量が多かったことから、6月中旬に発生量が多くなったが、7月に気温が高い日が多かったことから、発生量は平年並となった。	常発地では薬剤による防除が適宜行われたほか、二番茶摘採後の浅刈り等による耕種的防除が実施された。
輪斑病	平年並	平年並	期間を通じて発生量は平年並であった。	感染源となる前年の新梢枯死症の発生量が平年並であり、感染が増加する7月の降水量は平年並であったことから、7～8月の発生量は平年並で推移した。	発生園では、治療剤散布による防除が実施された。
新梢枯死症	平年並	やや少	9月に発生が確認されたが、期間を通して発生量は、やや少なかった。	感染源となる輪斑病の発生量が、やや少なかったことから、新梢枯死症の発生量も、やや少なくなった。9月に入ると8月中旬、9月上旬の降雨の影響で発生が認められた。	発生園では、治療剤散布による防除が実施された。
チャノコカクモンハマキ	やや早	並	発生時期は、越冬世代～第2世代で、やや早かった。発生量は越冬世代で、やや多かったが、第1世代以降は徐々に減少し、第2世代～第3世代ではやや少なかった。	前年最終世代の発生量が多かったことから、越冬世代の発生量は、やや多かった。二番茶摘採後に防除が実施されたことから、第2世代以降の発生量はやや少で推移した。	越冬世代成虫の累積誘殺数が多かったため、4月23日に防除情報を発表した。薬剤による防除が適宜行われたほか、二番茶摘採後の浅刈りによる耕種的防除が実施された。

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
チャハマキ	やや遅	少	期間を通じて発生量は少なかった。	コカクモンハマキの発生によって防除が適宜行われたことから、発生量は少なく推移した。	チャノコカクモンハマキとの同時防除が実施された。
チャノホソガ	やや遅	やや多	発生量は、第1世代まではやや少なく、第2世代で平年並、第3世代で多く、第4世代で平年並であった。発生時期は、越冬世代は早かったが、第1世代でやや遅く、第2世代以降は遅かった。	7月～8月にかけて適度に降雨がみられ、三番茶芽の生育が旺盛であったことから、第3世代幼虫の発育が進み、発生量も増加した。また、7月上旬に降水量が多かったことから、第2世代以降の発生時期はやや遅くなった。	第3世代成虫の累積誘殺数が多かったため、8月17日に防除情報を発表した。その後、薬剤による防除が実施された。
チャノミドリヒメヨコバイ	やや早	平年並	発生量は7月上旬までは平年並で、7月中旬に入るとやや少なくなると推移した。	7月上旬に降水量が多い日が多かったことから、発生量が減少した。	発生に応じて適宜防除が実施された。
カンザワハダニ	平年並	平年並	越冬世代の発生量は平年並であったが、7月中旬～8月中旬に発生量が、やや少なくなり、その後の発生量は、平年並となった。	越冬ダニの発生量が平年並であったが、5月下旬、7月上旬の降水量が多かったことから、6月上旬～7月中旬に発生量が、やや少なくなったが、その後の発生量は、平年並となった。	発生に応じて適宜防除が実施された。
チャノキイロアザミウマ	平年並	やや少	7月上旬までの発生量は平年よりやや少なかったが、7月中旬～8月中旬の発生量は、平年並となり、その後の発生量はやや少なくなると推移した。	7月中旬～8月上旬の降水量が少なかったことから、7月中旬以降の発生量は増加したが、8月中旬に降水量が多かったため、その後の発生量はやや少なくなった。	発生に応じて適宜防除が実施された。
ツマグロアオカスミカメ	やや早	平年並	発生時期は、やや早く、発生量は平年並であった。	一番茶の萌芽期が平年より3日早かったことから、発生時期は、やや早くなった。	一番茶の萌芽期～開葉期に薬剤防除が実施された。
クワシロカイガラムシ	やや早	平年並	発生量は、越冬世代、第1世代で平年並、第2世代以降でやや少なくなった。	前年最終世代の発生量は平年並であったことから、越冬世代、第1世代の発生量は平年並となった。また、8月中旬の降水量が多かったことから、第2世代の発生量は、やや少なくなった。	発生園では主に第2世代幼虫ふ化期に薬剤防除が実施された。
チャトゲコナジラミ	やや遅	やや少	発生時期は、越冬世代でやや早く、第1世代で平年並、第2世代で遅かった。発生量は越冬世代で、平年並であったが、第1世代はやや少なく、第2世代は平年並となった。	4月上旬までの気温が平年より高く推移したことから、越冬世代の幼虫ふ化時期がやや早まったが、8月中旬の低温により、第2世代の幼虫ふ化時期が、遅まった。また、7月中旬～8月上旬の高温・干ばつの影響により、第2世代の発生量は、やや少なくなった。	発生園では、防除適期である若齢幼虫期に薬剤防除が実施された。また、二番茶摘採後の浅刈りによる耕種防除が実施された。

ウ 予察灯・フェロモントラップ・ほ場における調査

(ア) 予察灯（水盤）・フェロモントラップにおける調査

チャノコカクモンハマキ・チャハマキ・チャノホソガ 半旬別誘殺状況（甲賀市水口町）
（頭）

月	半旬	チャノコカクモンハマキ						チャハマキ						チャノホソガ			
		予察灯			フェロモン トラップ			予察灯			フェロモン トラップ			予察灯		フェロモン トラップ	
		本年			平年	本年	平年	本年			平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
		♀	♂	計				♀	♂	計							
4	1	0	1	1	0	7	7	0	0	0	0	0	0	6	1	128	169
	2	0	0	0	0	10	36	0	0	0	0	0	0	0	0	2	83
	3	0	1	1	0	105	50	0	0	0	0	1	2	0	2	81	84
	4	1	4	5	2	536	176	0	0	0	0	1	6	3	12	20	202
	5	2	16	18	8	945	207	0	0	0	1	0	9	0	2	8	93
	6	1	22	23	71	1127	348	0	0	0	1	3	11	0	5	3	35
5	1	5	78	83	61	405	319	0	0	0	1	2	8	1	2	4	24
	2	2	28	30	62	1	509	0	0	0	1	4	10	0	1	0	12
	3	1	16	17	28	99	320	0	0	0	3	3	9	0	1	0	7
	4	0	13	13	24	85	161	0	0	0	1	4	8	0	0	1	2
	5	0	1	1	13	27	54	0	0	0	1	2	13	0	0	12	40
	6	0	0	0	5	4	19	0	0	0	2	6	14	0	16	507	560
6	1	0	0	0	2	1	3	0	0	0	1	12	7	3	35	877	1074
	2	0	0	0	2	2	18	0	0	0	1	0	4	11	53	1272	2176
	3	1	11	12	72	35	124	0	0	0	0	0	5	1	28	714	1581
	4	3	33	36	34	41	144	0	0	0	0	4	4	0	6	218	709
	5	6	141	147	51	300	235	0	0	0	1	0	5	0	2	137	307
	6	1	96	97	51	127	265	0	0	0	1	1	6	0	3	34	164
7	1	3	56	59	31	31	185	0	0	0	1	0	6	0	2	188	250
	2	0	0	0	35	0	83	0	0	0	1	1	6	0	7	273	724
	3	0	0	0	11	0	27	0	0	0	3	1	9	8	16	948	1055
	4	0	0	0	3	0	17	0	1	1	1	6	12	32	25	638	1004
	5	0	4	4	4	10	34	0	0	0	2	1	5	0	4	594	544
	6	2	12	14	23	13	39	0	0	0	1	0	7	0	3	147	403
8	1	0	1	1	34	8	63	0	0	0	0	1	3	0	2	311	265
	2	0	2	2	33	11	40	0	0	0	1	1	3	0	8	1752	571
	3	0	0	0	26	5	28	0	0	0	0	0	2	0	10	3223	641
	4	0	0	0	33	2	18	0	0	0	0	0	2	0	7	3709	650
	5	0	0	0	15	0	9	0	0	0	0	0	2	21	5	1060	449
	6	1	0	1	5	1	20	0	1	1	0	4	1	0	2	117	387
9	1	0	0	0	3	0	39	0	0	0	0	0	2	0	1	26	281
	2	0	1	1	13	6	50	0	0	0	0	1	3	1	1	265	529
	3	0	0	0	36	14	81	0	0	0	0	0	5	3	1	713	642
	4	0	0	0	48	2	112	0	0	0	0	5	4	8	5	907	905
	5	0	1	1	78	25	137	0	0	0	0	0	5	6	4	611	626
	6	0	0	0	117	10	109	0	0	0	1	2	4	1	3	251	448
10	1	0	0	0	15	5	63	0	0	0	1	3	5	1	1	132	302
	2	0	0	0	16	2	54	0	0	0	2	5	7	0	2	40	274
	3	0	0	0	12	1	27	0	1	1	2	7	8	6	1	16	151
	4	0	0	0	7	0	28	0	0	0	1	13	10	4	1	107	135
	5	0	0	0	2	0	12	0	0	0	1	8	9	4	1	134	100
	6	0	0	0	0	1	9	0	0	0	1	7	10	3	0	462	68
11	1	0	0	0	0	2	8	0	0	0	1	6	5	2	0	346	39
	2	0	0	0	1	0	7	0	0	0	0	1	4	1	0	435	38
	3	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	1	3	0	0	242	28
	4	0	0	0	0	2	6	0	0	0	0	1	2	2	0	329	28
	5	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	1	1	1	0	191	19
	6	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	151	19

※ 平年値は2011～2020年の10年間の平均値。

チャノココクモンハマキ発生型一覧表（甲賀市水口町）

	越冬世代成虫		第1世代成虫		第2世代成虫		第3世代成虫	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
初飛来日（月日）	4月1日	4月18日	6月11日	6月13日	7月23日	7月26日	8月27日	9月9日
最盛日（月日）	5月4日	5月7日	6月22日	6月25日	7月28日	8月8日	9月10日	9月29日
最盛半旬（月-半旬）	5-1	5-2	6-5	6-5	7-6	8-2	9-2	9-6
50%誘殺日（月日）	5月4日	5月7日	6月24日	6月26日	7月28日	8月8日	9月10日	9月28日
終息日（月日）	5月21日	5月30日	7月6日	7月15日	8月11日	8月26日	9月22日	11月2日
誘殺日数（日）	31	24	24	22	11	24	3	26
誘殺数（頭）	192	274	351	288	21	175	3	348
性比（♂/♀）	15.00	12.91	24.07	10.40	9.50	8.47	-	7.34

※ 平年値は2011～2020年の10年間の平均値。
 ※ 「-」は誘殺数が0「ゼロ」であったことによる。

チャハマキ発生型一覧表（甲賀市水口町）

	越冬世代成虫		第1世代成虫		第2世代成虫		第3世代成虫	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
初飛来日（月日）	-	4月28日	7月16日	6月28日	8月27日	8月16日	10月13日	9月26日
最盛日（月日）	-	5月15日	7月16日	7月9日	8月27日	8月22日	10月13日	10月13日
最盛半旬（月-半旬）	-	5-3	7-4	7-1	8-6	8-4	10-3	10-3
50%誘殺日（月日）	-	5月13日	7月16日	7月11日	8月27日	8月21日	10月13日	10月13日
終息日（月日）	-	5月31日	7月16日	7月18日	8月27日	8月24日	10月13日	10月28日
誘殺日数（日）	-	10	1	7	1	3	1	10
誘殺数（頭）	-	16	1	12	1	3	1	13
性比（♂/♀）	-	5.46	-	8.17	-	2.00	-	5.89

※ 平年値は2011～2020年の10年間の平均値。
 ※ 「-」は誘殺数が0「ゼロ」であったことによる。

チャノホソガ発生型一覧表（甲賀市水口町）

	越冬世代成虫		第1世代成虫		第2世代成虫		第3世代成虫		第4世代成虫		第5世代成虫	
	本年	平年										
初飛来日（月日）	4月1日	4月11日	6月3日	5月30日	7月12日	7月4日	8月23日	8月7日	9月10日	9月8日	10月11日	10月10日
最盛日（月日）	4月1日	4月24日	6月9日	6月7日	7月19日	7月13日	8月24日	8月16日	9月16日	9月14日	10月14日	10月15日
最盛半旬（月-半旬）	4-1	4-5	6-2	6-2	7-4	7-3	8-5	8-3	9-4	9-3	10-3	10-3
50%誘殺日（月日）	4月2日	4月24日	6月8日	6月8日	7月19日	7月12日	8月23日	8月16日	9月17日	9月11日	10月22日	10月14日
終息日（月日）	5月3日	5月8日	6月13日	6月21日	7月19日	7月26日	8月24日	8月24日	10月5日	9月25日	11月23日	10月27日
誘殺日数（日）	6	9	8	15	4	13	2	9	13	8	18	5
誘殺数（頭）	10	30	15	140	40	60	21	36	20	17	23	9

※ 平年値は2011～2020年の10年間の平均値。ただし、第5世代成虫は発生が認められた2013～2016、2018、2019年の6年間の平均値。

(イ) ほ場における調査

a カンザワハダニ 基準ほ場における発生調査 (甲賀市水口町)

月 旬	本年				寄生葉率 (%)	平年	
	寄生数 (頭/葉)					寄生数 (頭/葉)	寄生葉率 (%)
	成虫	幼虫	卵	合計			
1	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.01	0.6
2	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.01	0.4
3	上	0.02	0.00	0.00	0.02	0.01	0.6
	中	0.00	0.00	0.00	0.00	0.04	0.8
	下	0.02	0.00	0.10	0.12	0.39	1.8
4	上	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.2
	中	0.00	0.00	0.00	0.00	0.14	0.8
	下	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	0.6
5	上	0.02	0.08	0.00	0.10	0.34	0.8
	中	0.00	0.00	0.00	0.00	0.47	0.8
	下	0.00	0.00	0.00	0.00	0.04	0.6
6	上	0.00	0.00	0.00	0.00	0.18	2.2
	中	0.00	0.02	0.04	0.06	0.12	0.6
	下	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.2
7	上	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	0.2
	中	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02	0.6
	下	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
8	上	0.00	0.00	0.00	0.00	0.04	1.2
	中	0.00	0.00	0.00	0.00	0.75	5.0
	下	0.00	0.06	0.06	0.12	0.14	3.4
9	上	0.02	0.24	0.24	0.50	0.10	3.4
	中	0.00	0.00	0.00	0.00	0.04	2.4
	下	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25	2.8
10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.29	3.2
11	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.12	1.6
12	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.05	1.2

※ 平年値は2011～2020年の10年間の平均値。

※ 寄生葉率は成虫、幼虫、または卵が1頭(卵)以上寄生している葉の割合。

b カンザワハダニ 予察ほにおける発生調査

(a) 甲賀市土山町 市場

月 旬	本年				寄生葉率 (%)	平年	
	寄生数 (頭/葉)					寄生数 (頭/葉)	寄生葉率 (%)
	成虫	幼虫	卵	合計			
1	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.00	0.2
2	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.00	0.4
3	上	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02	1.0
	中	0.00	0.00	0.00	0.00	0.45	1.4
4	上	0.00	0.00	0.00	0.00	1.46	3.2
	中	0.00	0.00	0.00	0.00	0.98	2.0
5	上	0.00	0.00	0.00	0.00	0.15	1.4
	中	0.00	0.00	0.00	0.00	0.52	3.8
6	上	0.02	0.04	0.00	0.06	1.95	16.2
	中	0.00	0.26	0.34	0.60	2.24	13.6
7	上	0.48	2.44	9.66	12.58	0.74	11.2
	中	0.06	0.02	0.10	0.18	0.03	2.4
8	上	0.02	0.00	0.18	0.20	0.22	5.4
	中	0.02	0.02	0.02	0.06	0.56	8.8
9	上	0.00	0.00	0.00	0.00	1.33	7.6
	中	0.00	0.00	0.26	0.26	1.61	3.8
10	0.00	0.10	0.06	0.16	2.0	0.00	0.0
11	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.01	0.6
12	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.00	0.2

※ 平年値は2011～2020年の10年間の平均値。

(b) 甲賀市信楽町 奥山

月 旬	本年				寄生葉率 (%)	平年	
	寄生数 (頭/葉)					寄生数 (頭/葉)	寄生葉率 (%)
	成虫	幼虫	卵	合計			
1	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.02	0.4
2	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.00	0.2
3	上	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.2
	中	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.2
4	上	0.00	0.00	0.00	0.00	0.45	1.0
	中	0.00	0.68	0.28	0.96	1.25	2.0
5	上	0.00	0.00	0.00	0.00	0.54	1.6
	中	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25	1.4
6	上	0.00	0.00	0.00	0.00	0.49	2.0
	中	0.00	0.00	0.00	0.00	0.05	0.8
7	上	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.2
	中	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02	0.8
8	上	0.00	0.00	0.00	0.00	0.08	1.2
	中	0.00	0.06	0.02	0.08	0.06	1.4
9	上	0.02	0.00	0.00	0.02	0.00	0.2
	中	0.02	0.00	0.06	0.08	0.07	0.8
10	0.08	1.08	2.26	3.42	16.0	0.20	1.8
11	0.84	0.42	1.30	2.56	16.0	0.00	0.2
12	0.14	0.60	0.30	1.04	8.0	0.12	0.8

※ 平年値は2011～2020年の10年間の平均値。

c カンザワハダニ 現地ほ場における発生調査

(a) 甲賀市土山町 頓宮

月	本年				寄生葉率 (%)
	寄生数 (頭/葉)				
	成虫	幼虫	卵	合計	
1	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
2	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
3	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
4	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
5	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
6	0.00	0.00	0.02	0.02	2.0
7	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
8	0.04	0.34	0.06	0.44	6.0
9	0.04	0.54	0.12	0.70	2.0
10	0.02	0.00	0.00	0.02	2.0
11	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
12	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0

(b) 甲賀市土山町 布引

月	本年				寄生葉率 (%)
	寄生数 (頭/葉)				
	成虫	幼虫	卵	合計	
1	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
2	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
3	0.00	0.00	0.80	0.80	4.0
4	0.00	0.08	0.42	0.50	4.0
5	0.06	0.08	0.54	0.68	10.0
6	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
7	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
8	0.04	0.28	0.00	0.32	4.0
9	0.00	1.24	0.64	1.88	14.0
10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
11	0.00	0.30	0.00	0.30	2.0
12	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0

(c) 甲賀市信楽町 向山

月	本年				寄生葉率 (%)
	寄生数 (頭/葉)				
	成虫	幼虫	卵	合計	
1	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
2	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
3	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
4	0.02	0.00	0.00	0.02	2.0
5	0.00	0.00	0.14	0.14	2.0
6	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
7	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
8	0.50	0.42	1.46	2.38	4.0
9	0.04	0.00	0.16	0.20	4.0
10	0.00	0.00	0.02	0.02	2.0
11	0.00	0.00	0.18	0.18	2.0
12	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0

(d) 甲賀市信楽町 寺谷

月	本年				
	寄生数 (頭/葉)				寄生葉率 (%)
	成虫	幼虫	卵	合計	
1	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
2	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
3	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
4	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
5	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
6	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
7	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
8	0.00	0.34	0.02	0.36	6.0
9	0.02	0.00	0.00	0.02	2.0
10	0.02	0.02	0.00	0.04	4.0
11	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
12	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0

(e) 日野町 北山

月	本年				
	寄生数 (頭/葉)				寄生葉率 (%)
	成虫	幼虫	卵	合計	
1	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
2	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
3	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
4	0.00	0.02	0.00	0.02	2.0
5	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
6	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
7	0.00	0.04	0.00	0.04	2.0
8	0.16	0.74	1.34	2.24	22.0
9	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
10	0.06	0.00	0.00	0.06	4.0
11	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
12	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0

d 炭疽病 基準ほ場および予察ほにおける発生調査

病葉数 (枚/m²)

月 旬	甲賀市水口町		甲賀市土山町						甲賀市信楽町						日野町	
			市場		頓宮		布引		奥山		向山		寺谷		北山	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	0.0	6.8	1.6	1.0	0.0	1.9	0.0	4.6	0.0	12.8	0.0	3.2	1.6	1.1	0.0	0.0
2	0.0	5.3	0.0	1.0	0.0	0.0	1.6	4.3	1.6	1.1	0.0	0.8	1.6	1.0	0.0	0.2
上	0.0	10.1	0.0	2.3	-	-	-	-	0.0	1.6	-	-	-	-	-	-
3 中	0.0	7.4	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	3.2	0.0	1.9	0.0	1.8	0.0	4.2	0.0	0.3
下	0.0	3.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上	0.0	0.5	0.0	0.2	-	-	-	-	0.0	1.3	-	-	-	-	-	-
4 中	0.0	7.5	0.0	0.3	0.0	2.7	0.0	2.5	0.0	1.0	0.0	0.5	0.0	1.2	0.0	0.2
下	0.0	2.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上	0.0	1.4	0.0	0.6	-	-	-	-	0.0	1.9	-	-	-	-	-	-
5 中	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0
下	0.0	0.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上	0.0	2.7	0.0	0.0	-	-	-	-	0.0	0.3	-	-	-	-	-	-
6 中	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	1.6	0.0	0.3	0.0	0.6	0.0	0.2
下	0.0	1.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上	1.6	6.9	0.0	0.3	-	-	-	-	0.0	3.5	-	-	-	-	-	-
7 中	4.8	10.7	0.0	0.5	1.6	0.6	0.0	1.4	0.0	1.1	0.0	1.9	0.0	0.3	0.0	0.0
下	1.6	12.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上	16.0	6.1	0.0	0.8	-	-	-	-	0.0	1.3	-	-	-	-	-	-
8 中	25.6	18.0	0.0	1.0	0.0	0.3	0.0	4.5	0.0	1.4	0.0	1.4	0.0	3.8	1.6	0.6
下	14.4	20.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上	16.0	24.3	0.0	3.0	-	-	-	-	17.6	3.0	-	-	-	-	-	-
9 中	22.4	37.3	0.0	2.4	1.6	1.9	0.0	12.5	43.2	8.5	3.2	5.9	44.8	7.4	0.0	0.6
下	43.2	43.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10	75.2	31.1	0.0	1.3	0.0	6.7	0.0	5.4	30.4	13.6	4.8	2.6	35.2	3.8	0.0	0.6
11	17.6	23.0	0.0	1.4	1.6	2.1	0.0	7.2	22.4	8.5	3.2	2.1	9.6	3.8	0.0	0.5
12	44.8	13.7	0.0	2.7	0.0	0.2	0.0	9.4	51.2	2.0	0.0	1.2	38.4	2.0	0.0	0.4

※ 平年値は2011～2020年の10年間の平均値。

※ 「-」は未調査。

エ 発生および被害面積

作物名	栽培面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)					発生面積率 (%)	被害面積率 (%)	防除面積 (ha)		
			甚	多	中	少	計			実防除	延防除	備考
チャ	545	炭疽病	0	20	60	240	320	58.7	14.7	320	640	*
		もち病	0	5	15	45	65	11.9	3.7	65	130	*
		輪斑病	0	5	15	70	90	16.5	3.7	90	90	*
		新梢枯死症	0	10	45	145	190	34.9	10.1	190	190	
		チャノコカクモンハマキ	5	10	85	225	325	59.6	18.3	325	650	*
		チャハマキ	0	0	15	100	115	21.1	2.8	115	230	*
		チャノホソガ	10	20	120	260	410	75.2	27.5	410	820	
		チャノミドリヒメヨコバイ	5	20	130	230	385	70.6	28.4	385	770	*
		カンザワハダニ	0	20	115	255	390	71.6	24.8	390	780	
		チャノキイロアザミウマ	0	10	105	255	370	67.9	21.1	370	740	*
		ツマグロアオカスミカメ	0	0	20	55	75	13.8	3.7	75	75	
		クワシロカイガラムシ	5	30	90	210	335	61.5	22.9	335	670	
チャトゲコナジラミ	5	10	50	200	265	48.6	11.9	265	530	*		

※防除面積の備考欄「*」は同時防除を含む

※被害面積率=(程度別発生面積甚～中の和)/(栽培面積)

(3) 花き (キク)

ア 発生状況

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
キク	白さび病	-	-	ほ場での初発確認は5月18日で、一部地域で発生が認められた。	昨年度発生が少なかったことによる菌密度の低下と、6月以降の高温によって発病が抑制された。	発生初期に防除の実施。
	アブラムシ類	平年並	やや少	ほ場での初発確認は6月28日で、発生時期は平年並、発生量は、やや少であった。	8月中旬の降雨と気温の低下により増殖が抑制されたと考えられる。	発生初期に薬剤散布が実施されている。
	アザミウマ類	平年並	やや少	ほ場での初発確認は6月28日で、発生時期は平年並、発生量は、やや少であった。	発生初期に適切に防除がされたため、発生量は、やや少であった。	発生初期に薬剤散布が実施されている。

イ 発生量調査

調査地点		病害虫名	白さび病	アブラムシ類	アザミウマ類
			発病葉率 (%)	1茎あたり寄生虫数 (頭)	被害葉率 (%)
			7/26~28	7/26~28	7/26~28
草津市	下笠町		0	0	0
野洲市	小南		0	0	0
湖南市	菩提寺		0	0.4	4
近江八幡市	安土町	上豊浦	0	0	0
彦根市	松原町		0	0	0
甲良町	下之郷		0	0	0.8
米原市	世継		0	0	0
高島市	今津町	深清水	0	0.04	0

ウ 発生状況一覧表

病害虫名	初発見月日	初発見場所
白さび病	5月18日	東近江市五個荘平阪町
アブラムシ類	6月28日	米原市世継
アザミウマ類	6月28日	甲良町下之郷

エ 発生および被害面積

対象作物名	栽培面積 (ha)	対象病害虫	程度別発生面積 (ha)					発生面積率 (%)	被害面積率 (%)	防除面積 (ha)	
			甚	多	中	少	計			実防除	延防除
キク	16	白さび病	0	0	0	1	1	6.3	0	5	10
		アブラムシ類	0	0	0	2	2	12.5	0	10	20
		アザミウマ類	0	0	0	1	1	6.3	0	10	10

被害面積率=(程度別発生面積甚~中の和) / (栽培面積)

7 病虫害防除推進員

県内における病虫害発生予察精度の確保を図るため、平成31年4月に「病虫害防除推進員」を新たに設置した。

令和3年度は、9農業協同組合より55名が選出され、地域における病虫害発生状況の把握に努めるとともに、病虫害防除および農薬安全使用の指導等を行っている。

(1) 病虫害防除推進員研修会

ア 第1回

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から集合研修を取りやめ、5月下旬に病虫害防除推進員へ関連資料を送付し、研修会に代えた。

- (送付資料) ①滋賀県病虫害防除推進員設置要領
②病虫害調査報告様式
③病虫害防除推進員の業務および病虫害発生状況報告について
④水稲・ダイズ主要病虫害の発生要因・生態と調査のポイント
⑤水稲・ダイズ主要病虫害判定シート(カラー画像入り)

イ 第2回

- 日時 令和4年3月3日(木) 13時30分～16時00分
場所 滋賀県農業技術振興センター大会議室(リモート配信実施)
研修内容 ①リモート講演「ドローンで使用できる農薬と
薬剤抵抗性病虫害の発達を抑える技術」
農薬工業会 事務局長 廣岡 卓 氏
②講演「ドローンの活用及び最新ドローンの機種」
ヤンマーヘリ&アグリ株式会社
中部近畿営業所 主任 室井 康明 氏
③情報提供「滋賀県における無人航空機による農薬散布に係る
安全ガイドラインの改正について」
滋賀県農政水産部農業経営課 主幹 有元 倫子

(2) 病虫害防除推進員による病虫害発生量調査結果

今年度は、イネの葉いもちと、斑点米カメムシ類の定期調査を実施した。

作物名	病虫害名	調査 基準日	発生量(%) (注1)(注2)					
			多	やや多	平年並	やや少	少	無
イネ	葉いもち	6/25	0	1.4	15.1	2.1	10.3	71.2
		7/10	1.9	6.5	29.0	3.9	9.7	49.0
	斑点米カメムシ類	8/1	1.3	8.8	30.6	11.3	20.6	27.5

(注1) 発生量の数値は、報告数に占める発生程度の比率。

(注2) 構成割合は四捨五入をしているため、その合計が100にならない場合がある。

8 滋賀県病害虫防除所ホームページ

予察情報等を広く早く伝達し、画像によるわかりやすい情報を提供するため、平成15年度より開始したインターネットによる情報提供サービスである。

令和3年1月から12月の利用実績は以下のとおりであった。令和2年と比較すると、病害虫判定シートの閲覧数がほぼ倍増しており、総閲覧数はおよそ7000回増加した。

表1 提供情報別閲覧数（回）

ページ名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
表紙	305	101	118	328	589	1629	2167	3687	1960	679	379	256	9640
病害虫判定シート	305	101	118	328	589	1629	2167	3687	1960	679	379	256	12198
警報・注意報・特殊報	117	42	51	45	129	90	427	408	325	113	95	71	1914
発生予報	54	19	150	93	256	310	394	376	244	310	567	332	3104
防除情報			288	76	167	360	393	476	192	154	34	23	2163
発生量データ	20	13		25	83	150	274	157	65	56	14	24	881
BLASTAM					20	135	198	65					418
IPM	28		11		23	21	37	35	9		10	33	207
植物防疫事業年報			8										8
診断結果	51				17			58		18			144
農薬扱い	12			20	17	11							60
注目の病害虫	2												2
研修会等開催報告	22	9											31
総計	1208	461	1005	988	2075	3906	5456	6524	3576	2105	2069	1397	30770

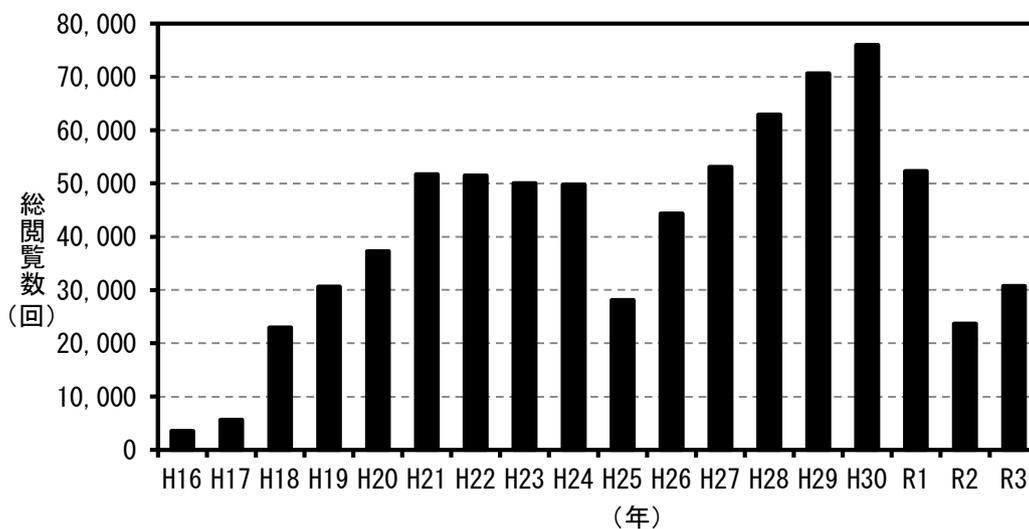


図1 滋賀県病害虫防除所ホームページ 総閲覧数の年次推移

9 本年新たに発生が確認された病害虫

病害虫名および発生経過は以下のとおりである。

アイリス黄斑ウイルス *Iris yellow spot virus* (IYSV)

令和3年7月に、県内の露地栽培のネギにおいて葉に紡錘形で白色～淡黄色の条斑を示す株が認められた。当所においてRIPA法（イムノクロマト）およびRT-PCR法による検定を行った結果、IYSVによるネギえそ条斑病であることが確認された。また、同時期に県内の施設栽培のトルコギキョウにおいて、葉に褐色の輪紋症状を示す株が認められ、当所でRIPA法による検定を行った結果、IYSVによるトルコギキョウえそ輪紋病であることが確認された。本県での本ウイルスによる病害の発生確認は初めてである。詳細については、令和3年度病害虫発生予察特殊報第1号（p. 95）を参照。



ネギ葉身のえそ条斑



トルコギキョウのえそ輪紋症状

10 病害虫の診断および生態調査

(1) 薬剤耐性検定（病害）

県内ほ場で採集したイネいもち病菌についてQoI剤の耐性菌検定を実施した。詳細については、第6 各種試験成績の項を参照。

(2) 薬剤耐性検定（虫害）

今年度は、害虫に対する薬剤耐性検定を実施しなかった。

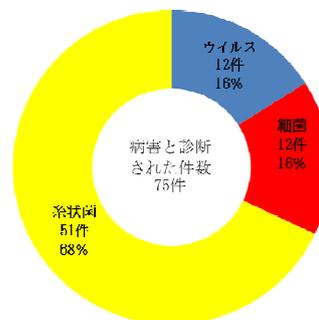
(3) 病害虫診断業務実績

令和3年1月から12月までに実施した病害虫の診断の合計件数は134件で、その内訳は普通作物が13件、野菜が104件、果樹が5件、花き（花木）が11件、茶が1件であった。

診断結果の原因は、病害76件、虫害8件、原因不明3件および、その他47件であった。

作物別の診断件数および結果

作物別	作目	診断件数				計
		病害	虫害	不明	その他	
普通作物	イネ	2			6	8
	コムギ	1				1
	オオムギ				1	1
	ダイズ	1	1		1	3
	小計	4	1	0	8	13(9%)
野菜	アスパラガス				1	1
	イチゴ	12	2	1	7	22
	エダマメ	2	1			3
	エンドウ	2				2
	カブ	2			3	5
	カボチャ				1	1
	キャベツ	1			1	2
	キュウリ	1			1	2
	コマツナ	2				2
	タマネギ	1			3	4
	チンゲンサイ				1	1
	トウモロコシ	1			1	2
	トマト	16	1		7	24
	ナス	2				2
	ナバナ	1				1
	ニンジン				1	1
	ネギ	4			4	8
	ハクサイ				2	2
	パパイア	1				1
	ピーマン	1				1
	ブロッコリー	2				2
	ホウレンソウ	1				1
	ミニトマト	4			1	5
	メロン	4			2	6
ヤマノイモ	2				2	
レタス	1				1	
小計	63	4	1	36	104(78%)	
果樹	イチジク	1			1	2
	ウメ		1			1
	ナシ	1				1
	ブドウ			1		1
	小計	2	1	1	1	5(4%)
花き	アスター	1				1
	キク	3			2	5
	ダリア		1	1		2
	バラ	2				2
	リアトリス		1			1
	小計	6	2	1	2	11(8%)
茶	チャ	1				1
	小計	1	0	0	0	1(1%)
合計		76 (57%)	8 (6%)	3 (2%)	47 (35%)	134 (100%)



※ ()内は合計診断件数に対する割合を示す。

(4) ヒメトビウンカのイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率調査

ア 目的

県内でのイネ縞葉枯病の発生は、昭和 60 年代以降、ほとんど見られなかったが、平成 21 年の発生予察調査において、立毛中に本病の発生が確認された。平成 23 年には再び立毛中に一部地域で、また県全域の刈株再生芽（ひこばえ）で本病が確認された。さらに、平成 28 年の刈株再生芽での発病調査において、本病の発病株率の急激な上昇を確認した。本病の発生は、イネ縞葉枯病ウイルス（RSV）を保毒したヒメトビウンカに大きく影響されることから、ヒメトビウンカの RSV 保毒虫率を把握するため、平成 23 年以降、調査を継続して実施している。

イ 方法

(ア) 供試虫の採集

4 月 5 日～8 日に、前年の刈株再生芽が残る水田ほ場 36 地点において、1 地点当たり 50 回のすくい取りによりヒメトビウンカ越冬個体群を採集した。

(イ) RSV 保毒虫検定

RSV 保毒の有無は、簡易 ELISA 法（柴ら，2013）により検定した。判定にはマイクロプレートリーダー（株式会社バイオラッド・ラボラトリーズ）を用いた。

ウ 結果の概要

調査を実施した 36 地点のうち 11 地点で越冬個体群を採集した。すくい取り虫数（供試虫数）は県全域で 22 頭と、近年で最も少なかった（表 1）。また、簡易 ELISA 法を実施した結果、供試虫における RSV の保毒は確認されなかった。

表 1. 各地域におけるヒメトビウンカ越冬個体群のすくい取り虫数と RSV 保毒虫率。

地域	平成31年(4/2~4)			令和2年(4/2~4)			令和3年(4/5~8)		
	供試虫数 (頭)	保毒虫数 (頭)	保毒虫率 (%)	供試虫数 (頭)	保毒虫数 (頭)	保毒虫率 (%)	供試虫数 (頭)	保毒虫数 (頭)	保毒虫率 (%)
大津・南部	20	0	0	5	0	0	3	0	0
甲賀	6	0	0	4	0	0	0	0	0
東近江	42	2	4.8	7	0	0	15	0	0
湖東	143	3	2.1	16	1	6.3	3	0	0
湖北	50	0	0	2	1	50.0	0	0	0
高島	4	0	0	2	0	0	1	0	0
県全域	265	5	1.9	36	2	5.6	22	0	0

(5) 平成21年～令和3年のトマト黄化葉巻 (TYLCV) 診断状況

トマト黄化葉巻病 (TYLCV) は、平成21(2009)年10月に守山市内の施設栽培のトマトにおいて県内で初めて確認され、特殊報を発表した (平成21年度病害虫発生予察特殊報第2号)。以降、これまでの持込み診断により、令和2年までに74件、同3年に5件の計79件を確認している(下図)。

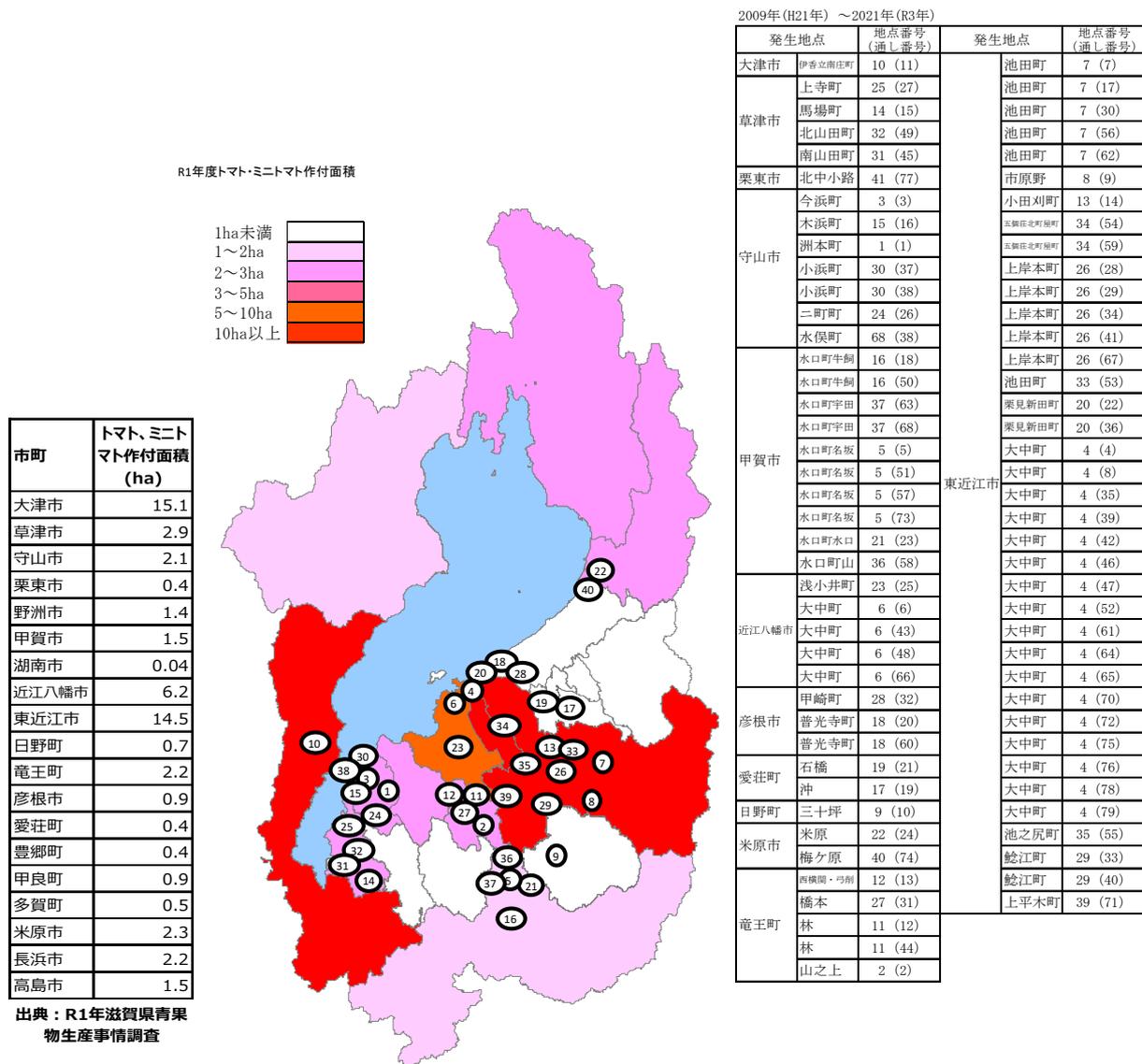


図 H21～R3のトマト黄化葉巻 (TYLCV) 発生地点

第3 重要病害虫の特別防除等推進事業

1 チチュウカイミバエの侵入警戒調査

1981～1982年は輸入果実を取り扱う地方卸売市場で実施し、1983～2001年は農業試験場本・分場および果菜類主産地で、2002年以降は農業試験場本場（2005年からは農業技術振興センター本場）において、スタイナー型誘殺トラップを設置し調査を行っている。誘引剤はトリメドルア剤を用い、毎月1回交換している。

本年は4月1日～11月30日まで毎月6回程度調査を行ったが、チチュウカイミバエの誘殺は認めなかった（日最高気温の月別平年値が14℃以上の月に調査）。

参考

表 彦根地方気象台の観測における日最高気温（℃）の平年値

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平年値（℃）	7.1	7.7	11.6	17.4	22.6	26.0	30.2	32.1	27.6	21.8	15.6	9.9

・平年値は1991年～2020年の30年間の観測値の平均値である。

2 その他病害虫の侵入警戒調査

2019年度の侵入警戒調査対象病害虫の追加に伴い、下記病害虫について調査を行った。調査方法は、「ミバエ類等侵入警戒調査実務参考資料」に基づき実施した。なお、対象病害虫の発生は認められなかった。

表 その他病害虫の侵入警戒調査

対象病害虫	対象品目	調査圃場数	調査日	調査方法	発生
チチュウカイミバエ	カキ、ナシ、ブドウ	6地点	5/12, 6/17, 7/13, 8/19, 9/22	目視	無し
ミカンコミバエ種群	カキ、ナシ、ブドウ	6地点	5/12, 6/17, 7/13, 8/19, 9/22	目視	無し
コドリンガ	ナシ	2地点	5/12, 6/17, 7/13, 8/19, 9/22	目視	無し
火傷病	ナシ	2地点	4/15, 5/12, 6/17, 7/13	目視	無し
スイカ果実汚斑細菌病	スイカ	6地点	7/1, 8/1	目視	無し

「－」は未確認を示す。

第4 農薬安全使用等総合推進事業

農薬取締法に基づく農薬販売者の届出受理事務を行った。また、農薬取扱者（農薬販売者および農薬使用者）への巡回点検・指導を実施した。さらに、農薬取扱者、農業者および農業団体等に対し、研修会等を通じて農薬の安全使用について周知徹底を図った。これらのことで農薬の販売および使用の適正化と農薬による危被害防止の啓発に努めた。

1 農薬安全使用対策

農薬の安全使用は、農薬取扱者が農薬の特性を十分理解し、適正に使用することが重要である。

このため、病虫害防除推進員、県、市町、農業協同組合などの関係職員や農薬取扱者を対象とした植物防疫研修会および農薬アドバイザー講習会等において、農薬の適正使用等について指導した。また、発生予察情報発信時に啓発資料を添付した。

2 農薬販売者の届出状況

(1) 令和3年度の届出件数は下表のとおりであった。

表 届出件数（令和3年4月1日～令和4年3月31日）

区分	新規届出数	変更届出数	廃止届出数	計
農薬販売者（営業所）	47	102	33	182

(2) 届出者(営業所)数

令和4年3月31日現在の届出者数は716件で、前年度より16件増であった。

3 農薬取扱者への巡回点検・指導の結果

農薬取扱者への巡回点検・指導を実施し、結果は下表のとおりであった。

農薬取扱者のうち、農薬販売者の違反内容は、届出や帳簿に関する事項であった。

巡回点検・指導の結果（令和3年4月1日～令和4年3月31日）

対象	違反の内容								
	農薬販売者					農薬使用者			
	届出 の不備	無登録農 薬の 販売	虚偽 の 宣伝	帳簿 の 不備	点検 拒否	無登録農 薬の 使用	農薬 使用 基準 違反	点検 拒否	ゴルフ 場変更 届の不 備
103	4	0	0	5	0	0	0	0	0

農薬取扱者数 = 農薬販売者97件 + ゴルフ場6件 = 103件

農薬使用基準違反 = 0件

第5 病害虫発生予察情報発表内容

1 予報

作物名	病害虫名	発表月日	予報内容		予報の根拠
			発生時期	発生量	
イネ	いもち病	5月18日 (葉いもち)	やや早	やや多	(1) 余剰苗での発生を認めていない。 (2) 前年の発生ほ場率は、やや高い。 (3) 育苗箱施薬による防除が普及している。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は多く、日照時間は少ない見込み。
		6月8日 (葉いもち)	やや早	平年並	(1) 余剰苗での発生時期は、やや早い。 (2) 本田での発生を認めていない。 (3) 育苗箱施薬による防除が普及している。 (4) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。
		6月22日 (葉いもち)	平年並	平年並	(1) 余剰苗での発生時期は、やや早い。 (2) 本田での発生を認めた。 (3) 育苗箱施薬による防除が普及している。 (4) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。
		7月6日 (葉いもち)	平年並	やや多	(1) ほ場での発生時期は平年並。 (2) ほ場での発生量は平年並。 (3) 育苗箱施薬による防除が普及している。 (4) 6月中旬以降にいもち病の感染好適日が県内各地で断続的に出現している。 (5) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。
		7月6日 (穂いもち、 極早生・早 生品種)	平年並	平年並	(1) 葉いもちの発生時期は平年並。 (2) 現在の葉いもちの発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。
		7月20日 (穂いもち)	平年並	やや多	(1) 葉いもちの発生量は、やや多い。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。
		8月3日 (穂いもち、 中生・晩生 品種)	平年並	やや多	(1) 出穂期は平年並の見込み。 (2) 穂いもちの発生を認めた。 (3) 葉いもちの発生量は、やや多い。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並、日照時間は県北部で平年並または多い、県南部で平年並の見込み。
紋枯病		6月22日	やや遅	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 前年の発生量は平年並。 (3) 水稻の茎数は、やや少ない。 (4) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並の見込み。
		7月6日	やや遅	平年並	(1) ほ場での発生時期は、やや遅い。 (2) 前年の発生量は平年並。 (3) 水稻の茎数は、やや少ない。 (4) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。
		7月20日	やや遅	やや少	(1) ほ場での発生時期は、やや遅い。 (2) 水稻の茎数は平年並。 (3) ほ場での発生量は、やや少ない。 (4) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。
		8月3日 (中生・晩生 品種)	平年並	やや少	(1) 中生品種の茎数は平年並。 (2) ほ場での発生量は、やや少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並、日照時間は県北部で平年並または多い、県南部で平年並の見込み。
白葉枯病		7月6日	平年並	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 前年の発生量は少ない。 (3) 育苗箱施薬による防除が普及している。 (4) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。
		7月20日	平年並	やや少	(1) 前年の発生量は少なかった。 (2) ほ場での発生を認めていない。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。
		8月3日	—	やや少	(1) 前年の発生量は少なかった。 (2) ほ場での発生を認めていない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並、日照時間は県北部で平年並または多い、県南部で平年並の見込み。
黄萎病(ツマ グロヨコバ イ)		4月20日	—	平年並	(1) 前年の刈株再生芽の発病は認められなかった。 (2) ツマグロヨコバの越冬量は、やや多い。 (3) 育苗箱施薬による防除が普及している。

作物名	病害虫名	発表月日	予報内容		予報の根拠
			発生時期	発生量	
イネ	イネドロオイムシ(イネクビホソハマシ)	4月20日	平年並	平年並	(1) 前年の発生量は平年並であった。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並、日照時間は多い見込み。
		5月18日	平年並	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 前年の発生量は平年並。 (3) 育苗箱施薬による防除が普及している。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は多く、日照時間は少ない見込み。
		6月8日	やや遅	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 前年の発生量は平年並。 (3) 育苗箱施薬による防除が普及している。 (4) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。
イネミズゾウムシ		4月20日	早	平年並	(1) 予察灯への飛来を認めた。 (2) 前年の発生量は、やや少なかった。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
		5月18日	やや遅	やや少	(1) 本田への飛び込み時期は、やや遅い。 (2) 前年の発生量は、やや少ない。 (3) 育苗箱施薬による防除が普及している。
ニカメイガ		5月18日 (第1世代)	やや早	少	(1) フェロモントラップでの誘殺時期は平年並。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は少ない。 (3) 越冬世代成虫の発ガ最盛期は彦根アメダス付近で5月24日付近と予想され、やや早い。 (4) 育苗箱施薬による防除が普及している。 (5) 気象予報では気温は高く、降水量は多い見込み。
		6月8日 (第1世代)	やや早	平年並	(1) 予察灯での誘殺時期は、やや早い。 (2) 予察灯での誘殺数は、やや多い。 (3) フェロモントラップでの誘殺数は少ない。 (4) 育苗箱施薬による防除が普及している。 (5) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
		7月6日 (第2世代)	やや早	やや多	(1) 第1世代幼虫による被害の発生時期は平年並。 (2) 第1世代成虫発ガ最盛期は、やや早いと推定される。 (3) ほ場での発生量は、やや多い。 (4) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
		7月20日 (第2世代)	やや早	やや多	(1) 第1世代幼虫による被害の発生時期は平年並。 (2) ほ場での発生量は、やや多い。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
トビウロンカ		7月6日	—	—	(1) 本県では、予察灯への飛来およびほ場での発生を認めていない。 (2) 7月5日現在、奈良県、大阪府、和歌山県、静岡県、三重県、岐阜県、徳島県、福岡県、佐賀県、長崎県、宮崎県の予察灯への飛来が報告されている。長崎県では、ほ場内での増殖も確認されている。
		7月20日	—	—	(1) 本県では、7月10日頃までに飛来が認められた場合は多発する危険性が高いが、7月12日現在、予察灯への飛来および本田での発生を認めていない。 (2) 九州地方、四国地方、近畿地方、中部地方の各県で予察灯への飛来、または本田での発生が確認されている。
		8月3日	—	少	(1) 現在までに予察灯への飛来およびほ場での発生を確認していない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		8月24日	—	少	(1) 予察灯への飛来および本田での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
セジロウンカ		7月6日	早	平年並	(1) 予察灯への飛来時期は早い。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
		7月20日	早	平年並	(1) 予察灯への飛来時期は早い。 (2) ほ場での発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
ヒメトビウンカ		7月6日	早	平年並	(1) 予察灯への飛来時期は早い。 (2) 前年の発生量と越冬量は、やや少ない。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
		7月20日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。

作物名	病害虫名	発表月日	予報内容		予報の根拠
			発生時期	発生量	
イネ	ツマグロヨコバイ	7月6日	平年並	平年並	(1) 予察灯への飛来時期は平年並。 (2) 前年の発生量は、やや少なく、越冬量は、やや多い。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
		7月20日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
		8月3日	—	平年並	(1) 予察灯への飛来量は、やや多い。 (2) ほ場での発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
	斑点米カメムシ類	7月6日	平年並	平年並	(1) 畦畔での発生時期は平年並。 (2) 前年の発生量は、やや多い。 (3) 畦畔での発生量は平年並。 (4) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
		7月20日	平年並	やや多	(1) 畦畔での発生時期は平年並。 (2) 畦畔での発生量は、カスミカメムシ類で、やや少なく、一部地域においてクモヘリカメムシ、ホソハリカメムシが多い。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
		8月3日	—	やや多	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 一部の地域で、大型カメムシ（クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、イネカメムシなど）の発生量が多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
	コブノメイガ	7月20日	やや遅	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
		8月3日	—	やや少	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		8月24日	—	少	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
イチモンジセセリ(イネツトムシ)	7月6日	やや遅	やや少	(1) 第1世代幼虫の発生時期は、やや遅い。 (2) ほ場での発生量は、やや少ない。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。	
コバネイナゴ	6月8日	遅	やや少	(1) 幼虫の発生時期は遅い。 (2) 前年の発生量は、やや少ない。	
	6月22日	遅	やや少	(1) 幼虫の発生時期は早い。 (2) 前年の発生量は、やや少ない。 (3) ほ場での発生量は、やや少ない。	
フタオビコヤガ(イネアオムシ)	7月6日	やや遅	やや少	(1) 予察灯への飛来時期、やや遅い。 (2) ほ場での発生量は、やや少ない。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。	
ムギ	赤かび病	3月23日	早	平年並	(1) ムギの出穂時期は早いと予想される。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 (3) 3か月予報（2月24日発表）では、3月～5月の気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		4月20日	早	平年並	(1) オオムギ、コムギの出穂期は早い。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並、日照時間は多い見込み。
ダイズ	べと病	8月3日	—	平年並	(1) ほ場での初発生は、やや早い。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		8月24日	—	やや多	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 過去2週間の気温は低く、降水量は多く、日照時間は少なかった。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
	葉焼病	8月24日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 過去2週間の降水量は多かった。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
	アブラムシ類	7月20日	—	やや少	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 黄色水盤での誘殺数は少ない。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
		8月3日	—	やや少	(1) 黄色水盤での誘殺数は少ない。 (2) ほ場での発生を認めていない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		8月24日	—	少	(1) ほ場での発生量は少ない。 (2) 黄色水盤での誘殺数は少ない。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。

作物名	病害虫名	発表月日	予報内容		予報の根拠	
			発生時期	発生量		
ダイズ	吸実性カメムシ類	8月3日	—	やや少	(1) ほ場での発生は少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。	
		8月24日	—	やや多	(1) ほ場での発生量は、やや多い。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。	
	ハスモンヨトウ	8月3日	平年並	やや多	(1) フェロモントラップでの誘殺時期は平年並。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は、やや多い。 (3) ほ場での発生を認めていない。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。	
		8月24日	—	やや多	(1) ほ場での発生量は、やや多い。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は多い。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。	
	フタスジヒメハムシ	8月3日	—	やや少	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。	
		8月24日	—	やや少	(1) ほ場での発生量は少ない。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。	
	ハダニ類	7月20日	—	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。	
		8月3日	—	平年並	(1) ほ場での発生は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。	
		8月24日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。	
	野菜全般	うどんこ病	5月18日	平年並	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は多い見込み。
			6月8日	平年並	平年並	(1) ほ場での発生を認めた。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。
			6月22日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。
7月6日			—	やや多	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。	
灰色かび病		6月8日	平年並	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。	
		6月22日	—	やや少	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。	
アブラムシ類		4月20日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 黄色水盤での誘殺数は、やや少ない。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。	
		5月18日	—	少	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 黄色水盤での誘殺数は少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は多い見込み。	
		6月8日	—	少	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 黄色水盤での誘殺数は少ない。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。	
		6月22日	—	少	(1) ほ場での発生量は少ない。 (2) 黄色水盤での誘殺数は少ない。 (3) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並の見込み。	
		7月6日	—	やや少	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 黄色水盤での誘殺数は少ない。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。	
		8月3日	—	やや少	(1) 黄色水盤での誘殺数は少ない。 (2) ほ場での発生量は、やや少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。	
	8月24日	—	やや少	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 黄色水盤での誘殺数は少ない。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。		
	9月28日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 黄色水盤での誘殺数は少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少ない見込み。		

作物名	病害虫名	発表月日	予報内容		予報の根拠
			発生時期	発生量	
野菜全般	ハダニ類	5月18日	—	やや少	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は多い見込み。
		6月8日	—	やや少	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
		6月22日	—	やや少	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並の見込み。
		7月6日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
		8月3日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
	アザミウマ類	5月18日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は、やや多い (2) 気象予報では気温は高く、降水量は多い見込み。
		6月8日	—	やや少	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
		6月22日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並の見込み。
		7月6日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
	ヨトウガ (ヨトウムシ)	5月18日	平年並	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は多い見込み。
	ハスモンヨトウ	8月3日	平年並	やや多	(1) フェロモントラップでの誘殺時期は平年並。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は、やや多い。 (3) ほ場での発生は、やや多い。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		8月24日	—	やや多	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は多い。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
		9月28日	—	やや多	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少ない見込み。
	タバコガ類	7月6日	—	平年並	(1) フェロモントラップでの誘殺数は、タバコガで、やや多く、オオタバコガで平年並。 (2) ほ場での発生を認めていない。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
		8月3日	—	平年並	(1) フェロモントラップでの誘殺数は、やや多い。 (2) ほ場での発生量は少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		8月24日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は少ない。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は、オオタバコガで平年並、タバコガで、やや多い。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
9月28日		—	やや少	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は、オオタバコガで平年並、タバコガでは、やや少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少ない見込み。	
ネキリムシ類 (カブラヤガ)	8月24日	—	やや少	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は、少ない。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。	
キュウリ	べと病	5月18日	早	やや多	(1) ほ場での発生は早い。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は多く、日照時間は少ない見込み。
		6月8日	平年並	平年並	(1) ほ場での発生を認めた。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。
		6月22日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。
		7月6日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。
タマネギ	べと病	3月23日	—	やや多	(1) ほ場での発生量は、やや多い。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。

作物名	病害虫名	発表月日	予報内容		予報の根拠	
			発生時期	発生量		
ナス科野菜	疫病	5月18日	やや早	やや多	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は多く、日照時間は少ない見込み。	
		6月8日	平年並	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。	
		6月22日	—	やや少	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。	
		7月6日	—	やや少	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。	
	ニジュウヤホシテントウ類	5月18日	平年並	やや少	(1) ほ場での発生時期は平年並。 (2) ほ場での発生量は、やや少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は多い見込み。	
		6月8日	平年並	やや少	(1) ほ場での発生時期は平年並。 (2) ほ場での発生量は、やや少ない。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。	
	アブラナ科野菜	軟腐病	9月28日	—	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少ない見込み。
		黒腐病	9月28日	—	平年並	(1) ほ場での発生を認めた。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少ない見込み。
菌核病		9月28日	—	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少ない見込み。	
アブラナ科野菜	モンシロチョウ(アオムシ)	5月18日	平年並	やや少	(1) ほ場での発生時期は平年並。 (2) ほ場での発生量は、やや少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は多い見込み。	
		8月24日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。	
		9月28日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少ない見込み。	
	コナガ	5月18日	やや早	少	(1) ほ場での発生時期は平年並。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は多い見込み。	
		8月3日	—	平年並	(1) 予察灯への誘殺数は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。	
		8月24日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 予察灯への飛来量は平年並。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。	
		9月28日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 予察灯での誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少ない見込み。	
	ヨトウガ(ヨトウムシ)	8月3日	—	平年並	(1) フェロモントラップでの誘殺数は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。	
		8月24日	—	やや少	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。	
		9月28日	—	平年並	(1) ほ場での発生を認めた。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は、やや多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少ない見込み。	
	ハイマダラノメイガ	8月3日	平年並	平年並	(1) 指標植物であるクレオメでの発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。	
		8月24日	—	やや少	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 指標植物であるクレオメでの発生を認めていない。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。	
9月28日		—	やや少	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 指標植物であるクレオメへの寄生数は、やや少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少ない見込み。		
カブラヤガ(ネキリムシ)	5月18日	平年並	平年並	(1) フェロモントラップでの誘殺時期は平年並。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は、やや少ない。 (3) 前年秋期の発生量は平年並。		

作物名	病害虫名	発表月日	予報内容		予報の根拠
			発生時期	発生量	
果樹全般	カメムシ類	4月20日	平年並	やや少	(1) チャバネアオカメムシ成虫の越冬虫数は少ない。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
		5月18日	平年並	やや少	(1) チャバネアオカメムシ成虫の越冬虫数は少ない。 (2) フェロモントラップ、予察灯での誘殺数は、やや少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は多い見込み。
		6月8日	—	少	(1) チャバネアオカメムシ成虫の越冬虫数は少ない。 (2) フェロモントラップ、予察灯での誘殺数は少ない。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
		6月22日	—	少	(1) チャバネアオカメムシ成虫の越冬虫数は少ない。 (2) フェロモントラップ、予察灯での誘殺数は少ない。 (3) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並の見込み。
		7月6日	—	少	(1) チャバネアオカメムシ成虫の越冬虫数は少ない。 (2) フェロモントラップ、予察灯での誘殺数は少ない。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
		7月20日	—	少	(1) チャバネアオカメムシ成虫の越冬虫数は少ない。 (2) フェロモントラップ、予察灯での誘殺数は少ない。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
		8月3日	—	少	(1) フェロモントラップ、予察灯での累積誘殺数は少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		8月24日	—	少	(1) フェロモントラップ、予察灯での累積誘殺数は少ない。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
	ハダニ類	6月22日	平年並	平年並	(1) ほ場での発生時期、発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並の見込み。
		7月6日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
		7月20日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
		8月3日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
	ハマキムシ類	5月18日	平年並	平年並	(1) フェロモントラップでのチャハマキの誘殺時期は、やや早く、誘殺数は平年並。 (2) フェロモントラップでのチャノコカクモンハマキの誘殺時期と誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は多い見込み。
		6月22日	—	平年並	(1) フェロモントラップでのチャハマキの誘殺数は、やや少ない。 (2) フェロモントラップでのチャノコカクモンハマキの誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並の見込み。
		7月20日	—	やや多	(1) フェロモントラップでの7月における誘殺数は、やや多い。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
	アブラムシ類	4月20日	早	平年並	(1) 果樹全般の生育は早い。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
		5月18日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は多い見込み。
ナシ	黒星病	3月23日	早	やや多	(1) ナシの生育は早い。 (2) 前年の発生量は、やや多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		4月20日	早	平年並	(1) ナシの生育は早い。 (2) 前年の発生量は、やや多い。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
		5月18日	—	やや多	(1) ほ場での発生量は、やや多い。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は多い見込み。
		6月8日	—	やや多	(1) ほ場での発生量は、やや多い。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
		6月22日	—	やや多	(1) ほ場での発生量は、やや多い。 (2) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並の見込み。
		7月6日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。

作物名	病害虫名	発表月日	予報内容		予報の根拠	
			発生時期	発生量		
ナシ	ナシヒメシクイ	5月18日	やや遅	平年並	(1) フェロモントラップでの誘殺時期は、やや遅い。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は多い見込み。	
		6月8日	—	やや少	(1) フェロモントラップでの誘殺数は、やや少ない。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。	
		7月6日	—	平年並	(1) フェロモントラップでの誘殺数は平年並。 (2) ほ場での被害果を認めていない。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。	
		8月3日	—	やや少	(1) フェロモントラップでの誘殺数は、やや少ない。 (2) ほ場での被害果数は、やや少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。	
	ニセナシサビダニ	6月8日	—	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。	
ブドウ	うどんこ病	5月18日	平年並	平年並	(1) ブドウの生育は平年並。 (2) 前年の発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は多い見込み。	
		6月22日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並の見込み。	
	べと病	6月22日	平年並	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 前年の発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並の見込み。	
		7月6日	平年並	やや多	(1) ほ場での発生は、やや多い。 (2) 前年の発生量は、やや多い。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。	
		7月20日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。	
		8月24日	—	やや多	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 過去2週間の降水量は多かった。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。	
	晩腐病	7月20日	平年並	平年並	(1) 前年の発生量は、やや多い。 (2) ほ場での発生を認めていない。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。	
	灰色かび病	5月18日	平年並	平年並	(1) ブドウの生育は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は多い見込み。	
		6月22日	—	やや多	(1) 開花時期の5月の降水量は、やや多く、ほ場での発生が、やや多い。 (2) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並の見込み。	
	クロコナカイガラムシ	5月18日	平年並	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) ブドウの生育は、やや早い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は多い見込み。	
	チャノキイロアザミウマ	6月22日	—	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並の見込み。	
	カキ	炭疽病	6月22日	—	やや少	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並の見込み。
			7月20日	—	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
			8月3日	—	やや少	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
8月24日			—	やや多	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 過去2週間の降水量は多かった。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。	
円星落葉病		6月22日	—	やや少	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 前年の発生量は、やや少ない。 (3) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並の見込み。	
		7月20日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 前年の発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。	
角斑落葉病		6月22日	—	やや少	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 前年の発生量は、やや少ない。 (3) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並の見込み。	
		7月20日	—	やや少	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 前年の発生量は、やや少ない。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。	
うどんこ病		6月22日	—	やや少	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 前年の発生量は、やや少ない。 (3) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並の見込み。	
		7月20日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。	

作物名	病害虫名	発表月日	予報内容		予報の根拠
			発生時期	発生量	
カキ	カキノヘタムシガ	5月18日	やや早	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) カキの生育は、やや早い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は多い見込み。
		7月20日	—	平年並	(1) 第一世代成虫のほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
	カキクダアザミウマ	5月18日	平年並	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) カキの生育は、やや早い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は多い見込み。
	チャノキイロアザミウマ	5月18日	平年並	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) カキの生育は、やや早い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は多い見込み。
		8月3日	—	平年並	(1) ほ場での被害果数は、やや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
	カイガラムシ類	8月3日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
カメムシ類	9月28日	—	やや多	(1) フェロモントラップでの累積誘殺数は少ないが、予察灯での誘殺数は8月第4半句以降増加し、9月第4半句の誘殺数は多い。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少ない見込み。	
チャ	炭疽病	6月8日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 前年の発生量は、やや多い。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
		7月20日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
		8月3日	—	やや多	(1) ほ場での発生量は、やや多い。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		8月24日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
	もち病	6月8日	—	やや多	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 前年の発生量は多い。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
		7月20日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
		8月3日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
	新梢枯死症	7月20日	—	平年並	(1) 感染源となる輪斑病葉の発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
		8月3日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 感染源となる輪斑病葉の発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
	輪斑病	7月6日	—	平年並	(1) 前年の三番茶芽における新梢枯死症の発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
	チャノココカクモンハマキ	4月20日 (第1世代幼虫)	やや早	やや多	(1) 越冬世代成虫のフェロモントラップへの初飛来日は早い。 (2) 前年の最終世代の発生量は、やや多い。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
		6月22日 (第2世代幼虫)	平年並	やや少	(1) 第1世代成虫のフェロモントラップへの初飛来日は平年並。 (2) 越冬世代成虫の誘殺数は予察灯で、やや少なく、フェロモントラップで少ない。 (3) ほ場での発生量は平年並。 (4) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並の見込み。
		8月3日 (第3世代幼虫)	やや早	平年並	(1) 第2世代成虫の初飛来日は、やや早い。 (2) 第2世代成虫の予察灯での誘殺数は平年並。 (3) ほ場での発生量は平年並。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
	チャハマキ	4月20日 (第1世代幼虫)	平年並	平年並	(1) 越冬世代成虫のフェロモントラップへの初飛来日は平年並。 (2) 前年の最終世代の発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
6月22日 (第2世代幼虫)		平年並	やや少	(1) 越冬世代成虫のフェロモントラップでの誘殺時期は平年並。 (2) 越冬世代成虫の誘殺数は予察灯で、やや少なく、フェロモントラップで少ない。 (3) ほ場での発生量は平年並。 (4) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並の見込み。	

作物名	病害虫名	発表月日	予報内容		予報の根拠
			発生時期	発生量	
チャ	チャノホソガ	4月20日 (第1世代幼虫)	やや早	平年並	(1) 越冬世代成虫のフェロモントラップへの初飛来日は早い。 (2) 前年の最終世代の発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
		6月8日 (第2世代幼虫)	平年並	平年並	(1) 第1世代成虫のフェロモントラップでの誘殺時期は平年並。 (2) 第1世代成虫のフェロモントラップでの誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
		7月20日 (第3世代幼虫)	やや遅	平年並	(1) 第2世代成虫のフェロモントラップでの誘殺時期は、やや遅い。 (2) 第2世代成虫のフェロモントラップでの誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
		8月24日 (第4世代幼虫)	平年並	やや多	(1) 第3世代成虫のフェロモントラップでの誘殺時期は平年並。 (2) 第3世代成虫の累積誘殺数は、予察灯で平年並、フェロモントラップで多い。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
	チャノミドリヒメヨコバイ	6月8日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
		7月6日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
		7月20日	—	やや少	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
		8月3日	—	やや少	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
	チャノキイロアザミウマ	6月8日	—	やや少	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
		7月6日	—	やや少	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
		7月20日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
		8月3日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
カンザワハダニ	3月23日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。	
	4月20日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。	
	5月18日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は多い見込み。	
	6月8日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。	
	6月22日	—	やや少	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並の見込み。	
	7月6日	—	やや多	(1) ほ場での発生量は、やや多い。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。	
	7月20日	—	やや少	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。	
	8月3日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。	
	8月24日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。	
	9月28日	—	やや多	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少ない見込み。	

作物名	病害虫名	発表月日	予報内容		予報の根拠
			発生時期	発生量	
チャ	ツマグロアオカスミカメ	4月20日	やや早	平年並	(1) 一番茶の生育は、やや早い。 (2) 前年の発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
	クワシロカイガラムシ	5月18日 (第1世代幼虫)	やや早	平年並	(1) 幼虫ふ化最盛期の有効積算温度(287日度、起算日1月1日、発育零点10.5℃)による予測日は、やや早い。 (2) 越冬世代成虫の寄生株率は、平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は多い見込み。
		6月8日 (年2回発生地域・第1世代幼虫)	やや早	平年並	(1) 調査茶園における寄生株率は平年並。 (2) 甲賀市水口町水口(茶業指導所)におけるふ化最盛期(50%ふ化卵塊が過半数に達した時期)は、やや早い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		7月20日 (年3回発生地域・第2世代幼虫)	平年並	平年並	(1) 第1世代成虫の発生時期は、やや早い。 (2) 第2世代幼虫ふ化最盛期の有効積算温度(688日度、起算日第1世代ふ化最盛期、発育零点10.8℃)による予測日は平年並。 (3) 第1世代成虫(雄繭)の寄生株率は平年並。 (4) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
		8月3日 (年2回発生地域・第2世代幼虫)	平年並	平年並	(1) 第1世代成虫の発生時期は、やや早い。 (2) 第2世代幼虫ふ化最盛期の有効積算温度(688日度、起算日第1世代ふ化最盛期、発育零点10.8℃、高温補正30℃)による予測日は平年並。 (3) 第1世代成虫の寄生株率(雄繭)は平年並。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		8月24日 (年3回発生地域・第3世代幼虫)	やや早	やや少	(1) 第2世代幼虫の発生時期は、やや早い。 (2) 第2世代成虫(雄繭)の寄生株率は、やや少ない。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
チャトゲコナジラミ	5月18日 (第1世代幼虫)	早	やや多	(1) 越冬世代成虫の発生時期は早い。 (2) 越冬世代成虫の黄色粘着板での誘殺数は、やや多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は多い見込み。	
	6月8日 (第1世代幼虫)	早	平年並	(1) 越冬世代成虫の発生時期は早い。 (2) 越冬世代成虫の黄色粘着板での誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。	
	7月20日 (第2世代幼虫)	平年並	やや少	(1) 第1世代成虫の黄色粘着板での誘殺時期は平年並。 (2) 第1世代成虫の黄色粘着板での誘殺数は、やや少ない。 (3) 調査茶園における幼虫の発生量は少ない。 (4) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。	
	8月3日 (第2世代幼虫)	平年並	やや少	(1) 第1世代成虫の発生ピークは、やや遅い。 (2) 第1世代成虫の黄色粘着板での誘殺数は、やや少ない。 (3) 調査茶園における幼虫の発生量は少ない。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。	
	9月28日 (第3世代幼虫)	やや遅	やや少	(1) 第2世代成虫の発生時期は遅い。 (2) 第2世代成虫の黄色粘着板での誘殺数は平年並。 (3) 調査茶園における幼虫の発生量は、やや少ない。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少ない見込み。	
キク	アブラムシ類	7月6日	—	やや少	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 黄色水盤での誘殺数は少ない。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
		8月3日	—	やや少	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 黄色水盤での誘殺数は少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。

2 注意報および警報

本年度、注意報を1回発表した。なお、警報の発表はなかった。

令和3年度病害虫発生予察注意報第1号 いもち病の早期発見・早期防除に努めましょう！

令和3年(2021年)7月13日
滋 賀 県

1. 病害虫名：イネいもち病（葉いもち、穂いもち）
2. 発生地域：県内全域
3. 対象作物：水稲
4. 発生時期：葉いもち6月下旬以降、穂いもち7月下旬以降
5. 発生程度：やや多
6. 注意報発表の根拠
 - (1) 7月6～9日に行った調査において、県内36地点180ほ場での発生ほ場率は18.9%（平年7.9%）、発病株率は1.8%（平年0.9%）と、過去10年で発生ほ場率は最も高く、発病株率は2番目に高かった。
 - (2) 葉いもちに感染しやすい気象条件が生じたかを推定するイネいもち病発生予測システム（BLASTAM）によると、6月15日以降、いもち病の感染好適日が県内各地で断続的に出現しており、今後病斑の進展や新たなほ場での発生が予想される（表）。
 - (3) 向こう1か月の気象予報（大阪管区気象台7月8日発表）では、期間の前半は平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みで、いもち病の発生に好適な条件となる可能性が高い。
7. 防除対策
 - (1) 葉いもちは、穂いもちの伝染源となるため、発病を確認したら直ちに薬剤を散布する。
 - (2) 穂いもちは、ほ場の状況をよく確認し、適期に防除する。
 - ・粉剤、液剤(水和剤・乳剤等)は穂ばらみ期～出穂期に散布する。穂いもちの発生が多い時は、さらに穂揃期～乳熟期にも防除する。
 - ・粒剤は種類により施用時期が異なるため、ラベルをよく読んで適期に散布する。
 - (3) 薬剤耐性菌の出現を防止するため、同一グループ薬剤を連用しない。
 - (4) 薬剤は県農作物病害虫雑草防除基準を参照のこと。なお、薬剤の散布にあたっては、ラベルをよく確認し、使用基準を遵守する。

表 BLASTAMによる葉いもち感染好適日の判定結果

	今津	長浜	米原	南小松	彦根	東近江	大津	信楽	土山
6月14日	月	-	-	-	-	-	-	-	-
6月15日	火	●	-	-	-	-	-	-	-
6月16日	水	-	-	-	●	●	●	-	●
6月17日	木	○4	●	○4	-	●	●	-	●
6月18日	金	-	-	-	-	-	-	-	-
6月19日	土	-	-	-	-	-	●	○4	-
6月20日	日	-	●	-	●	●	●	-	●
6月21日	月	-	-	-	-	-	-	-	-
6月22日	火	-	-	-	-	-	-	-	-
6月23日	水	-	-	-	-	-	-	-	-
6月24日	木	-	-	-	-	-	-	-	-
6月25日	金	-	-	-	-	-	-	-	-
6月26日	土	-	-	-	-	●	-	●	-
6月27日	日	-	-	●	●	●	-	●	-
6月28日	月	-	-	-	-	-	-	-	-
6月29日	火	-	-	-	○4	●	●	-	●
6月30日	水	-	-	-	-	-	-	-	-
7月1日	木	-	-	-	-	-	-	-	-
7月2日	金	-	-	-	-	●	●	●	-
7月3日	土	-	-	-	●	-	-	-	-
7月4日	日	●	●	-	-	-	○3	-	-
7月5日	月	-	-	-	○3	-	-	-	-
7月6日	火	-	-	-	-	●	-	-	-
7月7日	水	●	-	●	-	-	-	-	-
7月8日	木	●	○2	●	○2	○2	○2	-	-
7月9日	金	-	-	-	-	-	○2	-	-
7月10日	土	-	-	-	-	○2	○2	-	-
7月11日	日	-	-	-	-	-	-	-	-
7月12日	月	-	-	-	-	○2	-	●	-

[JPP-NET版BLASTAMの判定結果の指標]

- : 好適条件 (湿潤時間中の平均気温が15~25℃であり、湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間を満たし、当日を含めてその日以前5日間の日平均気温の平均値が20~25℃の範囲にある。)
- 1: 準好適条件 (湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が20℃未満)
- 2: 準好適条件 (湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が25℃以上)
- 3: 準好適条件 (湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤時間中の平均気温が15℃~25℃以外)
- 4: 準好適条件 (湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間数より短い)
- ?: 判定不能

BLASTAMとは、気象庁のアメダスデータを用いてイネの葉面湿潤時間を算出し、葉いもちに感染しやすい気象条件が生じたかを推定するモデル。

3 特殊報

本年度は、1回発表した。

令和3年度病害虫発生予察特殊報第1号

令和3年(2021年)8月31日
滋賀県

1. 病害虫名 ネギえそ条斑病、トルコギキョウえそ輪紋病
2. 病原菌名 アイリス黄斑ウイルス *Iris yellow spot virus* (IYSV)
3. 対象作物 ネギ、トルコギキョウ
4. 発生経過
 - (1) 令和3年7月に県内の露地栽培のネギにおいて、葉に紡錘形で白色～淡黄色の条斑を示す株が認められた。滋賀県病害虫防除所においてRIPA法(イムノクロマト)およびRT-PCR法による検定を行った結果、IYSVによるネギえそ条斑病であることが確認された。
 - (2) 令和3年7月に県内の施設栽培のトルコギキョウにおいて、葉に褐色の輪紋症状を示す株が認められた。滋賀県病害虫防除所においてRIPA法による検定を行った結果、IYSVによるトルコギキョウえそ輪紋病であることが確認された。
 - (3) 本ウイルスによる病害は、平成8年に千葉県のアルストロメリアで国内で初めて確認された後、トルコギキョウ、ネギ、タマネギ、ニラ、テッポウユリ等全国30以上の都府県で発生が確認されている。近隣では、三重県のトルコギキョウ、和歌山県のトルコギキョウ、京都府のネギ、トルコギキョウ、兵庫県 of ネギ、タマネギ、トルコギキョウ、テッポウユリでの発生が過去に報告されている。本県での本ウイルスによる病害の発生確認は初めてである。
5. 本病の特徴
 - (1) 病徴
 - ①ネギ：葉身に不明瞭な退緑斑が発生し、その後、紡錘形で白色～淡黄色のえそ条斑を生じる(写真1、2)。隣接した病斑は癒合し(写真3)、葉が萎凋枯死することがある。
 - ②トルコギキョウ：株の中位～上位葉にえそ斑点やえそ輪紋、茎のえそ条斑を生じる(写真4、5)。発病程度が激しくなると、葉が変形、枯死する。
 - (2) 伝染経路
本ウイルスはネギアザミウマによって媒介される(写真6)。ネギアザミウマは幼虫時に感染植物を吸汁して本ウイルスを獲得し、一度ウイルスを獲得したアザミウマは終生ウイルスを伝搬する(永続伝搬)。経卵伝染はしない。なお、その他のアザミウマによる媒介は確認されておらず、土壌伝染や種子伝染もしない。管理作業による汁液(接触)伝染の可能性も低いとされている。
 - (3) 宿主植物
現在までにユリ科を中心に17科40種以上の植物で感染が報告されている。主なものを表に示す。
6. 防除対策
 - (1) 媒介虫であるネギアザミウマを防除する。なお、薬剤で防除する際は、薬剤感受性低下を防ぐため、同一グループ薬剤の連用を避ける。また、薬剤の散布にあたっては、ラベルをよく確認し、使用基準を遵守する。生育初期に幼虫の食害を受けた場合、被害が大きくなると考えられるため、ほ場巡回を行い早期発見に努め

- る。本虫と疑われる幼虫を発見した場合には、速やかに病害虫防除所に連絡する。
- (2) 施設栽培では、施設開口部を防虫ネットで被覆する。特に、ネギアザミウマが認識できない赤色ネットの侵入抑制効果が高い。
- (3) 発病株は伝染源となるため、見つけ次第抜き取り、適切に処分する。
- (4) ほ場内外の雑草や収穫残渣は、ウイルスの感染源やアザミウマの増殖源となるため、除草や残渣の持ち出しを徹底する。



写真1 ほ場におけるネギのえそ条斑症状



写真2 ネギ葉身のえそ条斑



写真3 癒合したえそ条斑



写真4 トルコギキョウのえそ輪紋症状



写真5 発病程度が激しく変形した葉



写真6 ネギアザミウマ幼虫(左)と成虫(右)

表 IYSVによる感染が確認されている主な植物

科名	植物名
ユリ科	ネギ・タマネギ・ニラ・ニンニク・ラッキョウ・テッポウユリ
リンドウ科	トルコギキョウ
アルストロメリア科	アルストロメリア
ヒガンバナ科	スイセン・アマリリス
アヤメ科	ダッチアイリス
アブラナ科	ダイコン・ハクサイ・ブロッコリー・ミズナ・イヌガラシ・スカシタゴボウ・タネツケバナ・ナズナ
セリ科	ニンジン
カタバミ科	カタバミ
キク科	チチコグサモドキ・ノボロギク
ゴマノハグサ科	オオイヌノフグリ・トキワハゼ
シソ科	ホトケノザ
スベリヒユ科	スベリヒユ
スミレ科	パンジー
ナデシコ科	コハコベ・オランダミミナグサ・ノミノフスマ

4 防除情報

本年度は、10回発表した。

令和3年度防除情報第1号

令和3年(2021年)4月23日
滋賀県病害虫防除所

茶園におけるチャノコカクモンハマキの被害に注意しましょう

対象作物：チャ

病害虫名：チャノコカクモンハマキ（第1世代）

甲賀市水口町に設置したフェロモントラップによると、チャノコカクモンハマキの越冬世代成虫の発生時期が平年より12日早く、発生量が急激に増加しており、茶園における本種の被害が平年より多くなる可能性が高まっています（図）。

このため、第1世代幼虫の発生量が多くなり、一番茶の摘採が遅い茶園では、一番茶芽への被害が予想されますので注意して下さい。

なお、第1世代幼虫を対象に防除を実施する場合は、一番茶摘採前の防除となりますので、薬剤の摘採前日数や、隣接茶園への飛散に十分注意して下さい。

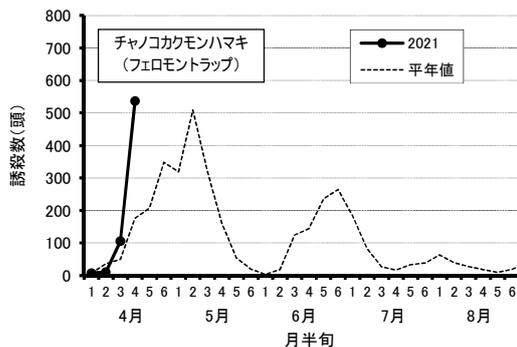


図 フェロモントラップによるチャノコカクモンハマキ成虫誘殺数の推移（甲賀市水口町）



写真 フェロモントラップによるチャノコカクモンハマキ成虫誘殺の状況（2021/4/21撮影）

令和3年度防除情報第2号

令和3年(2021年)5月28日
滋賀県病害虫防除所

トビイロウンカの発生状況について

対象作物：イネ

病害虫名：トビイロウンカ

海外から飛来するトビイロウンカは、昨年秋に西日本各地の水稲ほ場で坪枯れ症状を引き起こし、大きな損害を与えました。滋賀県においても、令和元年、2年と連続で坪枯れ症状が認められました。

今年は近畿地方での梅雨入りが平年より約3週間早く、梅雨前線に伴う中国大陸からの下層ジェット気流に乗じて、早くもトビイロウンカの飛来が始まっています。滋賀県へも5月17日、18日、21日に下層ジェット気流が届いています。

現在のところ、県内5か所に設置した予察灯ではトビイロウンカの誘殺は確認しておりません。しかし、近隣府県ではすでに誘殺を確認しており、本県へも飛来している可能性があります。

このため、これから移植する水稲では、ウンカ類に登録のある育苗箱施薬剤を用いま

しょう。また、今後の状況によっては、本田防除が必要になる可能性があります。現地での発生状況に注意するとともに、病虫害防除所が発信する情報等に十分留意してください。

令和3年度防除情報第3号

令和3年(2021年)6月8日
滋賀県病虫害防除所

県内各地の余剰苗(置き苗)で葉いもちの発生が確認されています。
今後のほ場での発生状況に注意しましょう！

対象作物：イネ
病虫害名：葉いもち

水稻の補植用余剰苗(置き苗)は、葉いもちの伝染源となります。余剰苗でのいもち病の発生時期は、やや早く、県内各地で発生を確認しています。伝染源を減らすために、余剰苗を土に埋めるなどして、早急に処分しましょう。

また、大阪管区气象台6月3日発表の1か月予報によると、6月2週目～4週目は平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。

そのため、今後もいもち病の感染好適条件が出現する可能性があります。いもち病が発生しやすいほ場(育苗箱施薬剤を施用していないほ場、日当たりや風通しの悪いほ場等)を中心に回り、発生を確認したら適切に防除しましょう。なお、薬剤の使用にあたっては、県農作物病虫害雑草防除基準を参照してください。

令和3年度防除情報第4号

令和3年(2021年)7月2日
滋賀県病虫害防除所

葉いもちの早期発見に努めましょう！

対象作物：イネ
病虫害名：葉いもち

6月28日～29日に実施した巡回調査では、葉いもちの発生は平年並でしたが、6月中旬以降、いもち病の感染好適日が県内各地で断続的に出現しています(表)。

また、大阪管区气象台7月1日発表の向こう1か月の気象予報では、7月3日～9日は平年に比べ曇りや雨の日が多い見込みで、葉いもちに感染しやすい気象となることが予想されます。

葉いもちは穂いもちの伝染源となるため、いもち病が発生しやすいほ場(育苗箱施薬剤を施用していないほ場、日当たりや風通しの悪いほ場等)を中心に回り、必要に応じて防除しましょう。なお、薬剤の使用にあたっては、県農作物病虫害雑草防除基準を参照し、収穫前日数に十分注意してください。

表 BLASTAMによる葉いもち感染好適日の判定結果

	今津	長浜	米原	南小松	彦根	東近江	大津	信楽	土山
6月15日 火	●	-	-	-	-	-	-	-	-
6月16日 水	-	-	-	●	-	●	●	-	●
6月17日 木	○4	-	○4	-	●	●	●	-	●
6月18日 金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月19日 土	-	-	-	-	-	-	●	○4	-
6月20日 日	-	●	-	●	●	●	●	-	●
6月21日 月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月22日 火	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月23日 水	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月24日 木	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月25日 金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月26日 土	-	-	-	-	-	●	-	●	-
6月27日 日	-	-	●	●	●	-	●	-	-
6月28日 月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月29日 火	-	-	-	○4	●	●	-	●	-
6月30日 水	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月1日 木	-	-	-	-	-	-	-	-	-

[JPP-NET版BLASTAMの判定結果の指標]
● 好適条件(蒸騰時間中の平均気温が15～25℃であり、蒸騰時間が蒸騰時間中の平均気温ごとに必要な時間を満たし、当日を含めてその日以前5日間の日平均気温の平均値が20～25℃の範囲にある。)
○1 準好適条件(蒸騰時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が20℃未満)
○2 準好適条件(蒸騰時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が25℃以上)
○3 準好適条件(蒸騰時間は10時間以上であるが、蒸騰時間中の平均気温が15℃～25℃以外)
○4 準好適条件(蒸騰時間が蒸騰時間中の平均気温ごとに必要な時間数より短い)
?..判定不能
BLASTAMとは、気象庁のアメダステータを用いてイネの葉面蒸騰時間を算出し、葉いもちに感染しやすい気象条件が生じたかを推定するモデル。

令和 3 年(2021 年) 7 月 20 日
滋賀県病虫害防除所

斑点米カメムシ類を適期に防除しましょう

対象作物：イネ

病虫害名：斑点米カメムシ類（クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシなど）

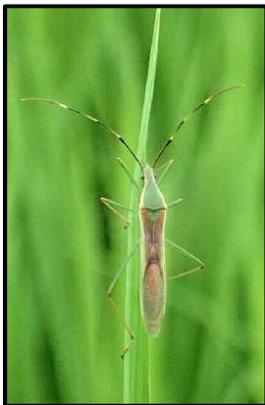
7 月 6 日～14 日に実施した、畦畔での斑点米カメムシ類のすくい取り調査において、一部地域でクモヘリカメムシ、ホソハリカメムシなど大型カメムシの発生量が多くなりました。特に、クモヘリカメムシの平均生息数は 4.9 頭（平年 1.9 頭）、ホソハリカメムシは 8.2 頭（平年 3.7 頭）で、いずれも過去 10 年で 2 番目の発生量となりました。

今後、イネが出穂すると畦畔や雑草地から水田内に侵入し、加害するおそれがあります。適期に防除を実施し、被害を未然に防ぎましょう。

斑点米カメムシ類に対する、イネの出穂期以降の薬剤防除適期は以下のとおりです。

- ①ほ場周辺の畦畔や雑草地にカスミカメムシ類（アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ）が多い場合は、乳熟期頃（出穂 7～10 日後）に防除を実施する。
- ②イネの穂揃期に大型の斑点米カメムシ類（クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ）が確認できるほ場では、糊熟期頃（出穂 16 日後を中心に 10～20 日後）にも防除を実施する。

なお、雑草管理が不十分な畦畔（イネ科雑草が出穂）をイネの出穂後に除草すると、かえって本田内に斑点米カメムシ類を追い込むことになります。やむなく除草する場合は、薬剤防除の前日に実施してください。



クモヘリカメムシ



ホソハリカメムシ

令和 3 年(2021 年) 8 月 6 日
滋賀県病虫害防除所

斑点米カメムシ類を確実に防除しましょう

対象作物：イネ

病虫害名：斑点米カメムシ類

（クモヘリカメムシ、イネカメムシ、アカスジカスミカメなど）

早生品種の出穂期を迎え、7 月 26 日～8 月 4 日に県内 33 地点で本田すくい取りを実

施したところ、局地的にクモヘリカメムシ、イネカメムシ、アカスジカスミカメの発生量が多いほ場があり、全体のすくい取り虫数を引き上げたため、50回すくい取り当たりの斑点米カメムシ類合計虫数の平均は14.6頭（平年4.2頭）と、この10年で最も多くなりました。

ただし、本田防除を実施済みのほ場では、防除未実施のほ場と比較して、斑点米カメムシ類のすくい取り虫数は少なく（表）、薬剤による高い防除効果が認められました。

ここ数年、早生品種出穂期の斑点米カメムシ類発生量は、やや多く、本年も同様の傾向にあります。早生品種で防除が未実施のほ場や、今後出穂する中生・晩生品種ほ場では、ほ場をよく観察して確実に防除を実施し、被害を未然に防ぎましょう。

斑点米カメムシ類に対する、イネの出穂期以降の薬剤防除適期は以下のとおりです。

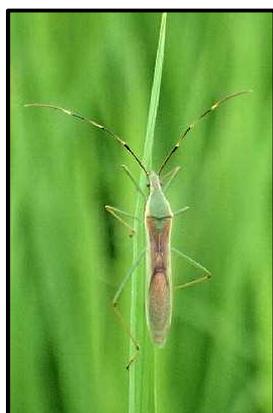
- ①ほ場周辺の畦畔や雑草地にカスミカメムシ類（アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ）が多い場合は、乳熟期頃（出穂7～10日後）に防除を実施する。
- ②イネの穂揃期に大型の斑点米カメムシ類（クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ）が確認できるほ場では、糊熟期頃（出穂16日後を中心に10～20日後）にも防除を実施する。

表 水稲早生品種出穂期における斑点米カメムシ類すくい取り調査結果（7/26～8/4実施）

【本田・防除未実施】												
地域名		H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R02	平年	R03
全 県	50回すくい取り虫数	2.4	5.8	7.8	6.4	2.6	6.8	5.7	8.0	10.9	6.3	18.8
	発生地点率	87.5	68.8	54.5	66.7	71.4	80.0	54.5	76.0	84.2	71.5	84.0

【本田・防除実施】												
地域名		H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R02	平年	R03
全 県	50回すくい取り虫数	0	0.3	0.6	1.2	1.1	0.4	0.9	0.9	2.3	0.8	1.4
	発生地点率	0	28.6	28.6	20.0	26.7	40.0	57.1	28.6	58.3	32.0	50.0

R03防除未実施：25ほ場、防除実施：8ほ場



クモヘリカメムシ



イネカメムシ



アカスジカスミカメ

令和3年度防除情報第7号

令和3年(2021年)8月17日
滋賀県病害虫防除所

茶園におけるチャノホソガの多発に注意！

対象作物：チャ

病害虫名：チャノホソガ（第3世代）

農業技術振興センター 茶業指導所（甲賀市水口町）内に設置しているフェロモントラップにおける、チャノホソガ第3世代成虫の累積誘殺数が平年の3.6倍となり（図）、過去10年間で最も多くなりました。

今後、幼虫による巻葉や虫糞による被害の増加が予想されます。三、四番茶新芽への産卵状況を確認してから、防除を実施しましょう。

防除上注意すべき事項

- (1) 新葉の裏側をよく観察し、水滴状の卵等を確認してから、三角巻葉前の卵～潜葉初期に防除を行う。
- (2) 昆虫成長制御剤は卵の時期に、他の薬剤は幼虫潜葉初期に散布する。

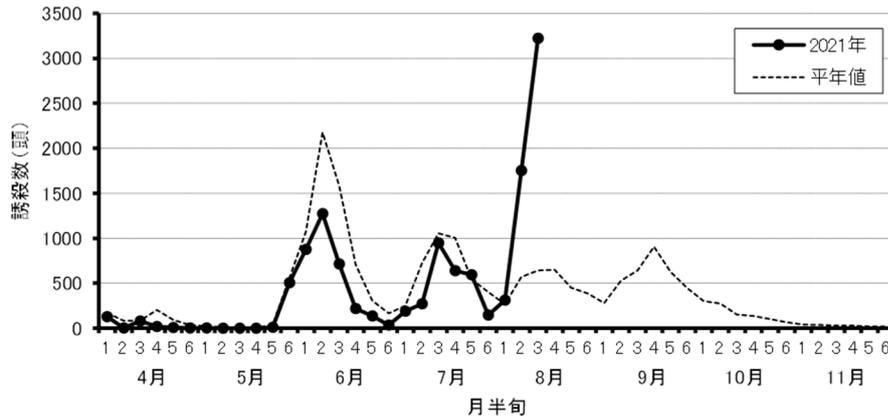


図 フェロモントラップでのチャノホソガ誘殺数の推移(甲賀市水口町)

令和3年度防除情報第8号

令和3年(2021年)8月18日
滋賀県病害虫防除所

穂いもちの防除を確実に！

対象作物：イネ

病害虫名：穂いもち

7月上旬に行った調査において、葉いもちの発生ほ場率は高く（令和3年度病害虫発生予察注意報第1号参照）、8月中旬に行った調査では、早生品種において穂いもちの発生を県内各地で確認しています。

また、大阪管区気象台8月12日発表の向こう1か月の気象予報では、降水量は多く、日照時間は平年並または少ない見込みで、穂いもちに感染しやすい気象条件が予想されます。

このため、今後出穂期を迎える中生および晩生品種では、穂いもちの発生が懸念されます。そこで、いもち病が発生しやすいほ場（育苗箱施薬剤を施用していないほ場、日当たりや風通しの悪いほ場等）を中心に見て回り、出穂前に葉いもちの発生が認められたほ場では、適期に防除しましょう。

防除上注意すべき事項

- (1) ほ場の状況をよく確認し、適期に防除する。
 - ・粉剤、液剤(水和剤・乳剤等)は穂ばらみ期～出穂期に散布する。穂いもちの発生が多い時は、さらに穂揃期～乳熟期にも防除する。
 - ・粒剤は種類により施用時期が異なるので、ラベルをよく読んで適期に散布する。
- (2) 薬剤の使用にあたっては、県農作物病害虫雑草防除基準を参照し、収穫前日数に十分注意する。
- (3) 薬剤耐性菌を生じやすいので、同一グループ薬剤の連用を避ける。

果樹カメムシ類の被害に注意しましょう！

病虫害名：水稲果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ）
対象作物：果樹（カキ）

果樹カメムシ類は、カキ、ナシ、ブドウ等の果実を吸汁し、落果や奇形果を生じさせます。

花・果樹研究部（栗東市荒張）内に設置した予察灯での果樹カメムシ類の誘殺数が、9月第4半旬に急増し（図）、1,350頭(平年139.6頭)と、過去10年間で最も多い誘殺数になりました。

今後、気温は高く推移すると予想されることから、果樹カメムシ類の活動が活発になり、果樹園への飛来が増加し、被害の発生が懸念されます。園内をよく見回り、飛来を確認した場合は防除を実施しましょう。

防除上注意すべき事項

- (1) 気温が高く、風の弱い夜に飛来する習性があるため、早朝か夕方に防除を行う。
- (2) 局地的に飛来し、集中的に加害する傾向があるため、各園地で見回りを行う。
- (3) 山林隣接園や過去に被害を受けた園では特に注意する。

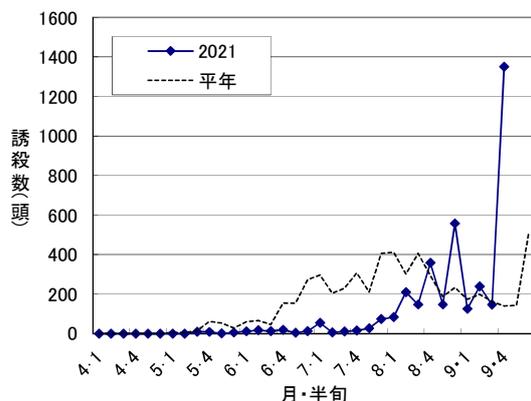


図 予察灯でのカメムシ類誘殺数の推移（栗東市荒張）

タマネギべと病の発生に注意

対象作物：タマネギ
病虫害名：べと病

3月14～15日に県内全域のタマネギ栽培ほ場（16ほ場）でタマネギべと病（写真1、2）の調査を行ったところ、発生ほ場率は46.7%、発病株率は1.6%と、複数のほ場で発病株が認められました。

大阪管区气象台発表の近畿地方の1か月予報（3月17日発表）によると、期間の1週目は平年に比べ晴れの日が少ないと予想されており、本病の発生を助長する気象条件が続くと予想されます。下記を参考に防除対策を徹底して、被害の拡大を防止しましょう。

防除上注意すべき事項

- （1）前年発生があったほ場や、例年発生が認められるほ場では、特に注意して発生状況を確認する。
- （2）越年り病株や、症状が激しい二次感染株の発生を認めた場合、速やかに発病株を抜き取り、ほ場からの持ち出しを徹底する。
- （3）発病株の抜き取り後は、治療効果のある薬剤で早急に防除を実施する。
- （4）本病の発生が認められない場合でも、孢子飛散による感染を防ぐため、感染前の予防散布を徹底する。
- （5）ほ場に水が溜まると、発病を助長するため、排水対策を徹底する。



写真1 越年り病株



写真2 二次感染病斑

5 事務連絡

本年度は、2回発表した。

コムギ赤かび病の発生状況と今後の対応について

令和3年(2021年)5月21日
滋賀県病害虫防除所

今年は、5月に入り気温が低い日があったことから、播種期の遅いコムギについては出穂期以降の生育が緩慢となっています。また、今年は過去最も早い梅雨入りが発表され、降雨が多いことから、コムギの赤かび病対策と今後の収穫・乾燥・調製の指導については、以下の点に留意願います。

1. 現在の発生状況

現在、コムギ赤かび病の発生状況は発生地点率が、やや高いものの、発生程度は平年並になっています。病害虫防除所の調査(5/10~12)によると、コムギ赤かび病発生地点率は約60%となっています。

2. 追加防除について

適期に播種されたコムギについては、まもなく成熟期を迎え、新たな赤かび病の感染拡大の可能性は低いと思われます。しかし、11月下旬以降に播種したコムギについては、開花期が遅く、新たな感染の可能性があるため、ほ場での発病状況を確認して、追加防除を検討してください。

3. 収穫・乾燥・調製時の注意事項

刈り遅れは、赤かび病菌によるかび毒(DON・NIV)の産生を助長する原因となることから、適期に確実に収穫することが必要です。収穫したムギを長時間放置することは避け、通風などにより水分を低下させましょう。

また、共同乾燥調製施設においては、荷受け時に必ず、赤かび病被害粒のチェックを行い、赤かび病被害粒が認められた場合には、必要に応じてその他のムギとは別に乾燥するなど仕分けをしてください。



図 赤かび病被害粒



図 赤かび病発病穂

トビイロウンカの発生状況と今後の対応について

令和3年(2021年)7月15日
滋賀県病害虫防除所

今年は例年になく早い梅雨入りで、中国大陸からの下層ジェット気流が例年より早く日本に到達し、本県へもトビイロウンカが飛来したおそれがあります。このため、6月

28日～7月12日にかけて、病虫害防除所と各地域農産普及課で、県内69地点のすくい取り調査を行いました。トビイロウンカは確認されませんでした。

また、7月12日現在、県内5地点に設置した予察灯でも、トビイロウンカの誘殺は確認していません。

早生品種の「みずかがみ」「コシヒカリ」などでは、被害（坪枯れ）が発生する可能性は低いと考えられますが、生育調査等でほ場に入られた際は、イネの株元にトビイロウンカが生息していないか観察し、発生を認めたら、県病虫害雑草防除基準に基づき、防除指導をお願いします。

中生・晩生品種については、7月下旬にトビイロウンカが飛来した場合でも、被害（坪枯れ）が発生する可能性があります。引き続き病虫害防除所の発信する情報に留意してください。

○本県の病虫害防除所業務の発表・広報・研修会等

- ・滋賀県農薬安全指導者協議会「農薬の安全使用」研修会
令和3年7月6日（火） 男女共同参画センター
トビイロウンカの発生と適正防除について 近藤博次
- ・スクミリンゴガイ実証展示ほ防除対策研修会
令和3年7月21日（水） J Aレーク滋賀中主営農経済センター
実証展示ほの調査結果について 近藤博次
- ・令和3年度普及指導員専門養成研修における集合研修
令和3年10月14日（木） 農業技術振興センター中会議室
農薬の適正使用と危被害防止、主要農作物病虫害について 金子 誠
- ・令和3年度スクミリンゴガイ防除対策研修会
令和3年12月13日（月） J Aレーク滋賀中主営農経済センター
スクミリンゴガイ実証ほの取組結果および防除対策マニュアルについて
. 近藤博次
- ・令和3年度カメムシ類等難防除害虫の発生状況と防除対策に関する検討会
令和4年3月17日（木） オンライン開催
滋賀県でのイネカメムシの発生は地域差と年次変動が大きい
. 北野大輔

○本県の病害虫防除所業務の発表・広報・研修会等

- ・滋賀県農薬安全指導者協議会「農薬の安全使用」研修会
令和3年7月6日（火） 男女共同参画センター
トビイロウンカの発生と適正防除について 近藤博次
- ・スクミリンゴガイ実証展示ほ防除対策研修会
令和3年7月21日（水） J Aレーク滋賀中主営農経済センター
実証展示ほの調査結果について 近藤博次
- ・令和3年度普及指導員専門養成研修における集合研修
令和3年10月14日（木） 農業技術振興センター中会議室
農薬の適正使用と危被害防止、主要農作物病害虫について 金子 誠
- ・令和3年度スクミリンゴガイ防除対策研修会
令和3年12月13日（月） J Aレーク滋賀中主営農経済センター
スクミリンゴガイ実証ほの取組結果および防除対策マニュアルについて
. 近藤博次
- ・令和3年度カメムシ類等難防除害虫の発生状況と防除対策に関する検討会
令和4年3月17日（木） オンライン開催
滋賀県でのイネカメムシの発生は地域差と年次変動が大きい
. 北野大輔

第6 試験成績

(1) IPMの環境保全効果の評価

1) QoI 剤耐性イネいもち病の県内分布調査

ア 目的

2012年に西日本の数県において、QoI 剤耐性イネいもち病菌の発生が認められた。その後、2014年には、本県内95ほ場のうち9ほ場において、QoI 剤耐性イネいもち病菌の発生を認めた。耐性菌の発生を受け、2015年以降の滋賀県病害虫雑草防除基準より、QoI 剤(水稻)を削除している。2020年度に実施した耐性菌検定では耐性菌は確認されなかったが、今後QoI 剤が使用される可能性を考慮し、QoI 剤耐性イネいもち病菌の県内分布調査を実施する。

イ 方法

県内全域の水稻ほ場からいもち病罹病サンプルを採取し、1ほ場につき1~3菌株のいもち病菌を抗生物質添加PDA培地で分離した後に、100ppmのアゾキシトピレン添加培地で検定した。

ウ 結果の概要

県内30地点(図1)よりいもち病菌89菌株を分離した。各菌株を100ppmのアゾキシトピレン添加培地で培養したところ、菌の増殖は認めらず、全て感受性菌であった(図2)。2014年の耐性菌発生地域(大津市関津、甲賀市信楽町黄瀬、東近江市川合町)で採取した菌株においても、耐性菌は検出されなかった。

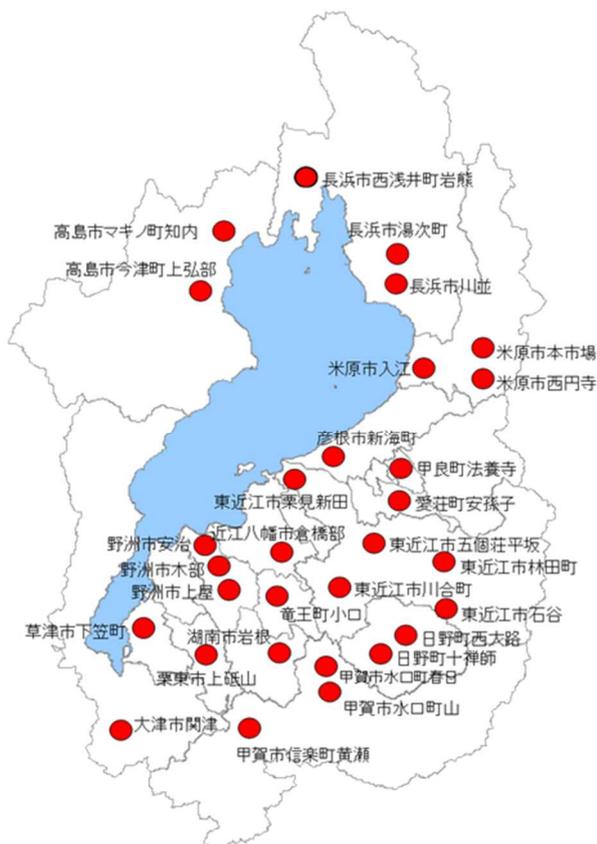


図1 いもち病菌サンプル採取地点(30地点)

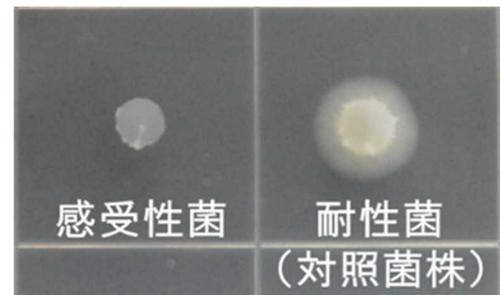


図2 100ppmアゾキシトピレン培地上での感受性検定
採取したいもち病菌をPDA培地(100ppmアゾキシトピレン添加)で25℃、3日間培養した。
感受性菌はQoI 剤(アゾキシトピレン)により生育が抑制されるが、耐性菌は抑制されず伸長する。
対照菌株として、2014年センター保存耐性菌を使用した。

2) 収量・品質への影響を考慮したイネ紋枯病の要防除水準の設定

ア 目的

イネ紋枯病の防除の目安として、極早生～早生品種は発病確認後即時、中生～晩生品種は出穂20日前の発病株率が15～20%以上と示されている。この基準は減収率5%を被害許容水準として設定しているが、品質面は考慮されておらず、平成6年に設定されて以降、見直しが行われていない。近年、気候変動や紋枯病の防除圧低下により発生程度が高止まりしていることから、特に問題となっている「みずかがみ」において、イネ紋枯病が収量・品質に与える影響および要防除水準を検証する。

イ 方法

ア) 供試ほ場：140号田（新農薬委託試験および資材試験ほ場） 土性：壤土

イ) 供試品種：「みずかがみ」、移植：5月13日、栽植密度は条間33cm×株間15cm、施肥：基肥にみずかがみ専用基肥一発肥料（13-5-5）を60kg/10a施用、追肥と穂肥は施用なし。出穂期は7月30日、成熟期は8月26日。

ウ) 試験区：1区を連続した50株とし、任意に36区設置した。多段階の発病株率を得るため、紋枯病に効果のある薬剤を育苗箱施用した区（12区、2薬剤）と、紋枯病菌（滋賀農技セ保存菌株）を施用した区（24区、7月12日に2.5倍量の乾燥もみ殻と混和し、約20L/10aを株元散布により接種）を設置した（図1）。

1：無処理	2：育苗箱施 薬剤施用 (A剤)	3：育苗箱施 薬剤施用 (B剤)	4：無処理	5：カラシナ すき込み	6：無処理
-------	------------------------	------------------------	-------	----------------	-------

注1) 「無処理」には、栽培期間中、紋枯病に登録のある薬剤を散布していない

注2) 紋枯病菌は1～4区画に株元散布により接種した（7月12日）

注3) 試験区は1～6の各区画ごとに任意で6区（1区：連続した50株）設置した

図1 試験区の概要

エ) 調査方法・項目

(1) 紋枯病の発病調査：発病株率（7月16日、21日、29日、8月5日、10日、25日）および発病高率、被害度（8月25日、羽柴法）を調査した。

(2) 収量調査：9月1日に1区当たり50株を刈り取り、自然乾燥後、脱穀および籾摺を行い、精玄米重と千粒重を調査した。

ウ 結果の概要

ア) 接種を行った無処理区の平均発病株率は94.7%、全体の被害度は48.4となり、多発生条件下での試験となった（データ省略）。

イ) 出穂1日前（7月29日）の発病株率を基に、調査区を6段階に区分したところ、出穂1日前に発病株率が60%以上になると、発病株率1%程度前後と比較して、減収率が10%前後となり、千粒重も低くなる傾向が見られた（表1）。

ウ) 精玄米重と発病株率の相関がもっとも高くなる出穂9日前（7月21日）の発病株率と全体の被害度には高い正の相関が認められた（図2）。また、7月21日の発病株率と精玄米重には負の相関が認められた（図3）。

エ) 図3の回帰式より、減収率5%となる発病度は、7月21日の発病株率が20.8%以上の場合となるが、寄与率が $R^2=0.22$ であり、他の要因が精玄米重に関与している可能性が示唆された。

以上のことから、「みずかがみ」においても、出穂期前後の発病を抑制する必要があるが、要防除水準の設定には他の減収要因を考慮した上での検討が必要であると考えられた。

表1 紋枯病の発病株率の推移と全体の被害度および収量調査結果

発病程度別 区分	調査 区数	発病株率 (%)						病斑 高率	発病株の 被害度	全体の 被害度	精玄米重 (kg/a)	減収率 (%)	屑米重 (kg/a)	千粒重 (g)
		7/16	7/21	7/29	8/5	8/10	8/25							
1%前後	14	0.6	1.4	1.4	2.9	2.3	4.9	2.1	1.8	0.1	62.2	0	5.3	20.1
6%前後	5	2.4	4.8	6.0	9.2	11.6	15.2	6.8	6.1	1.2	62.6	-	6.3	20.3
15%前後	8	1.5	9.3	14.8	15.3	13.5	39.3	17.6	15.8	7.0	61.6	0.9	3.0	20.2
30%前後	3	4.7	8.7	31.3	36.0	43.3	62.7	31.2	30.2	19.2	62.9	-	3.8	19.8
60%前後	3	6.7	47.3	62.7	78.0	84.0	93.3	48.8	48.8	45.9	55.2	11.3	5.6	19.8
80%前後	3	9.3	35.3	78.7	85.3	91.3	96.0	52.0	53.1	51.0	57.0	8.4	6.0	19.7

注1) 7月29日の各区の発病株率をもとに程度別に分類した

注2) 病斑高率および被害度は8月25日に調査した。被害度は、以下に示す羽柴式被害度の調査法により算出した。

発病株の被害度 = 1.62 × 病斑高率 - 32.4、全体の被害度 = 発病株の被害度 × 発病株率 / 100

注3) 精玄米重および千粒重は、粒厚1.8mm以上、水分14.5%相当とした。減収率は発病株率1%前後区の精玄米重に対する減収割合

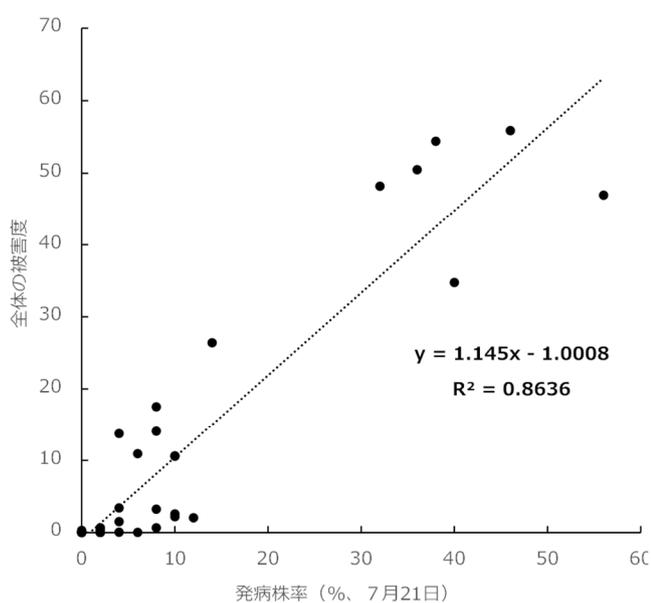


図2 7月21日の発病株率と全体の被害度
の関係

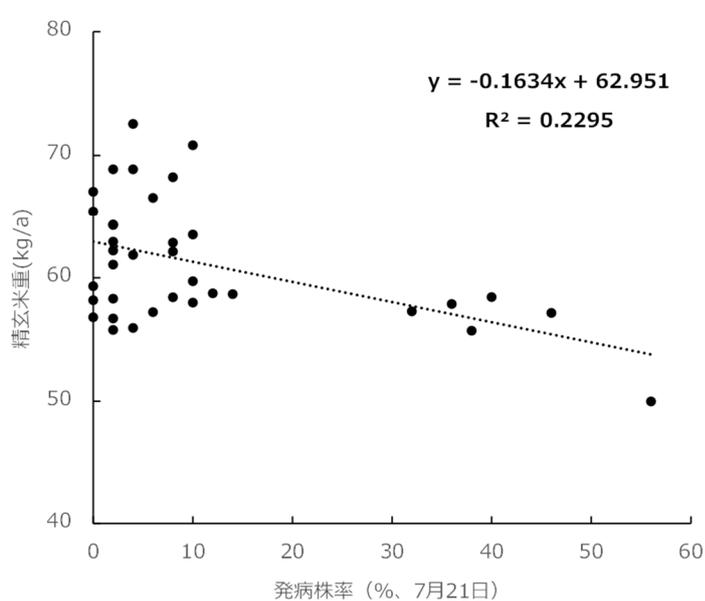


図3 7月21日の発病株率と精玄米重
の関係

3) トマト黄化葉巻病の管理手法の検証

ア 目的

トマト黄化葉巻病による被害の低減を目指し、トマト黄化葉巻ウイルスを媒介するタバココナジラミの化学合成農薬に依存しないIPM防除体系について検証する。

イ 方法

ア) 供試ほ場

耐候性ハウス (8m×13m) A棟およびB棟 畝間：180cm、ベッド長：7m、ベッド数：4

イ) 試験区

各区：1ベッド 34株、1ベッドを1区とした

ハウス	品種	忌避剤	気門封鎖剤	ハウス	品種	忌避剤	気門封鎖剤
A棟	罹病性	-	+	B棟	罹病性	-	-
		+	+			+	-
	耐病性	-	+			耐病性	-
		+	+			+	-

ウ) 耕種概要

播種：7/1、定植：8/6 肥培管理、栽培管理は慣行に準じた。

供試品種：罹病性品種：CF 桃太郎ファイト 耐病性品種：桃太郎ピース
薬剤散布

育苗期：7/30 プリフルキナゾン水和剤を全供試苗に散布

本ほ期：8/10、20、31、9/10、22、10/1、13、21、11/1、12、24

忌避剤(グリセリン酢酸脂肪酸エステル乳剤)および気門封鎖剤(調合油乳剤)を対象の処理区に散布

※サビダニ多発生によりピフェナゼート乳剤を9/30に散布

エ) 調査項目

- ・各ベッド上2か所に設置した黄色粘着板上のコナジラミ虫数
- ・黄化葉巻病の発生量調査

ウ 結果の概要

ア) 試験期間を通じたコナジラミ虫数は、無処理区>忌避剤区≒気門封鎖剤区>忌避剤+気門封鎖区となった。ハウス内気温が低下する10月下旬以降、無処理区では10日間付着数が最大1000頭/枚以上になったが、忌避剤+気門封鎖剤区では50頭/枚程度に抑制された(図1)。

イ) 定植から48日後の9/22に無処理区と忌避剤区の罹病性品種でトマト黄化葉巻病の初発生が確認された。初発生株を起点として隣接株への感染が拡大していく傾向がみられた。一方で、耐病性品種では、試験期間を通じて発病は確認されなかった(図2、3)。

ウ) 12/1時点で罹病性品種の黄化葉巻病発病株数は、無処理区>忌避剤区≒気門封鎖剤区>忌避剤+気門封鎖区となった。無処理区では100%の発病株率となったのに対して、忌避剤+気門封鎖剤区では約17%と抑制された(図2、3)。

以上より、忌避剤と気門封鎖剤の組み合わせは、それぞれを単独で用いた場合よりコナジラミ虫数と黄化葉巻病の発病数を抑制できることが明らかとなり、IPM防除体系の技術として有用であると考えられた。

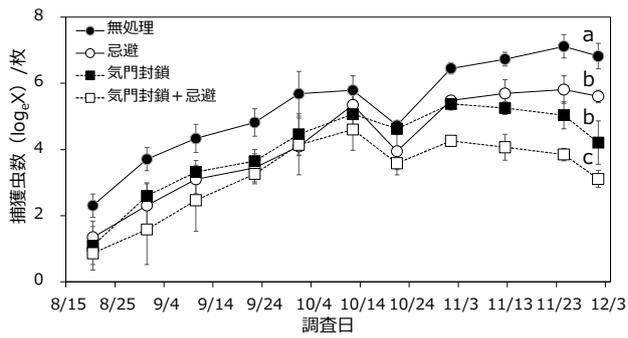


図1. 黄色粘着板に付着したコナジラミ虫数の推移
各薬剤処理区に設置した黄色粘着板4枚に付着した虫数の平均を対数変換した値の推移を示した。異なる英小数字間は区間で虫数に有意な差があることを示す(LMM、事後検定のWald検定とHolm法による調整、 $P < 0.01$)。エラーバーは標準偏差を示す。

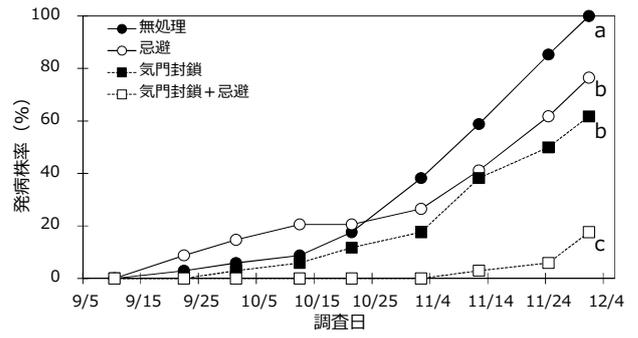


図2. 黄化葉巻病発生株率の推移 (罹病性品種)
各薬剤処理区の罹病性品種34株について、黄化葉巻病の発生株率の推移を示した。異なる英小数字間は区間で発病株率に有意な差があることを示す(フィッシャーの正確確率検定とHolm法による調整、 $P < 0.01$)。

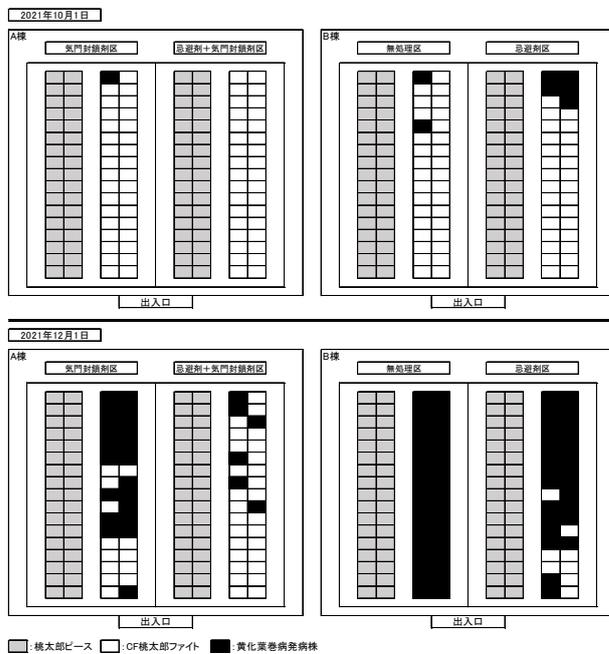


図3. 黄化葉巻病の発病状況

4) 粘着板トラップを用いたイネカメムシの発生予察手法の検証

ア 目的

1970年代には本県の斑点米カメムシの主要種であったイネカメムシ（小島・内田 1974）は、1980年代から発生が減少し、水田での発生は2000年頃まで確認されていなかった（田中 2000）。しかし、2007年以降、県内で毎年発生が確認されており、発生地点率は低いながらも増加傾向にある。令和2年度の本種の発生地点率は11.1%であり、再び発生が確認されるようになった2007年以降で最も高くなった。本種の発生は局所的ではあるが、特に山間地に近いほ場での発生が目立っている。本種は籾の基部を吸汁加害し、斑点米を生じさせるだけでなく、不稔を引き起こし減収させる（平江 2022）ため、今後の発生状況を注視する必要がある。そこで、本種の調査法として報告されている粘着板トラップ（石島ら 2020）の、本県での有用性を検証した。

イ 方法

(ア) 粘着板トラップを用いた調査

大津市関津および甲賀市信楽町黄瀬の各地点あたり2筆の水田にトラップ（図1）を1基ずつ設置した。トラップには、石島ら（2020）の白色粘着板トラップを一部改良し、上下方向に防鳥糸を10 cm 間隔で張ったものを用いた。設置したほ場の水稲品種は、いずれも「みずかがみ（大津市関津：5月23日移植・甲賀市信楽町黄瀬：5月6日移植）」であった。粘着板の高さは石島ら（2020）にしたがい、イネの草丈が低い期間は地上40 cm とし、草丈が40 cm を超えてからはイネの草冠高とした。トラップは2021年6月28日から8月18日の間設置し、捕獲個体数の記録と粘着板の交換を1～2週間に1度行った。

(イ) すくい取り調査

トラップの有用性を評価するため、同時にすくい取り調査を実施した。すくい取り調査は口径36 cm の捕虫網を用いて、水田1筆あたり10回振りで行い、トラップを設置した水田を含む各地点5筆の水田で実施した。調査日は7月9日、26日および8月16日であった。

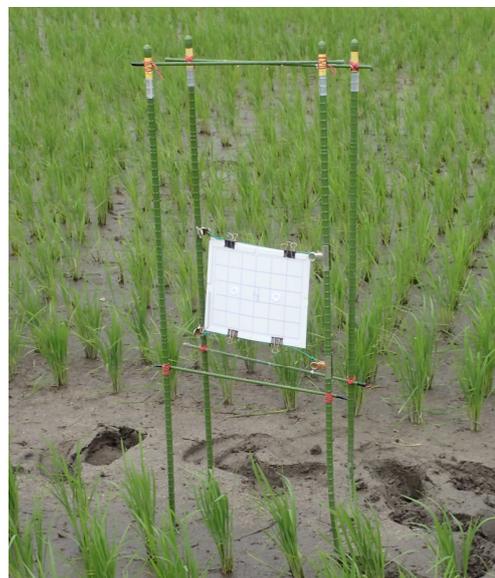


図1. 大津市関津の水田内に設置した白色粘着板トラップ。（2021年6月28日撮影）

ウ 結果の概要

(ア) イネカメムシ発生量調査における粘着板トラップの有用性

大津市関津に設置したトラップでは、調査期間を通して、イネカメムシが捕獲されなかった。すくい取り調査では、8月16日に1頭のみが捕獲された。

甲賀市信楽町黄瀬に設置したトラップでは、7月9日、26日および8月16日にイネカメムシが1頭ずつ捕獲された（図2a）。すくい取り調査では、7月26日に33頭が捕獲された。トラップでの捕獲数がすくい取り法での捕獲数よりも少ない傾向は、石島ら（2020）の報告と同じであった。

本種による不稔米発生防止のための防除適期は、出穂期～出穂後8日前後と考えられている

(本田ら 2021)。甲賀市信楽町黄瀬の調査水田のイネは7月26日の時点で穂揃期であり、粘着板トラップではより早い7月9日にイネカメムシを捕獲したことから、粘着板トラップは、防除適期とされる出穂期よりも早い時期に本種の多発をモニタリングできる可能性がある。

(イ) 斑点米カメムシ他種への適用可能性

粘着板トラップを用いた調査において、イネカメムシ以外の斑点米カメムシとしてクモヘリカメムシを捕獲した。本種は、大津市関津のほ場に設置したトラップでは捕獲されず、すくい取り調査では、8月16日に2頭のみが捕獲された。

甲賀市信楽町黄瀬のほ場に設置したトラップでは、7月9日に21頭、26日に18頭、8月4日と16日にそれぞれ2頭が捕獲された(図2b)。すくい取り調査では、7月9日に1頭、26日に42頭が捕獲された。

クモヘリカメムシが出穂期以降に多発した地点において、出穂期よりも早い7月9日に粘着板トラップで本種を多数捕獲できた。以上の結果から、イネカメムシと同様に、クモヘリカメムシの多発を出穂期より早い時期にモニタリングできる手法として、粘着板トラップを用いた調査は有効な可能性がある。

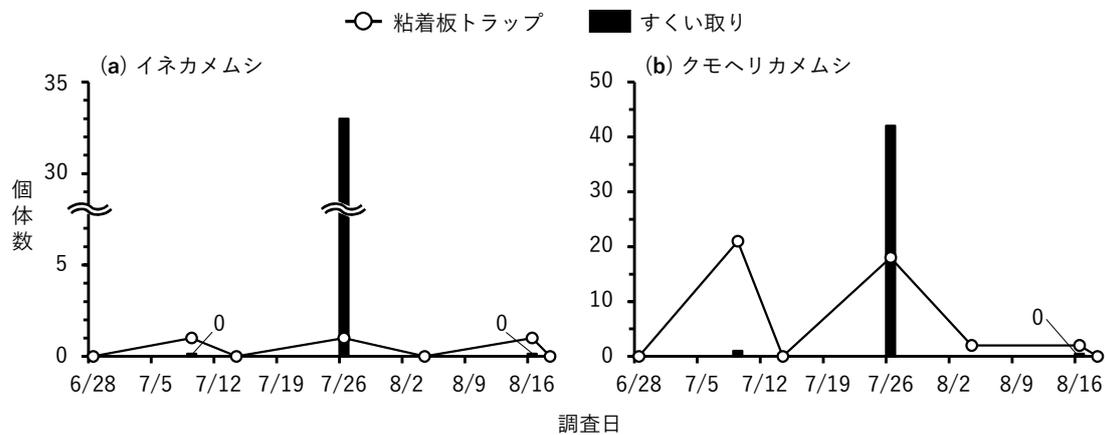


図2. 甲賀市信楽町黄瀬における (a) イネカメムシおよび (b) クモヘリカメムシの捕獲個体数。白丸シンボルは粘着板トラップ2基の、黒色バーはすくい取り調査(計50回振り)の捕獲個体数を示す。

5) ハイマダラノメイガの効率的な予察手法の検証

ア 目的

ハイマダラノメイガはアブラナ科野菜の害虫であり、特に生育初期の生長点部に潜入・加害することから、適期防除が必須であり、発生時期・消長につき従前より調査を行っている。現在は、おとり植物であるクレオメを用いて調査を行っているが、近年クレオメでの寄生率は低く、発生消長を把握することが難しくなっている。そこで、より現状に即したハイマダラノメイガの発生消長を把握するために、本来の寄主植物であるアブラナ科野菜を用いた、簡便な調査方法の有効性について検証を行った。

イ 方法

2022年7月16日に、ダイコン（品種：「耐病総太り」）およびキャベツ（品種：「初秋」）の種子を128穴セルトレイに播種した。農業技術振興センター内施設で育苗後、8月10日にセンター内ほ場にダイコンおよびキャベツ苗（本葉3枚程度）をそれぞれ60株（株間15cm×条間30cm、3条）定植した。8月16日に再び播種し、同様の方法で育苗した苗を、植え替えに用いた。

ハイマダラノメイガの寄生状況調査は9月7日と9月16日に行った。寄生された株は引き抜き、植え替え用苗に植え替えた。同じほ場内にクレオメを植栽しており、株当たり寄生虫数について比較を行った。

ウ 結果の概要

今年度は、クレオメへのハイマダラノメイガの寄生は、9月中旬に1頭確認されたのみであったが（図1. 左）、ダイコンとキャベツでは、より多くの寄生を確認し（図1. 右）、特にダイコンへの寄生虫数がクレオメへの寄生虫数の平年値よりも多かった。よって、ハイマダラノメイガの寄生状況の調査には、ダイコン苗を用いた方法が有効と考えられた。

しかし、ダイコン苗を128穴トレイで育苗し、ほ場に継続的に移植・管理することは労力がかかることから、育苗方法やほ場管理について改善が必要である。そのため、従来より用いているクレオメを用いた調査と併用する形で、ハイマダラノメイガの初発確認等に本方法を用いることが有効と思われる。

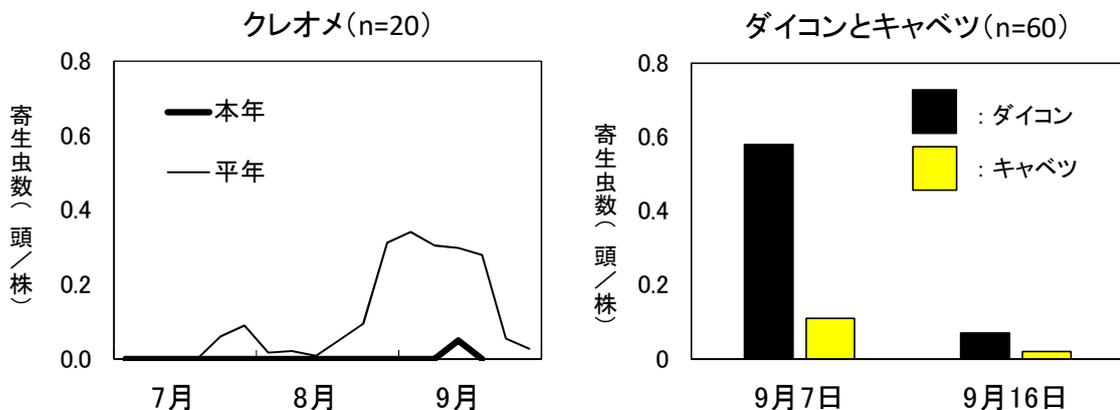


図1. クレオメとダイコン・キャベツへのハイマダラノメイガ寄生虫数

7) スクミリングガイの総合的防除体系の確立

ア 目的

近年、関東東海地域や近畿地域において問題となっているスクミリングガイによる被害を抑えるために、防除上の諸課題を共有するとともに、地域の実情に応じたスクミリングガイ防除体系を検討し、これら体系技術の有効性を検証する。本課題では、本県でスクミリングガイの被害が目立つ地域において、冬期耕うんと農薬散布等を組み合わせた総合防除体系を設計し、その防除効果を検証する。

イ 方法

(ア) 防除体系モデルの効果の検証

昨年度、生産者に対し聞き取りを実施し、各生産者で実施可能な防除体系を設計した。防除体系には①冬期耕うん（低速：0.6km/h、超低速：0.2km/h）、②農薬散布（1回または2回）、③浅水管理が含まれており、表1に示した地域・ほ場において実施した。

表1 各調査地域での実証内容

地区	実証地域	ほ場数	面積	実証内容
野洲市①	須原	6筆	156.3a	冬期耕うん(耕うん速度の違いによる差(0.2km/h, 0.6km/h)) 冬期耕うん(0.6km/h) + 農薬散布(1回) 農薬散布(散布回数の違いによる差(1.2回)) 浅水管理(水深3~4cm)
野洲市②	安治	5筆	122.2a	冬期耕うん(耕うん速度の違いによる差(0.2km/h, 0.6km/h)) 冬期耕うん(0.6km/h) + 農薬散布(1回) 農薬散布(散布回数の違いによる差(1.2回))
野洲市③	堤	4筆	115.0a	冬期耕うん(0.6km/h) 冬期耕うん(0.6km/h) + 農薬散布(1回) 農薬散布(1回)
野洲市④	野田	3筆	122.0a	冬期耕うん(0.6km/h) + 農薬散布(1回) 農薬散布(1回)
野洲市⑤	入町	5筆	120.8a	冬期耕うん(耕うん速度の違いによる差(0.2km/h, 0.6km/h)) 冬期耕うん(0.6km/h) + 農薬散布(1回) 農薬散布(散布回数の違いによる差(1.2回))
1地区	5地域	23筆	636.3a	

(イ) 研修会の開催

生産者等を対象とし、実証ほど取り組んだ防除技術や、その結果を周知するための研修会を開催した。

ウ 結果の概要

(ア) 防除体系モデルの効果の検証

①冬期耕うんによる防除効果の検証

冬期耕うんを実施した14ほ場で、耕うん前（令和2年10月22日）と、耕うん後の翌春の入水前（令和3年4月6日）に掘り取り調査を行った。掘り取りは、1ほ場1か所の1㎡（1m×1m、深さ6cm）で行い、殻高15mm以上の生貝、死貝数を数え、貝の死亡率を調べた。冬期耕うん前と春期入水前における貝の死亡率を比較したところ、冬期耕うん前は低速区（0.6km/h）で2.0%、超低速区（0.2km/h）で0%であったが、翌春の入水前調査では両区とも100%であり、低速による冬期耕うんの高い殺貝効果が確認できた（図1）。

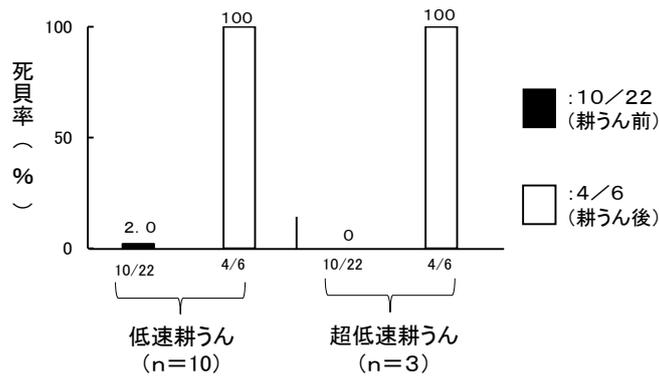


図1 冬期耕うんによる殺貝効果。nは、ほ場数を表す。

②農薬散布による防除効果の検証

水稻移植直後と6月上旬頃（移植4週間後）に、農薬「スクミノン」「スクミンベイト3」を散布し、殺貝効果について調査した。調査は1ほ場5か所（1か所：0.3×10m）で、見取りにより行い、殻高15mm以上の個体のみ計数した。農薬散布回数は、スクミリングガイの発生状況と生産者の意向により決定し、1回または2回の散布とした。なお2回散布を行うほ場は、同一の農薬を2回散布した。

移植直後に「スクミノン」「スクミンベイト3」を散布すると、移植7～10日後の貝の密度を一旦抑える傾向にあったが、移植3～4週間後には個体数が再び増加するほ場も多かった（図2）。これは、ほ場内での新たな越冬個体の出現、隣接ほ場等からの侵入があり、農薬による殺貝効果よりも、増加数が多かったことが要因として考えられる。

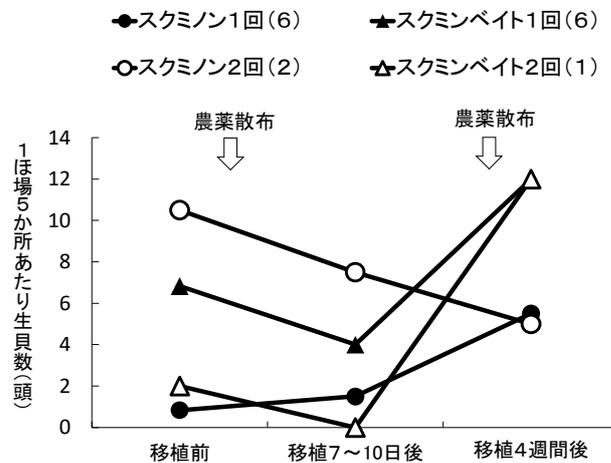


図2 農薬の種類・散布回数と生貝数の推移。凡例の（ ）内の数字は、ほ場数を表す。

③自動給水栓設置による浅水管理

ほ場内水深を常に4cm以下に保つことで、スクミリングガイの摂食活動が抑制されることが明らかとなっている。そこで自動給水装置（積水化学工業株式会社製「水まわりくん」）を設置し、常に水深4cm程度に保つ浅水管理実証ほを1ほ場設けた。

移植4週間後に、図2と同様に1ほ場5か所において、1か所25株あたりの欠株数を調査したところ、浅水管理ほ場の欠株率は1.6%であり、同時期の地区内他ほ場（22ほ場）の平均欠株率（3.0%）を下回り、摂食被害抑制効果が確認された。

④各技術のまとめ

①から③で述べた実証技術を比較するため、「耕うん速度」「農薬散布回数」「耕うん+農薬・浅水管理」のパターンに分け生貝数を比較した(図3)。地域・ほ場間で潜在的な貝密度のばらつきがあり、隣接するほ場・水路等からの侵入の有無もあることから、単独の技術だけでは移植4週間後まで貝の密度を低く抑えることは困難だと思われる。しかし超低速耕うん(0.2km/h)を行ったほ場では、移植7~10日後までの貝密度を極めて低く抑えることが実証され、移植直後の被害を抑制するためには最も効果的であると思われる。

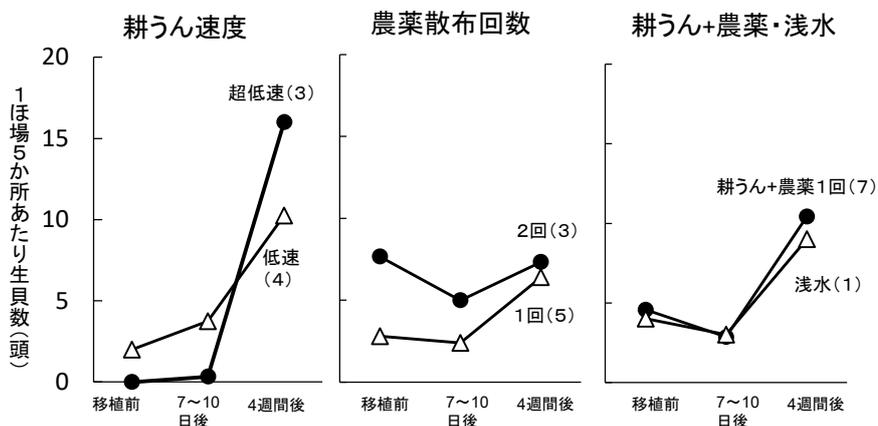


図3 各防除技術パターン実施による生貝数の推移。()内数字は、ほ場数を表す。

(イ) 研修会の開催

実証ほ調査結果の速報的な報告会を7月に開催し、実証ほ担当生産者の意見交換を行った。本田での防除に加え、水路等からの侵入防止策等について意見交換がなされた。

12月には防除対策研修会を開催し、農研機構より全国的なスクミリンゴガイの発生状況や、本事業に取り組んでいる他府県の実証ほの内容につきご講演いただいた。また県より実証ほの結果につき再度詳細を説明した上で、実証ほ結果に基づく、滋賀県版のスクミリンゴガイ防除対策マニュアル(案)の説明を行った。

エ まとめ

本県では、令和3年のスクミリンゴガイ発生量が、常発地である実証ほ設置地区においても少発生がほとんどで、一部のみ中発生に留まった。このため各防除技術の実証において、地域・ほ場間差が大きく、効果確認がしづらい状況にあった。その中でも冬期耕うん、特に超低速(0.2km/h)での実施による移植直後のスクミリンゴガイ密度抑制効果が顕著に認められたことは非常に有意義であった。

冬期の「低速耕うん」を基本技術とし、ほ場での発生状況に応じて農薬散布または浅水管理を行うことも、望ましいと思われるが、現場のニーズに沿った、実施可能な総合的防除体系の導入を推進していく必要がある。

令和3年度植物防疫事業年報
発行 令和4年(2022年)3月
滋賀県病害虫防除所

〒521-1301 近江八幡市安土町大中516
TEL : 0748-46-4926、6160
FAX : 0748-46-5559
Email : gc70@pref.shiga.lg.jp
<http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/>